

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第256集

東村遺跡群  
山伏木遺跡

長野県佐久市上平尾山伏木遺跡発掘調査報告書

2019.3  
佐久市教育委員会







佐久市埋蔵文化財調査報告書 第256集

東村遺跡群  
山伏木遺跡

長野県佐久市下平尾山伏木遺跡発掘調査報告書

2019.3  
佐久市教育委員会





山伏木道跡空中写真



山伏木道跡 D18 号土坑出土土器

口絵 2



山伏木遺跡 D19 号土坑出土土器



山伏木遺跡埋甕 1

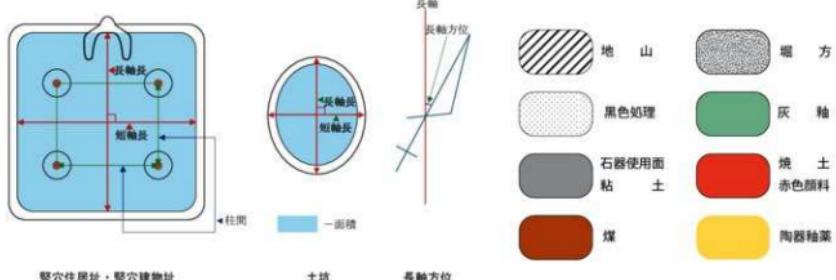
## 例　　言

- 1 本書は長野県佐久市に所在する山伏木遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は森泉建設工業が行う宅地造成工事に伴う記録保存を目的に佐久市教育委員会が実施した。
- 3 遺跡名及び所在地　　山伏木（S H Y）　　佐久市下平尾 1274-6 他
- 4 調査期間及び面積　　発掘作業　平成元年 6月 28日～7月 20日  
整理作業　平成元年 7月 21日～平成 2年 3月 31日  
平成 29年 4月 3日～平成 31年 3月 31日  
調査面積　1,900m<sup>2</sup>
- 5 発掘作業及び平成 2年 3月 31日までの整理作業については、原因者負担により実施し、平成 29年 4月 3日～平成 31年 3月 31日までの整理作業及び報告書刊行は全額を国庫補助金及び市費の公費により作成した。（平成 29・30 年度市内遺跡発掘調査事業）
- 6 本書に掲載した地図は佐久市発行の都市計画図（1：2,500）、佐久市教育委員会作成の遺跡詳細分布図（1：5,000）である。
- 7 本書に掲載した遺構図は簡易造り方で作成されたものを、㈱ CUBIC「遺構君」に取り込みデジタル化し、Adobe イラストレーターで調整した。
- 8 遺物実測図は、当時の調査担当者が作成したものはそのまま使用し、未実測のものは手取り実測し、Adobe イラストレーターでデジタルト.LayoutStyle="list-item-l1">ルースした。
- 9 遺構写真は当時の調査担当者が撮影したモノクロネガをスキャニングし、遺物写真はデジタル一眼レフカメラで撮影し、Adobe フォトショッピングで補正を行った。
- 10 本書の作成は Adobe インデザインを用い小林が行った。
- 11 本書及び発掘調査の図面・写真などの記録及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡　　例

- 1 遺構の略記号は竪穴住居址 - H、土坑 - D、集石土坑 - S D、竪穴建物址 - T a、ピット - P である。
- 2 採図の縮尺は遺構 1／80、遺物 1／4 を基本とする。これ以外のものは採図中に縮尺を記した。
- 3 遺構の海拔標高は、水糸標高をスケール上に「標高」と記してある。
- 4 土層の色調は 1999 年版「新版標準土色帖」に基づいた。
- 5 調査区グリッドは公共座標の割りにしたがい、4 × 4 m 間隔で設定されている。座標は旧測地系である。
- 6 遺物採図番号、遺物写真番号、遺物観察表番号は一致する。
- 7 遺構の計測値は下図に示した部分の測定値である。面積は床面積、壁残高は最大値である。
- 8 採図中の網掛けは以下の表現である。

\* D19 号土坑 1 の土器について綿田弘実、寺内隆夫の両氏に貴重な教示を得た。記して感謝の意を表します。



## 目 次

例言・凡例

目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯 .....	11
第1節 調査の経緯 .....	11
第2節 調査体制 .....	11
第3節 遺跡周辺の環境 .....	12
第4節 検出遺構・遺物の概要 .....	14
第Ⅱ章 遺構と遺物 .....	15
第1節 住居址 .....	15
第2節 土坑 .....	24
第3節 集石土坑 .....	43
第4節 積穴建物址 .....	54
第5節 埋甕 .....	54
第5節 ピット .....	55
第6節 遺構外出土遺物 .....	55
第Ⅲ章 まとめ .....	57
写真図版 1～28	
報告書抄録	
奥付	

## 挿図目次

第1図 山伏木遺跡の位置 (1:5,000) .....	11
第2図 周辺遺跡分布図 .....	13
第3図 遺跡周辺字切図 .....	14
第4図 基本層序模式図 .....	15
第5図 H 1号住居址 .....	16
第6図 H 2号住居址 .....	17
第7図 H 3号住居址 (1) .....	17
第8図 H 3号住居址 (2) .....	18
第9図 H 4号住居址 (1) .....	20
第10図 H 4号住居址 (2) .....	21
第11図 H 5号住居址 (1) .....	22
第12図 H 5号住居址 (2) .....	23
第13図 H 5号住居址 (3) .....	24
第14図 H 6号住居址 (1) .....	25
第15図 H 6号住居址 (2) .....	26
第16図 H 7号住居址 .....	27
第17図 土坑 1 .....	27
第18図 土坑 2 .....	28
第19図 土坑 3 .....	29
第20図 土坑 4 .....	30
第21図 土坑 5 .....	33
第22図 土坑 6 .....	34
第23図 土坑 7 .....	35
第24図 土坑 8 .....	36
第25図 土坑 9 .....	37
第26図 土坑 10 .....	38
第27図 土坑 11 .....	39
第28図 土坑 12 .....	40
第29図 土坑 13 .....	41
第30図 土坑 14 .....	42
第31図 土坑 15 .....	43
第32図 集石土坑 .....	45
第33図 集石土坑 .....	46
第34図 集石土坑 .....	47
第35図 集石土坑 .....	48
第36図 集石土坑 .....	49
第37図 集石土坑 .....	50
第38図 集石土坑 .....	51
第39図 積穴建物址 (1) .....	52
第40図 積穴建物址 (2) .....	53
第41図 埋甕 .....	53

第42図 ピット出土遺物	55
第43図 ピット(1)	56
第44図 ピット(2)	57
第45図 遺構外出土遺物(1)	58

第46図 遺構外出土遺物(2)	59
第47図 遺構外出土遺物(3)	60
第48図 遺構外出土遺物(4)	61
第49図 山伏木遭跡全体図	75

## 表目次

遺構計測表(1)	52
遺構計測表(2)	53
H 1号住居址出土遺物観察表	54
H 2号住居址出土遺物観察表	54
H 3号住居址出土遺物観察表(1)	54
H 3号住居址出土遺物観察表(2)	55
H 4号住居址出土遺物観察表(1)	55
H 4号住居址出土遺物観察表(2)	56
H 5号住居址出土遺物観察表(1)	56
H 5号住居址出土遺物観察表(2)	57
H 6号住居址出土遺物観察表(1)	57
H 6号住居址出土遺物観察表(2)	58
H 7号住居址出土遺物観察表	58
D 2号土坑出土遺物観察表	58
D 3号土坑出土遺物観察表	59
D 4号土坑出土遺物観察表	59
D 5号土坑出土遺物観察表	59
D 6号土坑出土遺物観察表(1)	59
D 6号土坑出土遺物観察表(2)	60
D 7号土坑出土遺物観察表	60
D 9号土坑出土遺物観察表	60
D 10号土坑出土遺物観察表	60
D 15号土坑出土遺物観察表	60
D 18号土坑出土遺物観察表(1)	60
D 18号土坑出土遺物観察表(2)	61
D 18号土坑出土遺物観察表(3)	62
D 18号土坑出土遺物観察表(4)	63
D 18号土坑出土遺物観察表(5)	64
D 19号土坑出土遺物観察表	64
S D 1号土坑出土遺物観察表(1)	64
S D 1号土坑出土遺物観察表(2)	65
S D 2号土坑出土遺物観察表	65
S D 3号土坑出土遺物観察表	65
S D 4号土坑出土遺物観察表	65
S D 5号土坑出土遺物観察表	66
S D 6号土坑出土遺物観察表(1)	66
S D 6号土坑出土遺物観察表(2)	67
S D 7号土坑出土遺物観察表	67
S D 8号土坑出土遺物観察表	68
T a 1号竪穴建物址出土遺物観察表	68
T a 2号竪穴建物址出土遺物観察表(1)	68
T a 2号竪穴建物址出土遺物観察表(2)	69
T a 3号竪穴建物址出土遺物観察表	69
埋甕1出土遺物観察表	69
埋甕2出土遺物観察表	69
ピット出土遺物観察表	69
遺構外出土遺物観察表(1)	70
遺構外出土遺物観察表(2)	71
遺構外出土遺物観察表(3)	72
遺構外出土遺物観察表(4)	73



# 第Ⅰ章 発掘調査の経緯

## 第1節 調査の経緯

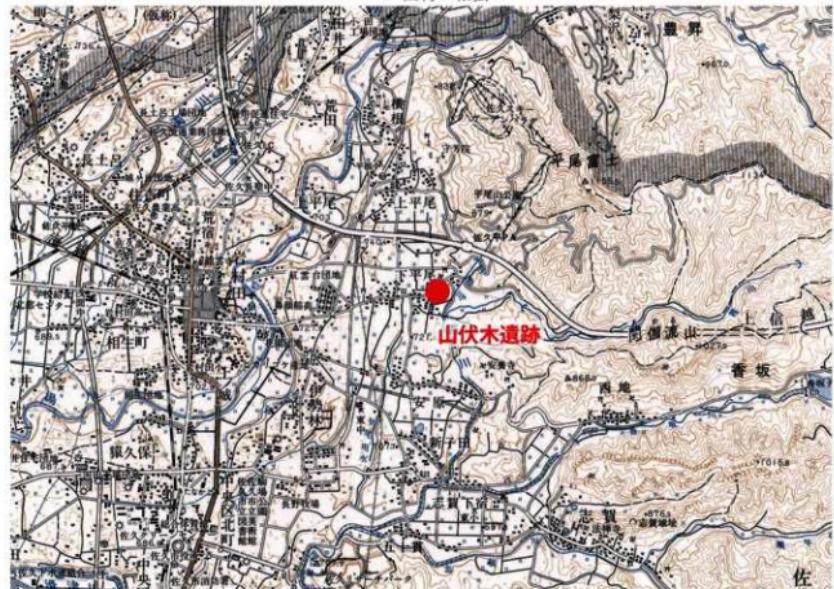
平成元年4月10日、株式会社森泉建設工業より東村遺跡群山伏木遺跡内における宅地造成事業計画に伴う埋蔵文化財発掘の届出が提出された。同年6月26日佐久市教育委員会と株式会社森泉建設工業は保護協議を行ない、記録保存調査を行う事となった。6月28日埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、7月20日に調査を終了後、平成2年3月31日までに、遺物洗浄・注記・調査記録の整理等の作業を完了した。

平成30年度市内遺跡発掘調査事業の一環として本書を刊行した。

## 第2節 調査体制

### 平成元年

調査主体者	佐久市教育委員会	教 育 長	大井 昭二（6月退任）			
			大井 季夫（7月就任）			
事務局	佐久市教育委員会 社会教育課	次 課 長	茂木多喜男			
		次 課 長	北沢 駿			
		主 幹	相沢 幸男			
		係 長	小平 實			
		係 係	東城 公人 小林 正衛 林 幸彦 萩原 一馬			
			山浦 俊彦 須藤 隆司 羽毛田卓也			
			田村 和弘 竹原 学			



第1図 山伏木遺跡の位置 (1 : 5,000)

調査担当者	須藤 隆司	竹原 学
調査主任	佐々木宗昭	
調査員	浅沼ノブ江 大井 文雄 小金沢たけみ 藤巻 辰江	飯沢つや子 柏原 松枝 堺 益子 丸山 勝子
		磯貝 はな 金井八重子 白井おくに 丸山 澄
		市川 香里 香山 優子 内藤 治伸 渡辺久美子

### 平成 29・30 年度

調査主体者	佐久市教育委員会	教 育 長	棚澤 晴樹	
事務局	社会教育部	部 長	荻原 幸一 (29 年度)	青木 源 (30 年度)
	文化振興課	課 長	小林 義夫	
	文化財調査係	企 画 幹 係 長	小林登志朗 (29 年度)	武者新一 (30 年度)
		大塚 広樹 (29 年 9 月まで)		
		塙川 宏幸 (29 年 10 月から)		
		小林 真寿	富沢 一明	上原 学 久保浩一郎
		岩下 琴		
	臨時職員	森泉かよ子		
調査担当者		小林 真寿		
調査員	甘利 隆雄	大矢 志鶴	小林喜久子	小林 敏雄
	堺 益子	清水 律子	田中ひさ子	花岡美津子
	畠籠 滋子	宮川真紀子	山口ひとみ	柳沢 孝子
	柳沢千賀子	山田 叔正	油井 滉芳	

## 第3節 遺跡周辺の環境

### 1 遺跡の地理的環境

遺跡は、佐久山塊の北半部にあたる東部山地の主峰の一つである八風山から西に延びる尾根端部に位置する平尾富士の裾野に湯川により形成された沖積段丘面に立地する。標高は 720 m 台であり、東側の平尾富士の裾野には万助川が南に向かい流下し、途中で閑伽流山より南流した霞川と合流する。下平尾から安原、新子田にかけての香坂川に至る平尾用水東側の水田開発はこの二河川により成し遂げられたものと思われる。東部山地の基盤層は初谷中生層で、その上部に第三紀層類が厚く堆積し、更にその上部に溶結凝灰岩類や荒船火山岩類が分布している。荒船山の台地状地形を形成しているのは、石器石材として使用されるガラス質の安産岩である。また、平尾富士は第三紀火山の死火山であり、これに由来する火山岩類は平尾富士山頂付近から北は湯川左岸、西部は平尾集落、南は霞川まで分布する。遺跡が存在する平地面は地質的には、浅間火山の軽石流二次堆積物に覆われている。土壤は黒ボク土で、植生は水田の雑草群落である。

### 2 遺跡の歴史的環境

遺跡の東方の山地には数多くの古墳群が存在する。その内の大星尻古墳は昭和 63 年に上信越自動車道の工事に伴い長野県埋蔵文化財センターが、また一本松古墳群の 1 号～ 4 号墳は平成 4・5 年平尾山のスキー場開発に伴い佐久市教育委員会が調査を行っている。これら 5 基の古墳は全て 8 世紀の築造であった。上信越自動車道に伴う長野県埋蔵文化財センターの調査は、大星尻遺跡・丸山遺跡・北山寺遺跡・東大久保遺跡・西大久保遺跡で行われており、大星尻遺跡では縄文時代中期前葉～中葉の遺構・遺物や近世墳墓などが検出されている。丸山遺跡からは縄文時代中期初頭や古墳時代前期初頭、平安時代の住居址等が発見されている。北山寺遺跡では平安時代後葉の集落、および中世の遺構群と、近世の墓域が検出されている。東大久保・西大久保の両遺跡では縄文～中世の遺物と、土坑や溝址などの少數の遺構が検出されている。平尾山のスキー場開発に伴っては、下伴助 A・B 遺跡から縄文から中世にかけての遺構・遺物が検出されており、下伴助 A 遺跡では平安時代の集落が発見され

ている。距離的には遺跡からは少し離れるが、西方の一段低い湯川の河岸段丘上に立地する腰巻遺跡では昭和62年佐久市埋蔵文化財調査センターが、また昭和62・63年には長野県埋蔵文化財センターによる調査が実施されており、弥生・古墳・平安時代の集落址が検出されている。発掘調査で出土したものではないが、昭和53年刊行の「平根村誌」に菖蒲平出土の両面加工の石槍が掲載されている。この地域で出土した最も古い時代の遺物であろう。発掘調査されたものは少ないが、周辺部には中世城郭が多く存在する。遺跡の北東に位置する平尾城とその関連施設や、遺跡南方に位置する燕城址、遺跡北方の白岩城跡などである。白岩城跡が平尾氏の居館跡、平尾城が山城とされる。平尾城の縄張想定図は数例が公表されているが、終戦直後の昭和23年米軍により撮影された航空写真を見ると、平尾城に限らず東信濃の山城縄張図は、大きな地形変化面以外はあくまでも参考に留めるべきだと考える。現在は山林であるが、当時は農地や木材の搬出路として山の斜面が使用されている状況が顯著である。平尾氏は、芦田・平原・相木氏などと同じ依田氏である。依田氏は、滋野氏が海野・祢津・望月の三氏に分かれるより以前に滋野氏より出た一族とも言われる。平尾氏関係の居館（白岩城跡）や山城（平尾城等）は15世紀中葉～16世紀末の年代のものであり、そのような背景から、この時期の遺構・遺物がこの地域に散見されるものと思われる。

字切図からみると宮の前・宮の後・宮の西など柴宮神社に係る字名が目に付く、諏訪社であるが毎年の例祭には新柴の仮殿をつくり神体を奉安して祭りをすることから柴宮と呼ばれる。圃場整備により周辺の地形は壊変されているが、かなり大規模な方形の区画が読み取れる。創建年代は不明であるが、神社ではなく、館の可能性もあるのではないかだろうか。高速道南の寺地名一北山寺・中山寺・南山寺・山寺はかつて存在した寺に由来するものであろう。北山寺という字名は溪徳寺西の山中にも存在する。伝承では猫在にはかつて五間四方の塚があり「猫塚」と呼んだそうである。古墳であろうか？また、在家が集落を表すのか館や屋敷を表すのか、注意が必要である。山伏木と言う地名は山間に連なる集落のような意味らしい、東の丸山から続く傾斜面の裾野を言い表したものであろうか。この地域は、現行政区的には下平尾であるが、どちらかといえば安原方面の安養寺や英田神社の関係で捉えたほうが良い場所と思われる。また、新海神社の「神幸」神事に上平尾神幸があることも、この



第2図 周辺遺跡分布図



### 第3図 遺跡周辺字切図

地域の開発が古いことを物語っている。

3 基本層序

基本層序は3層からなる。I層は耕作土で黒褐色(10YR3/2)を呈する。II層は黒色土(10YR2/1)で、ローム粒・パミスを含む。III層は暗褐色(10YR3/3)で径2センチ以下のパミス・ローム粒子を多含する。IV層が所謂「地山」であり、浅間火山の第一軽石流の堆積層である。遺構の検出は基本的に、IV層上面で行った。

#### 第4節 検出遺構・遺物の概要

検出された遺構・遺物の概要は以下のとおりである。

- 遺構 積穴住居址-7軒(縄文・平安)、土坑-20基、集石土坑-8、埋甕-2、竪穴建物址-5  
ピット-42基  
○遺物 縄文土器、土師器、石器、陶磁器

## 第Ⅱ章 遺構と遺物

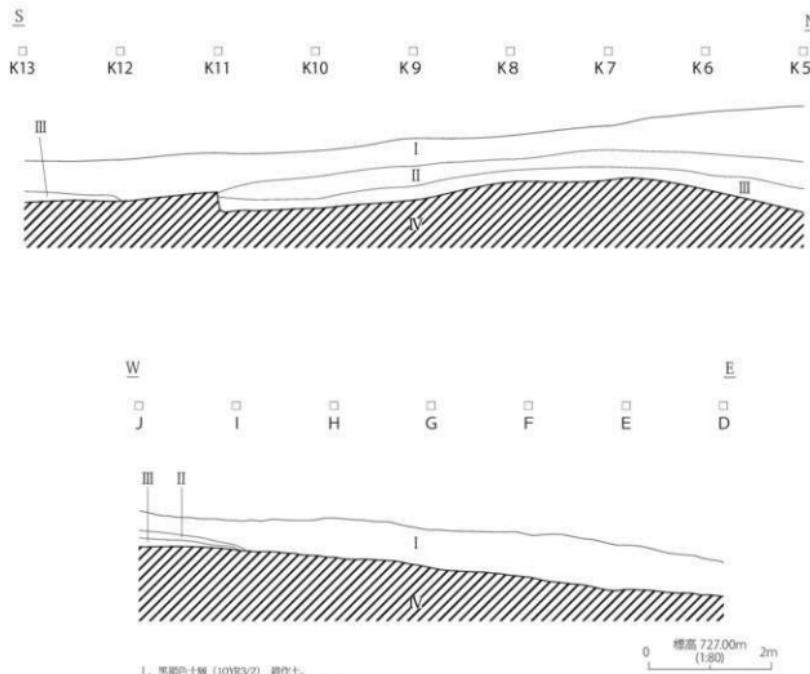
### 第1節 住居址

#### ○H 1号住居址（第5図）

Q3グリッドで検出された。P 9・31・38号ピットに切られ、主軸をN-22°-Wとする。平面形態は隅丸長方形を呈する。長軸長3.81m、短軸長3.38m、壁残高0.11m、面積12.19m<sup>2</sup>の規模を有する。カマドは北壁の東よりに存在するが、掘方状態に破壊されていた。西壁下には周溝が巡り、床面は幅約90cmほど他の床面よりも高くなっている。土層の観察からは住居の建て替えや、遺構の重複関係は認められないことから、所謂「ベッド状遺構」と思われる。ピットは掘方も含め3基検出されているが、主柱穴ではない。

遺物は土師器と石器が出土している。土師器には环・坏蓋・武藏甕が認められる。环はクロコ成型で底部を欠損するが、外底周縁にヘラケズリが施される。内面は黒色処理である。坏蓋は須恵器の模倣形態である。佐久市内の遺跡では、この時期だけ須恵器模倣形態の土師器坏蓋が存在する。内面ヘラミガキ後黒色処理、つまみは貼り付けられている。武藏甕は「コ」字口縁である。石器は打製石斧、横刃型石器、磨石、砥石が出土している。8の磨石、9の砥石は本址に伴う可能性が強いが、他は縄文時代の石器であり混入品と思われる。

以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代V期-9世紀前半の所産と考えられる。



第4図 基本層序模式図

## ○H 2号住居址（第6図）

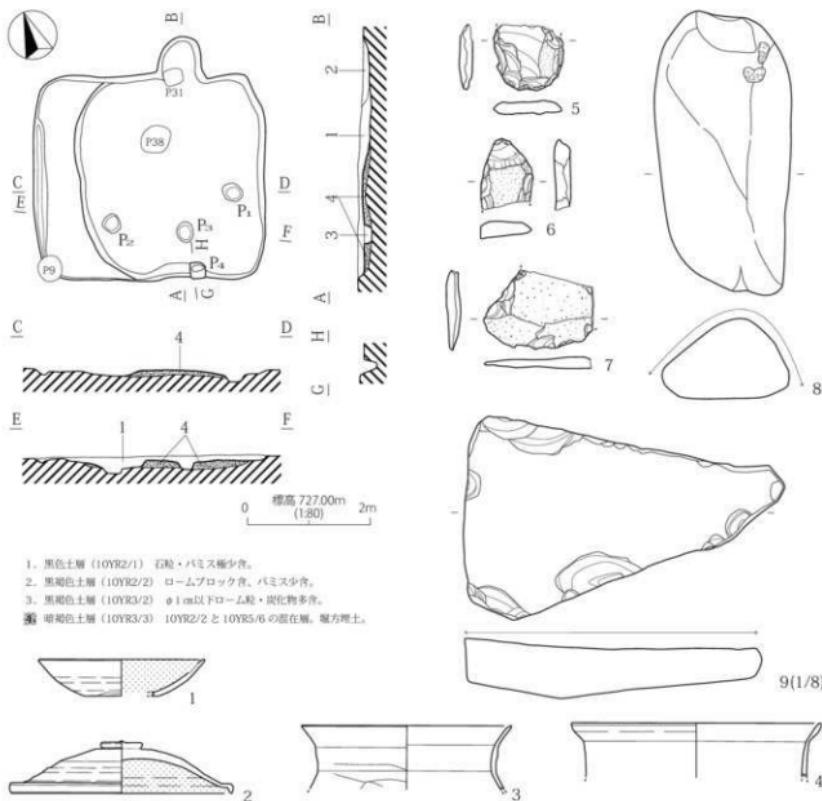
N 4グリット周辺で検出された。P 2・3・39・40号ピットに切られ、ほぼ真北に主軸をとる。北西隅が北東隅よりも張り出し、南北方向の中央部分が窄まる不整な隅丸長方形の平面形を呈する。長軸長3.11m、短軸長2.93m、壁残高0.07m、面積8.17m<sup>2</sup>の規模を有する。カマドは北壁の中央部分に存在するが、掘方状態に破壊されていた。ピットは掘方も含め1基しか検出されていない。周溝は有さない。

遺物は土師器と須恵器が出土している。土師器には壺・甕の器種が認められる。壺のロクロから切り離しは回転系切であるが、その後周縁部分も含めヘラケズリ調整を加えている。内面はヘラミガキ後に黒色処理が施される。2の外面には墨書きが認められるが判読できない。甕は武藏甕とロクロ甕が出土している。須恵器は短頸壺が1点出土している。

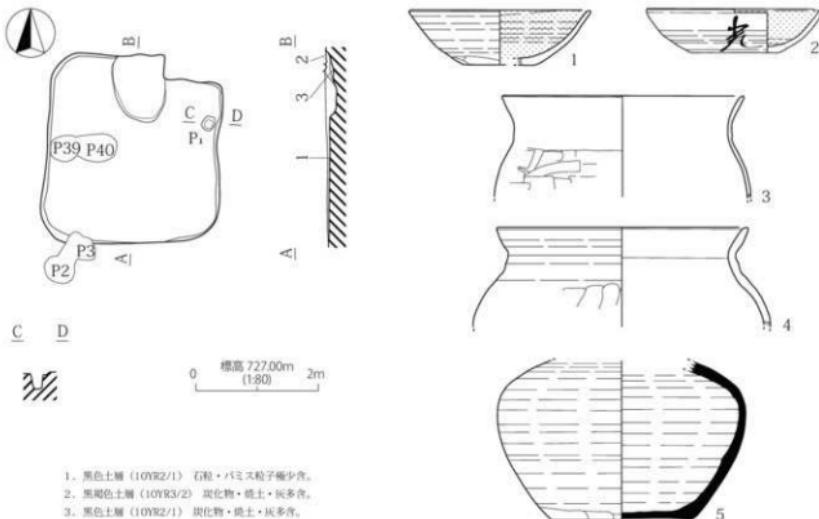
以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代V期—9世紀前半の所産と考えられる。

## ○H 3号住居址（第7・8図）

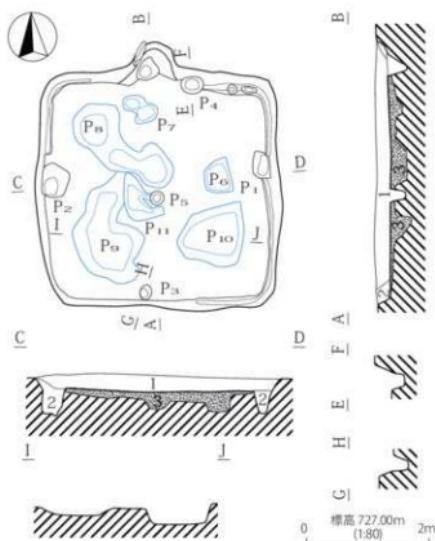
N 3グリット周辺で検出され、他遺構との重複関係は有さない。ほぼ真北に主軸をとる隅丸方形の平面形を呈する。長軸長4.02m、短軸長3.87m、壁残高0.24m、面積12.2m<sup>2</sup>の規模を有する。カマドは北壁中央部分に構



第5図 H 1号住居址



第6図 H2号住居址

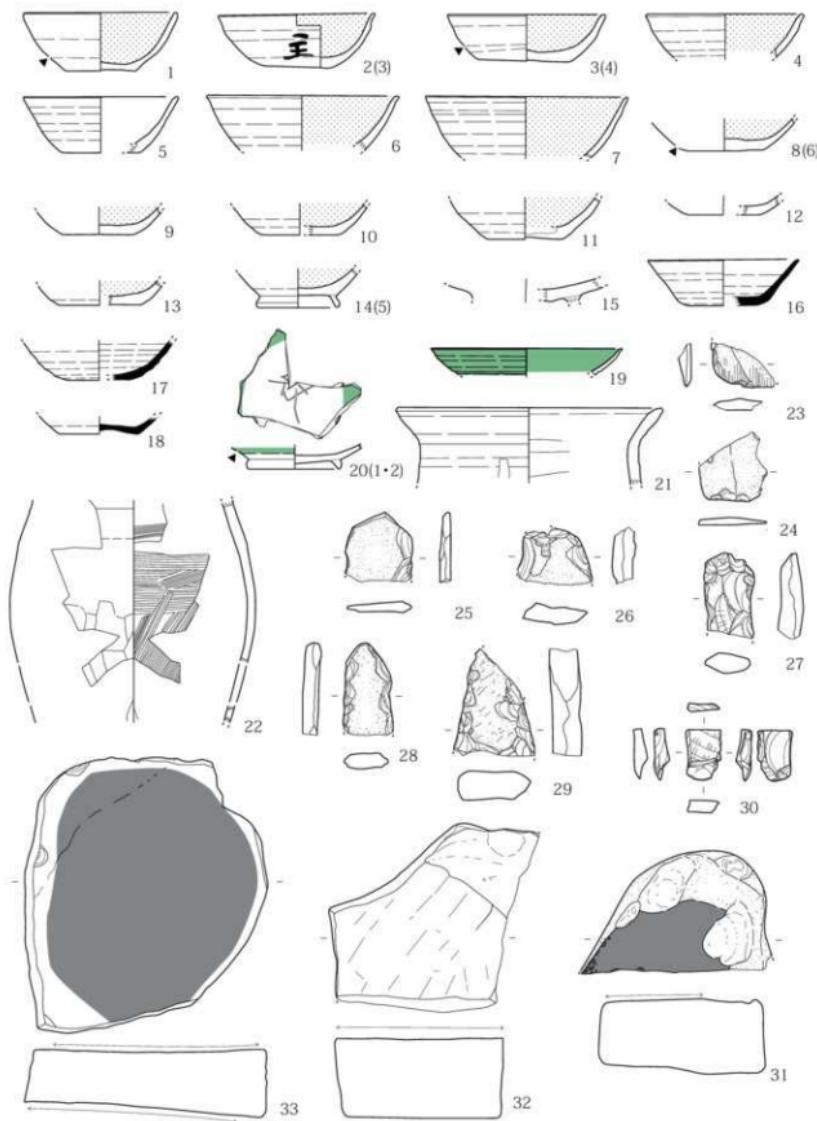


第7図 H3号住居址 (1)

築されるが、掘方状態に破壊されていた。南壁下中央から西壁下中央部分を除く壁下には周溝が巡らされている。P1・P2が主柱穴である。このような、短軸の対応する2辺の壁中央部分に主柱を配置する形態は、奈良時代の小型の住居址には散見されるが、平安時代では本期に特徴的な形態である。P3は出入口施設と思われるが、掘方検出のものも含め、他は性格不明である。カマドは煙道部分の構築材と思われる石が1点だけ残存しており、石芯を粘土で被覆した石組粘土カマドであったものと思われる。

遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、石器が出土している。土師器には壺・碗・甕の器種が認められる。壺・碗の口クロからの切離しは回転糸切で、内面には黒色処理が施される。碗の高台は貼付である。15の碗については盤の可能性もあるが、残存部分が限られるため判断できない。壺2の外面には「主」の墨書きが認められる。甕は2点共にロクロ甕で体部上半はロクロナデ、下半にはヘラナデが施される。

通常はナデ調整により消去されるため痕跡は残らないが、成型には叩きが用いられる。須恵器は壺が3点出土している。ロクロからの切離しは回転糸切で、16は内外面に火拂痕が認められる。灰釉陶器は碗が2点出土した。施釉はつけ掛けである。20の見込みには「財」の一字が刻書されている。石器は打製石斧・加工痕のある剥片・磨石・砥石が出土している。磨石・砥石は本址に伴う可能性があるが、他は縄文時代の



第8図 H3号住居址(2)

石器であり混入品である。

以上の出土遺物の特徴から本址は聖原編年の奈良・平安時代V期—9世紀前半の所産と考えられる。

#### ○H 4号住居址（第9・10図）

I 11 グリット周辺で検出され、カクランに切られるが他遺構との重複関係は有さない。主軸をN-21°-Eにとる。平面形態は円形を呈する。長軸長3.69m、短軸長3.51m、壁残高0.13m、面積9.34m<sup>2</sup>の規模を有する。14基検出されたピットのうち、P1～P4の4基が主柱穴で、P5・P6が出入口施設に伴うものと思われる。出入口部分以外の壁下には周溝が巡らされており、貯蔵穴と思われるP7が出入口の東脇の壁下に存在する。炉は本来方形の石圓炉であったと思われるが、炉石が抜き取られ掘方状態になっていた。位置的には住居の中心からや西北に偏って構築されていた。屋内埋甕は存在しなかった。

遺物は縄文土器・土師器・石器・石製品が出土している。縄文土器は1～34までの34点が出土しているが、2以外は破片である。時期的には1と15が前期、27～34が中期末から後期初頭の他は中期後半のものである。中期後半以外の土器は混入品と思われるが、中期～後期初頭のものは数量的にもまとまっており、本址を切る遺構に伴っていたのかも知れないが、遺構は把握出来なかった。中期後半の土器は加曾利E式が11点と最も多く、次いで所謂「郷土式」が5点、唐草文系が3点、曾利式が2点である。加曾利E式にはIとII式が存在するが、IIが大半を占めている。前期の土器片は1が諸磯b式、15は羽状縄文が施されるが、胎土に織維は含まない。中期末後期初頭の土器は微隆蒂文のものと帶縄文のものがある。土師器35は混入品で、内面黒色処理が施される鉢である。石器・石製品には打製石斧、磨・敲石、石皿、加工痕のある剥片が出土している。打製石斧は28以外の2点は破損している。磨・敲石は1面を磨り面として使用しているが、側面に敲打痕が認められる。石皿は2点共に定型化した石皿の形態ではないが、表裏2面に顕著な使用痕が認められる。加工痕のある剥片はガラス質安産岩製で側辺の1辺に加工を加え刃部を造り出している。

以上の出土遺物の特徴から本址は縄文時代中期後半加曾利E II式期の所産と考えられる。

#### ○H 5号住居址（第11～13図）

G 10 グリット周辺で検出され、Ta2・3・4・5、JD3・カクランに切られる。主軸をN-13°-Wにとる。平面形態は円形を呈する。長軸長5.33m、短軸長4.9m、壁残高0.14m、の規模を有する。16基検出されたピットのうち、P1～P7が主柱穴と思われる。調査範囲部分の壁下には周溝が巡らされている。炉は住居の中心や西北よりに構築されているが、炉石は全て抜き取られており掘方状態であった。炉の東側は長方形に、炉を含め床面よりも僅かに深くなっていた。

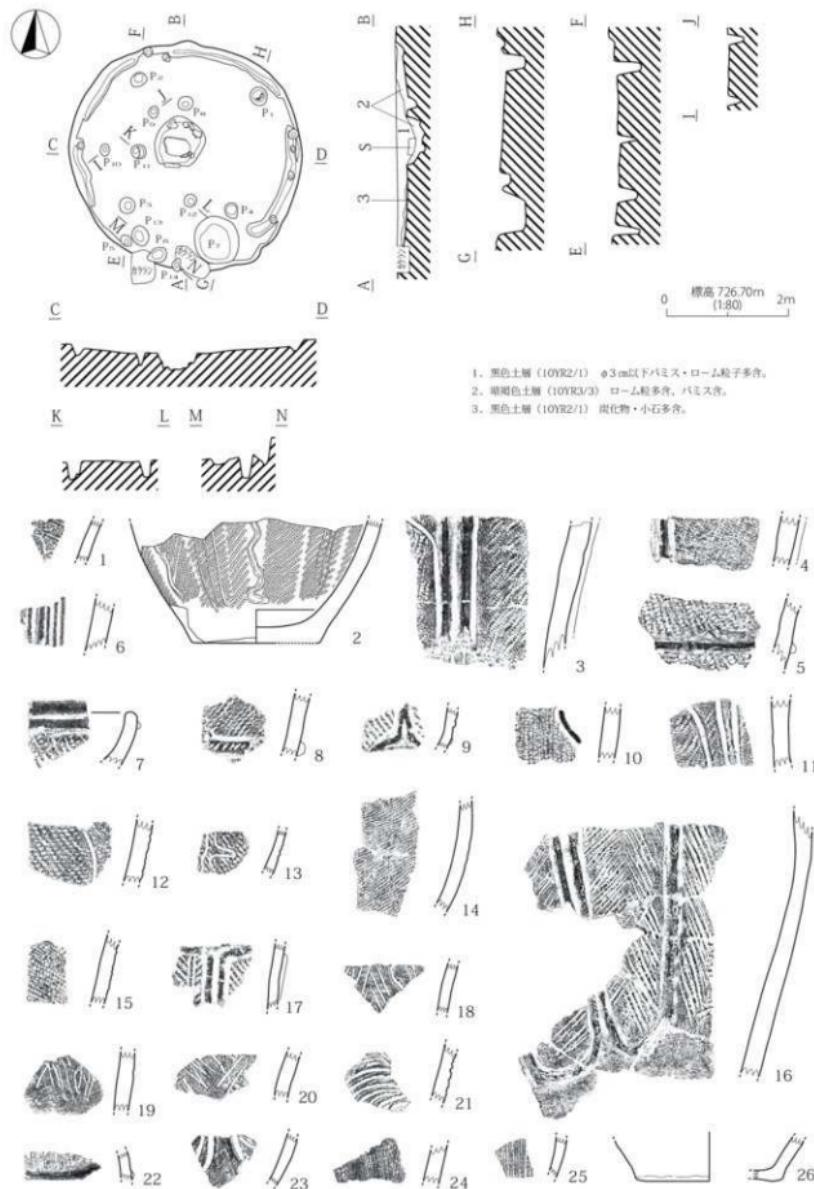
遺物は縄文土器・石器・石製品・鉄器・鉄製品が出土している。縄文土器には深鉢と浅鉢の器種が認められる。深鉢は1～5・14～17が中期後半加曾利E II式、11がE I式、6・7・12・13・19は加曾利E式であるが時期を特定できないものである。10・23は中期後半曾利式で、10はI式である。8・9・21・25は中期後半の土器ではあるが、それ以上の細分ができるものである。20の勝坂式、22・24の焼町土器は中期中葉の土器であり混入品と思われる。浅鉢はほとんどものに赤採が施されている。中期後半のものであるが、それ以上の細分は出来ない。石器・石製品には石鎌、石錐、打製石斧、凹・磨・敲石、磨石、台石、横刃型石器、加工痕のある剥片の器種がある。定型化した形態の石器は少なく、33の石鎌や35の石錐、36の打製石斧、37の凹・磨・敲石だけであり、他は用途に合った石材をそのまま使用しているような印象である。石材的には打製石器の大半はガラス質安産岩山岩を用いており、小型の石器である石鎌や石錐に黒曜石を用いている。鉄器・鉄製品は角釘が1点出土している。混入品である。

以上の出土遺物の特徴から本址は縄文時代中期後半加曾利E II式期の所産と考えられる。

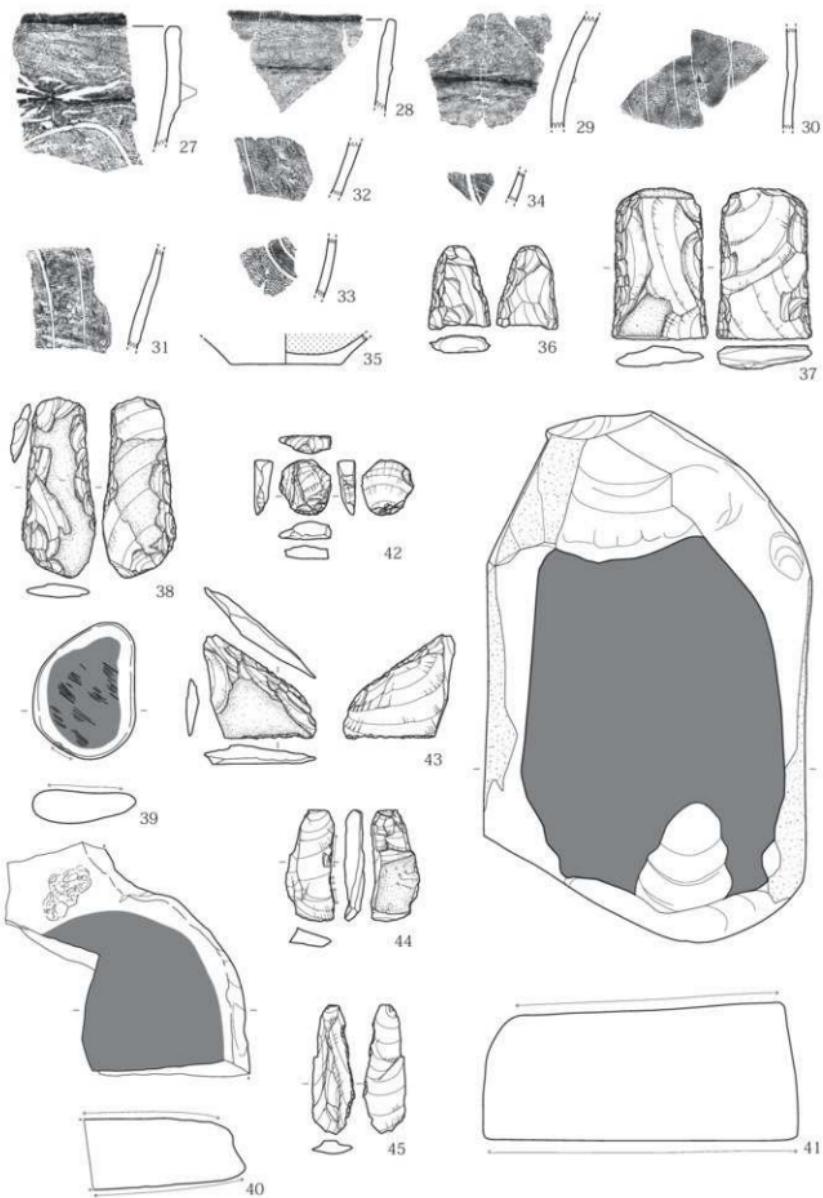
#### ○H 6号住居址（第14・15図）

F 6 グリット周辺で検出された。カクランに切られる以外は他遺構との重複関係は有さない。主軸をN-23°-Wにとり、円形の平面形態を呈する。長軸長4.88m、短軸長4.85m、壁残高0.32m、の規模を有する。ピットは15基検出されたが主柱穴は判然としない。周溝は有さない。炉は住居の中心に構築されているが、炉石は全て抜き取られており掘方状態であった。

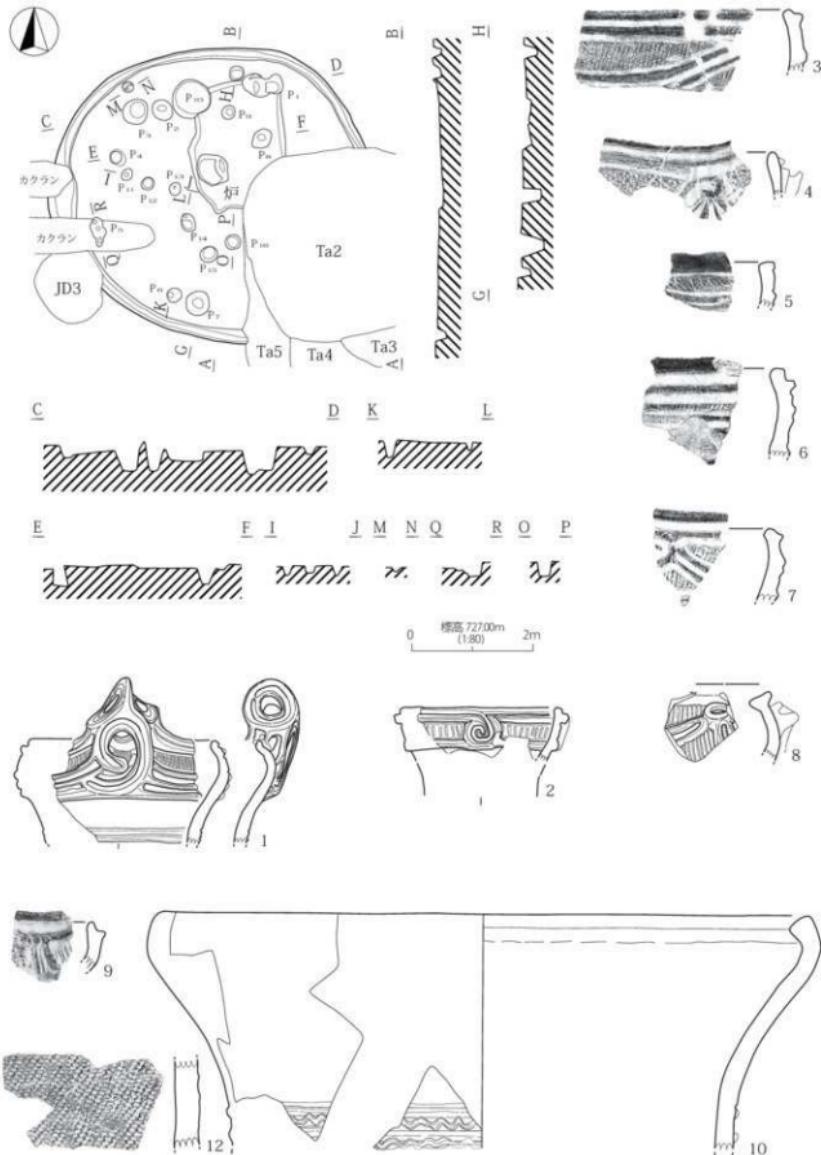
遺物は縄文土器・石器・石製品が出土している。縄文土器には深鉢、浅鉢、釣手の器種が認められる。深鉢1は総期末「塚田式」の深鉢であり、混入品である。2～9・11は「焼町土器」、10・14～16・18～20は「勝坂式」土器である。勝坂式土器には14・15のような新道式段階のものも混入するが、井戸尻I式段階のものが主体である。共伴する焼町土器も寺内の「川原田IV・V期」のものである。尚、14については土器片円盤とし



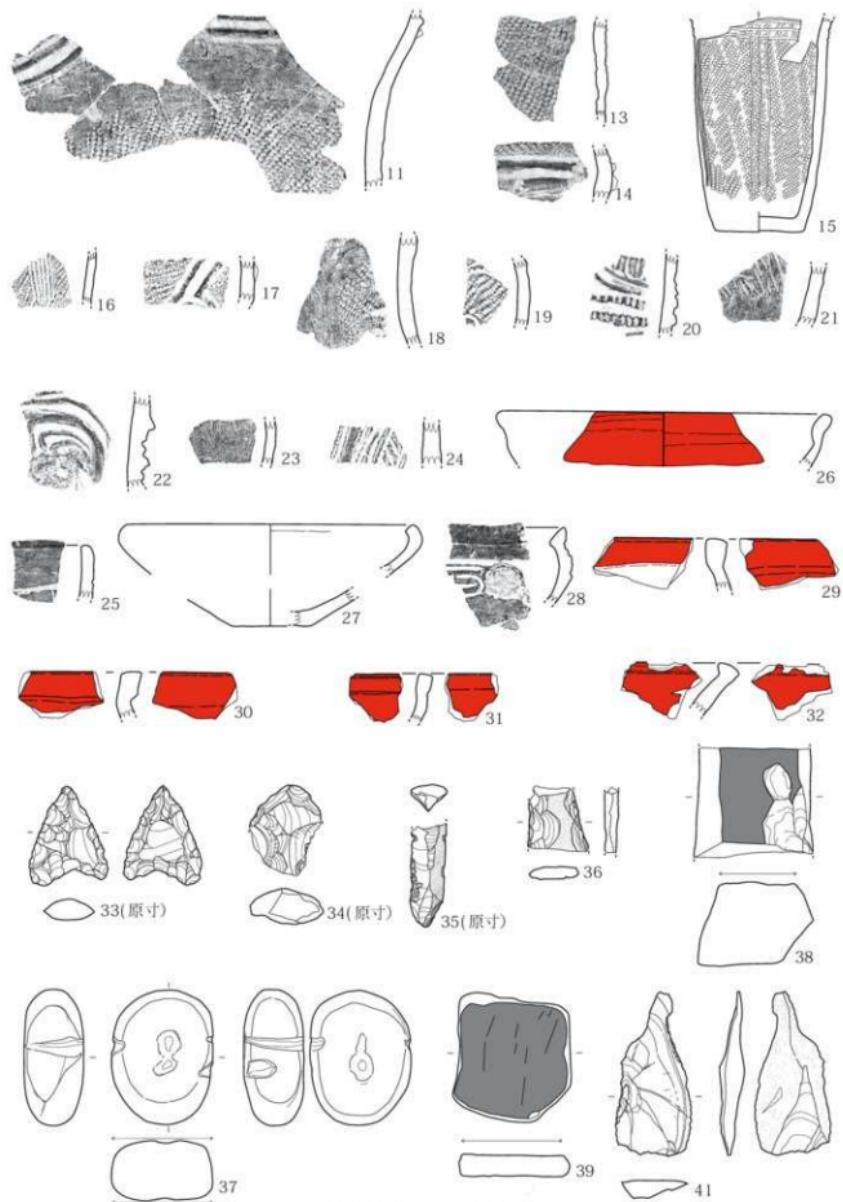
第9図 H 4号住居址 (1)



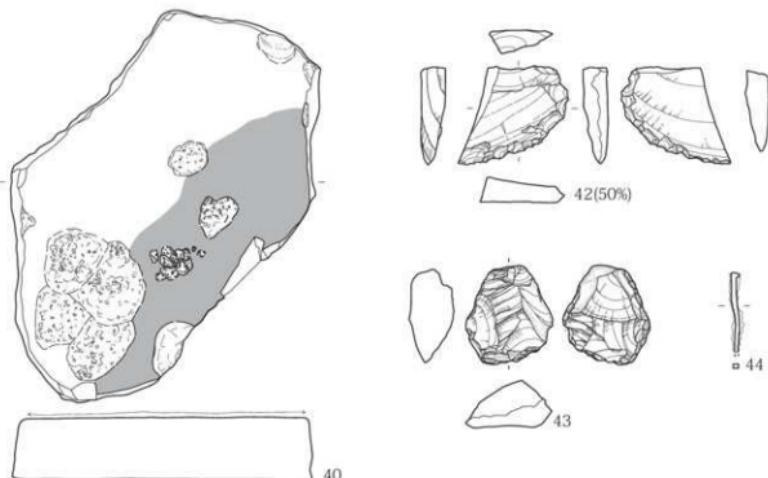
第10図 H4号住居址(2)



### 第11図 H5号住居址(1)



第12図 H5号住居址 (2)



第13図 H5号住居址（3）

て捉えた方がよいのかもしれない。浅鉢は基本的に赤彩が施される。無文のものが多く時期は特定できないが、22のような有文のものも存在する。勝坂式の深鉢と同時期と捉えられよう。28の釣手は破片であり全容は不明であるが、口唇部の文様要素から本址に伴う時期のものと推測される。石器・石製品には石鏃、打製石斧、ビエス・エスキュー、加工痕の有る剥片、磨石、磨・凹石の器種が認められる。小型の石器である石鏃やビエス・エスキューは黒曜石製であるが、他の打製石器の多くはガラス質安山岩製である。40は頁岩製であり、駆込頁岩の可能性を有する。

以上の出土遺物の特徴から本址は縄文時代中期中葉勝坂IV期の所産と考えられる。

#### ○H7号住居址（第16図）

1グリッドで検出された。北方向に調査区外に延びるため全容は不明である。調査範囲においては他遺構との重複関係は有さない。壁残高0.29mの規模である。6基検出されたピットのうち、P6は主柱穴の可能性が高い。床面上で1基検出された土坑は本址に伴うものと思われるが、性格は不明である。調査範囲には周溝や炉は存在しなかった。

遺物は縄文土器と石器・石製品が出土している。縄文土器には深鉢と浅鉢の器種が認められる。深鉢は全て破片資料であるが、時期的には中期後半以外のものは含まれない。1は加曾利E式、2は所謂「郷土式」であるが、3・4については特定できない。浅鉢は無文の底部である。赤彩は認められない。石器・石製品は打製石斧と使用痕のある剥片が出土している。

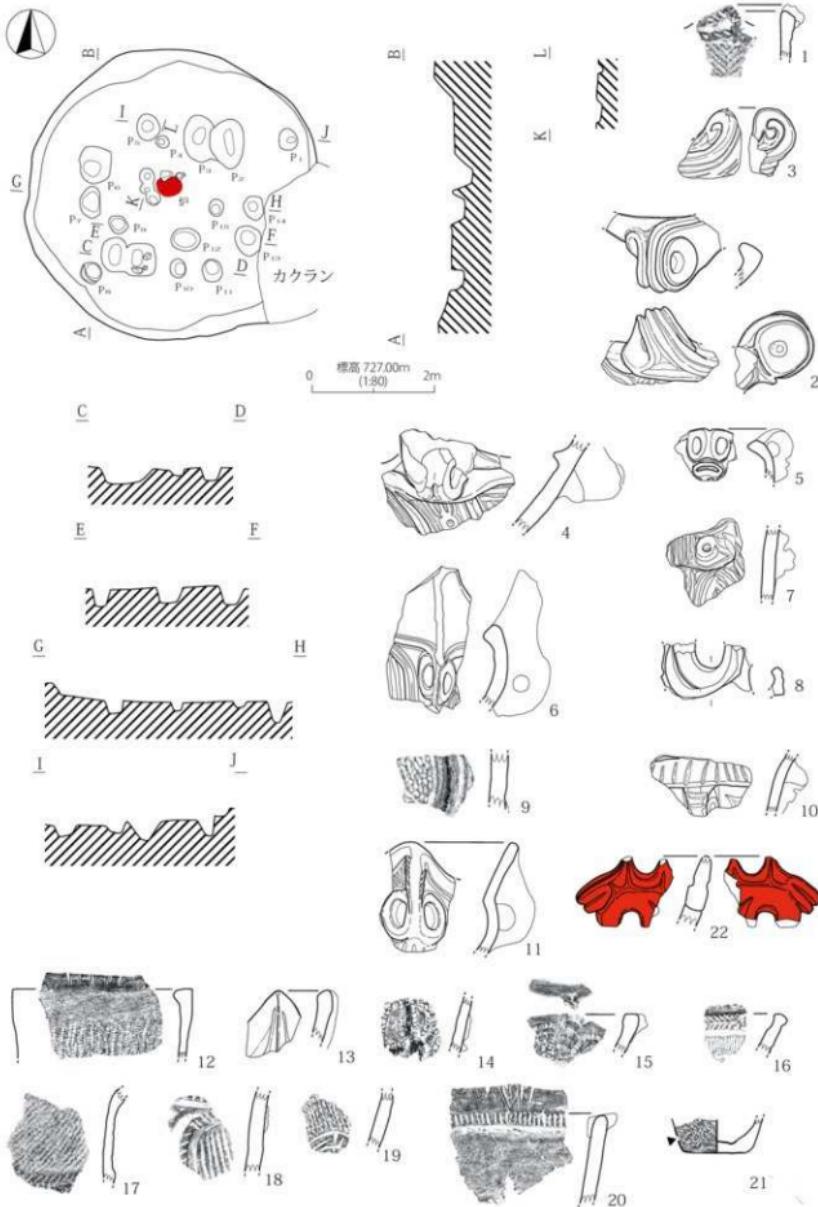
以上貧弱な出土遺物ではあるが、その特徴から本址は縄文時代中期後半の所産と考えられる。

## 第2節 土坑

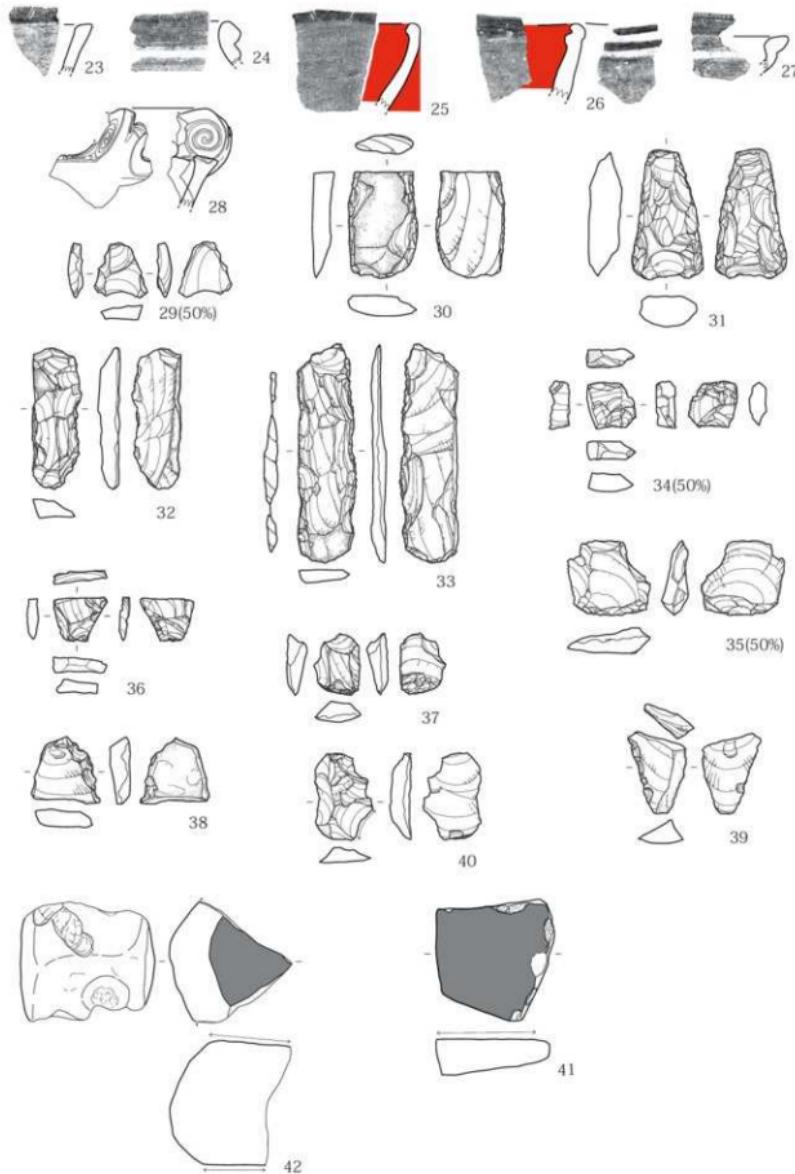
#### ○D1号土坑（第17図）

T4グリッドで検出された。SD3号集石土坑を切る。主軸をN-0°-Eにとり、長軸長1.46m、短軸長1.35m、壁残高0.41m、面積1.58m<sup>2</sup>の規模である。

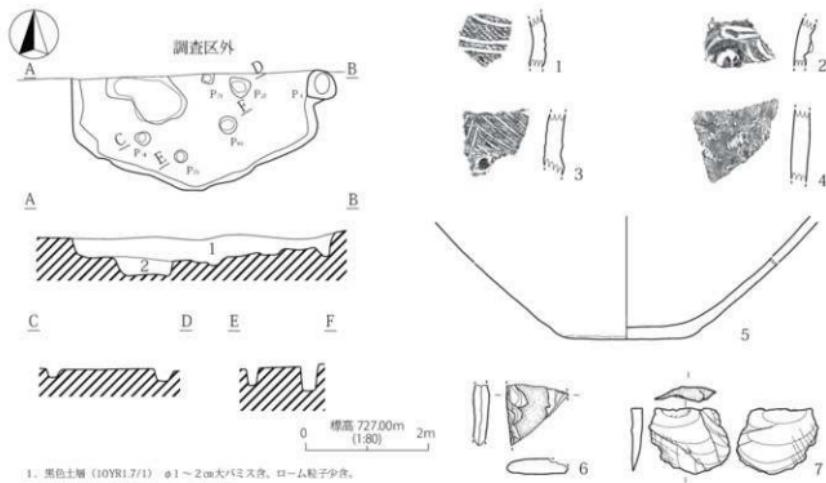
出土遺物は皆無であるが、SD3を切ることから近世以降の所産と考えられる。



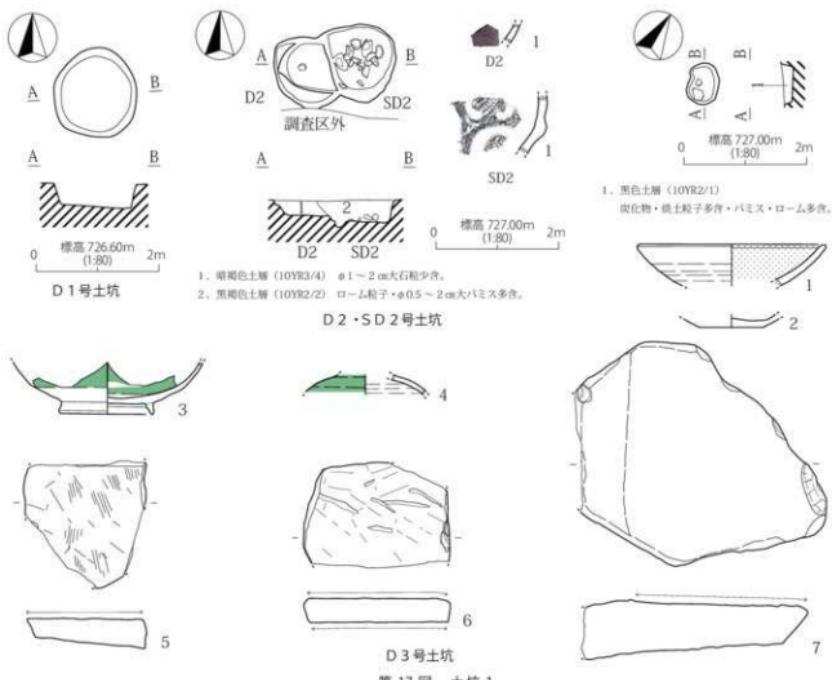
第 14 図 H 6 号住居址 (1)



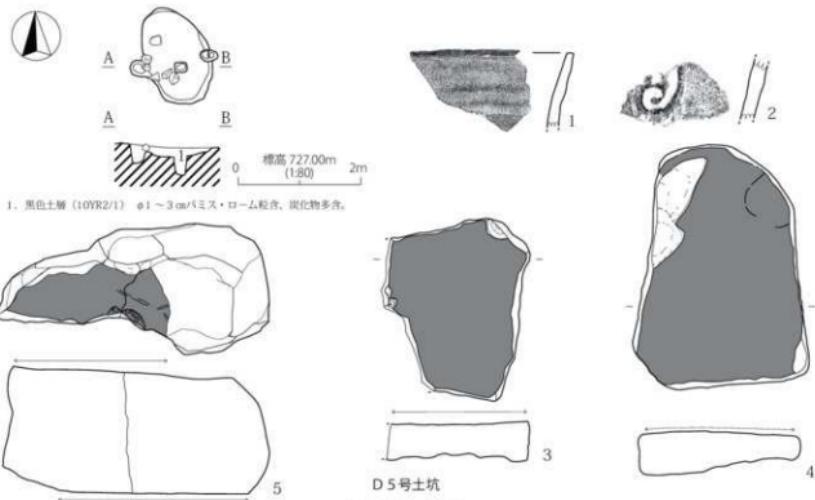
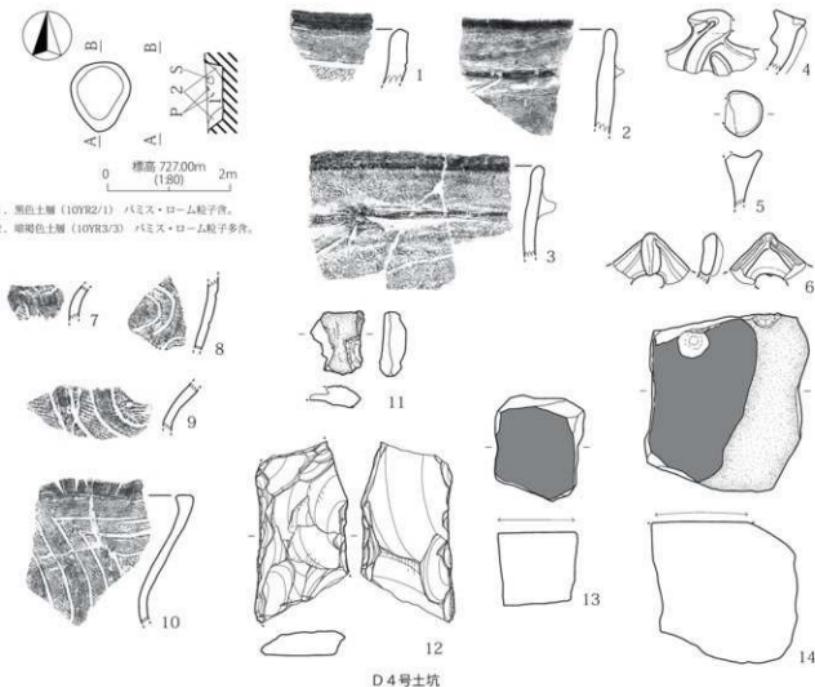
第15図 H6号住居址（2）



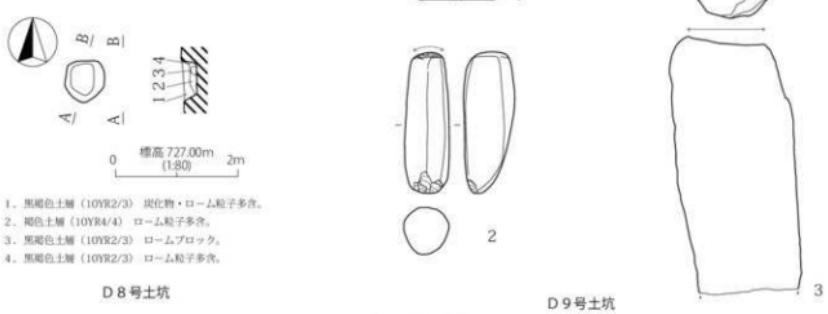
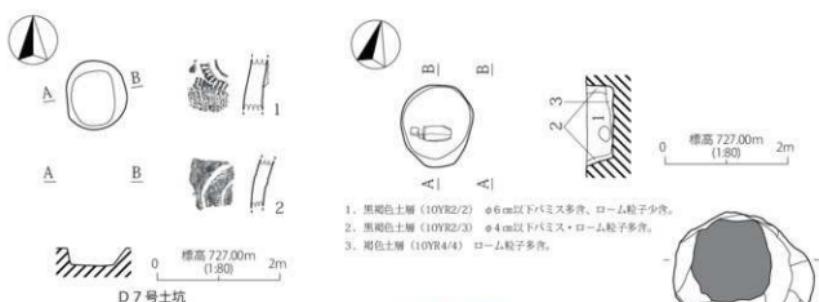
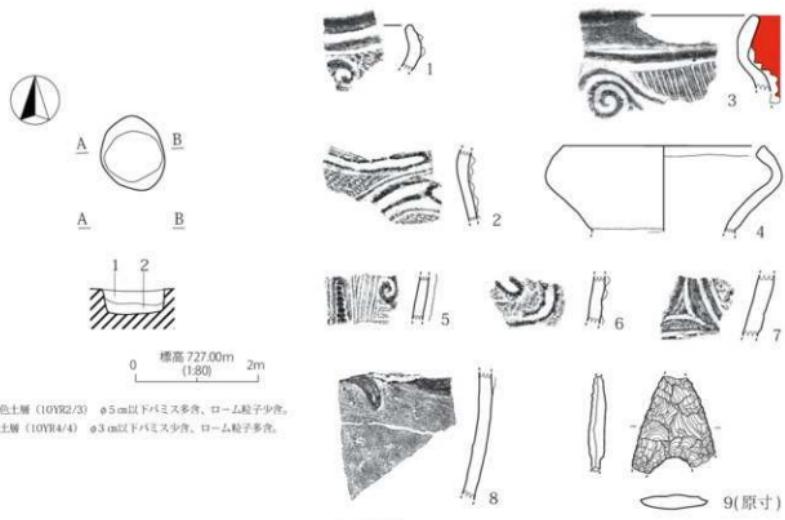
第 16 図 H7 号住居址



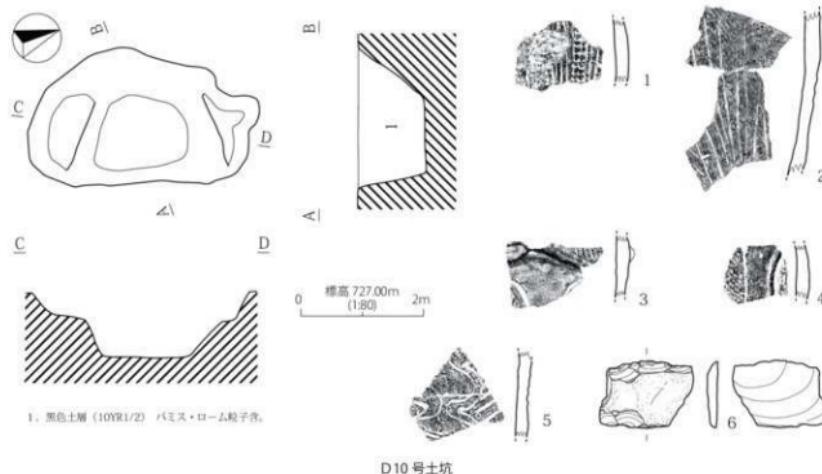
第 17 図 土坑 1



第18図 土坑2



第19図 土坑3



第20図 土坑4

### ○D 2号土坑（第17図）

P 4グリットで検出された。S D 2号集石土坑に切られる。全容が不明なため、壁残高0.22m以外の規模は不明である。平面形態は判然としないが、2段落の底面を形成する。

出土遺物は17世紀の志野焼の皿片が1点出土している。

本址の年代は前記した志野焼皿を根拠に17世紀と考えられる。

### ○D 3号土坑（第17図）

R 4グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-20°-Wに長軸方位をとる。長軸長0.68m、短軸長0.49m、壁残高0.2m、面積0.28m<sup>2</sup>の規模を有する。平面不整梢円形、断面逆梯形の形態である。

遺物は土師器と灰釉陶器、石器・石製品が出土している。土師器には壺と皿の器種が認められる。内面のヘラミガキ調整は施されない。灰釉陶器は碗と長頸瓶の器種が認められる。碗の見込み部分は転用窯状に円滑である。石器・石製品は全て砥石である。定型化した砥石ではなく、扁平な礫を砥石として使用している。

以上の出土遺物の特徴から、本址は聖原編年の奈良・平安時代Ⅶ期-10世紀前半の所産と考えられる。

### ○D 4号土坑（第18図）

I 12グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-12°-Eに長軸方位をとる。長軸長1.14m、短軸長0.94m、壁残高0.29m、面積0.82m<sup>2</sup>の規模である。平面不整梢円形、断面逆梯形の形態である。

遺物は縄文土器、石器・石製品が出土している。縄文土器は全て後期称名寺式期のものであり、器種は全て深鉢である。3は被熱により歪んでいる。隆帯文の2・3を除き称名寺式土器である。石器・石製品には打製石斧、砥石、磨・凹石の器種が認められる。

以上の出土遺物の特徴から、本址は縄文時代後期称名寺式期の所産と考えられる。

### ○D 5号土坑（第18図）

F 11グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-24°-Wに長軸方位をとる。長軸長1.64m、短軸長1.1m、壁残高0.2m、面積1.37m<sup>2</sup>の規模である。重複する3基の方形ピットは本址を切る中世遺構の可能性が高い。平面梢円、断面逆梯形の形態である。

遺物は内耳鍋、縄文土器、石器・石製品が出土している。内耳鍋は口縁部片、縄文土器は中期後半の深鉢片である。石器・石製品は3点ともに砥石である。定型化した砥石ではなく、礫を利用している。4は全面に煤が付着している。

以上の出土遺物の特徴から、本址は中世の所産と考えられる。

### ○D 6号土坑（第19図）

C 11グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-15°-Wに長軸方位をとる。長軸長1.24m、短軸長1.03m、壁残高0.41m、面積0.97m<sup>2</sup>の規模である。平面不整梢円形、断面逆梯形の形態である。

遺物は縄文土器と石器・石製品が出土している。縄文土器には深鉢1・2・4～7と浅鉢3、有穴鍔付土器？8の器種が認められる。時期的には2・7・8が中期中葉の他は中期後半のものであり、型式的には加曾利E系が過半数を占めるが、曾利式や唐草文系も存在する。石器・石製品は黒曜石製の鉋が1点出土しているが欠損している。

以上の出土遺物の特徴から、本址は縄文時代中期後半加曾利E 1～II式期の所産と考えられる。

### ○D 7号土坑（第19図）

C 11グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-15°-Wに長軸方位をとる。長軸長1.13m、短軸長0.98m、壁残高0.29m、面積0.91m<sup>2</sup>の規模である。平面不整梢円形、断面逆梯形の形態である。

遺物は縄文土器が2点出土している。1は中期中葉勝坂式の深鉢片、2は後期称名寺式の深鉢片である。

本址の時期については不明である。

### ○D 8号土坑（第19図）

D 11グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。真北に長軸方位をとる。長軸長0.68m、短軸長0.64m、壁残高0.26m、面積0.35m<sup>2</sup>の規模である。平面不整円形、断面逆梯形の形態である。

出土遺物は皆無であり、本址の時期は不明である。

### ○D 9号土坑（第19図）

D 11 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-13°-Wに長軸方位をとる。長軸長1.37m、短軸長1.17m、壁残高0.47m、面積1.25m<sup>2</sup>の規模である。平面不整楕円形、断面逆梯形の形態である。

遺物は土師器と石器・石製品が出土している。土師器は所謂「かわらけ」であり、内外面の口縁部に煤の付着が認められることから燈明皿として使用されたものであろう。石器・石製品は磨・敲石と磨石の器種が認められる。

以上の出土遺物の特徴から本址は、中世の所産と考えられる。

### ○D 10号土坑（第20図）

F 7 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-7°-Eに長軸方位をとる。長軸長3.86m、短軸長2.21m、壁残高1.11m、面積6.59m<sup>2</sup>の規模である。平面不整楕円、断面逆梯形の形態で、底面が2段形成される。

遺物は縄文土器と石器・石製品が出土している。縄文土器は全て深鉢片であり、1が曾利I、5が不明の他は加曾利E式である。石器・石製品は横刃型石器が1点出土している。

以上の出土遺物から本址は、縄文時代中期後半加曾利E IV式期の所産と考えられる。

### ○D 11号土坑（第20図）

E 11 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-30°-Eに長軸方位をとる。長軸長1.71m、短軸長1.31m、壁残高0.24m、面積1.8m<sup>2</sup>の規模である。平面楕円、断面逆梯形の形態である。重複する5基のピットは本址を切る中近世遺構の可能性が高い。

出土遺物は皆無であり、本址の年代は不明である。

### ○D 12号土坑（第20図）

G 11 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-9°-Wに長軸方位をとる。長軸長1.0m、短軸長0.8m、壁残高0.13m、面積0.59m<sup>2</sup>の規模である。平面楕円、断面逆梯形の形態である。重複する3基の方形ピットは本址を切る中近世遺構の可能性が高い。

出土遺物は皆無であり、本址の年代は不明である。

### ○D 13号土坑（第20図）

G 11 グリットで検出された。D 14号土坑を切る。N-90°-Eに長軸方位をとる。長軸長1.31m、短軸長0.96m、壁残高0.08m、面積0.96m<sup>2</sup>の規模である。平面楕円、断面逆梯形の形態である。

出土遺物は皆無であり、本址の年代は不明である。

### ○D 14号土坑（第20図）

G 11 グリットで検出された。D 13号土坑に切られる。N-8°-Wに長軸方位をとる。長軸長2.07m、短軸長0.93m、壁残高0.5m、面積1.74m<sup>2</sup>の規模である。平面圓丸長方形、断面逆梯形の形態である。

出土遺物は皆無であり、本址の年代は不明である。

### ○D 15号土坑（第21図）

B 11 グリットで検出された。S D 5号集石土坑に切られる。N-32°-Wに長軸方位をとる。長軸長0.74m、壁残高0.18mの規模である。楕円形、断面逆梯形の形態である。

出土遺物は縄文中期後半の深鉢片が2点出土しており、本址の年代も出土遺物と同様と考えられる。

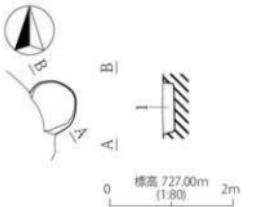
### ○D 16号土坑（第21図）

J 12 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-26°-Eに長軸方位をとる。長軸長0.74m、短軸長0.68m、壁残高0.3m、面積0.37m<sup>2</sup>の規模である。平面円形、断面逆梯形の形態である。

出土遺物は皆無であり、本址の年代は不明である。

### ○D 17号土坑（第21図）

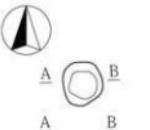
J 12 グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-17°-Wに長軸方位をとる。長軸長0.68



1. 黄褐色土層 (10YR4/4) ローム粒子多含、バニス含。



D15号土坑



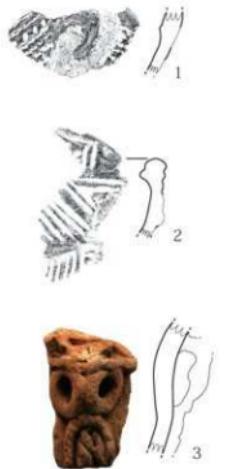
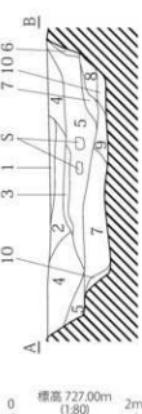
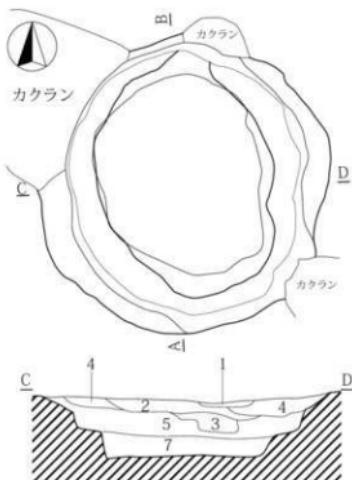
0 標高 727.00m (1.80) 2m

D16号土坑

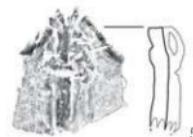


0 標高 727.00m (1.80) 2m

D17号土坑



1. 黒褐色土層 (10YR2/1) バニス・ローム粒子含。
2. 電離色土層 (10YR2/2)  $\phi 1\sim 2\text{cm}$ バニス含、ローム粒多含。
3. 黄褐色土層 (10YR5/6) ローム2次堆積。
4. 黑褐色土層 (10YR3/2)  $\phi 1\sim 3\text{cm}$ バニス・ローム粒子多含、炭化物含。
5. 黑褐色土層 (10YR5/4)  $\phi 1\sim 5\text{cm}$ バニス・ローム粒子多含。
6. にぶい黄褐色土層 (10YR6/4) ロームと10YR3/3の混在。
7. 電離色土層 (10YR3/3)  $\phi 5\text{cm}$ 以下バニス多含、炭化物含。
8. 明黄色土層 (10YR6/6) ローム2次堆積。
9. 黑褐色土層 (10YR2/1)  $\phi 5\text{cm}$ 以下バニス多含。
10. にぶい黄褐色土層 (10YR6/4) ロームと10YR3/3の混在。



D18号土坑 (1)

第21図 土坑5

m、短軸長 0.6 m、壁残高 0.21 m、面積 0.33m<sup>2</sup>の規模である。平面橢円形、断面逆梯形の形態である。

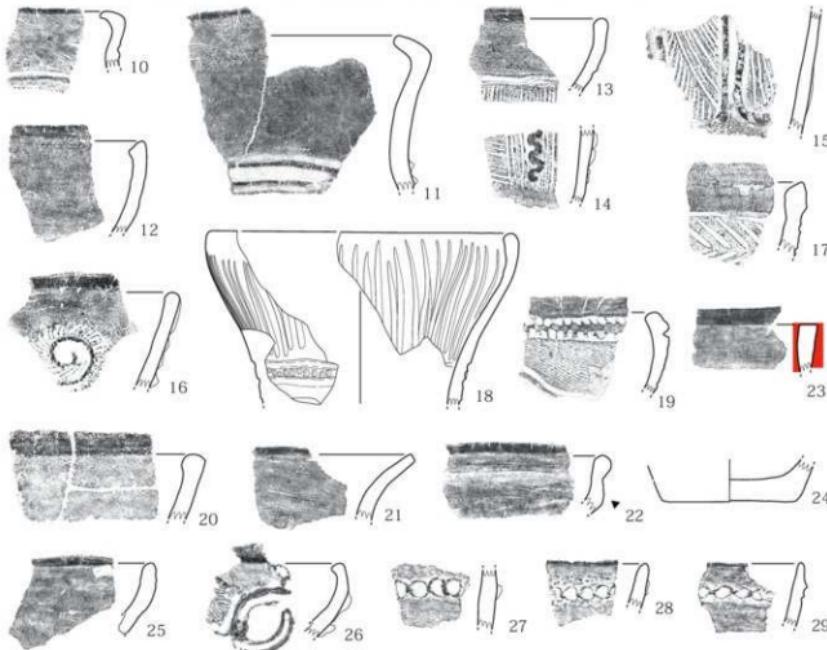
出土遺物は皆無であり、本址の年代は不明である。

#### ○D 18号土坑（第21～29図）

C 10 グリットで検出された。カクランに切られる。N-62°-E に長軸方位をとる。長軸長 4.9 m、短軸長 4.7 m、壁残高 0.89 m の規模である。平面円形、断面は2面の底面を形成する。当初住居址と思われたが、柱穴や炉は存在しなかったため、土坑とした。

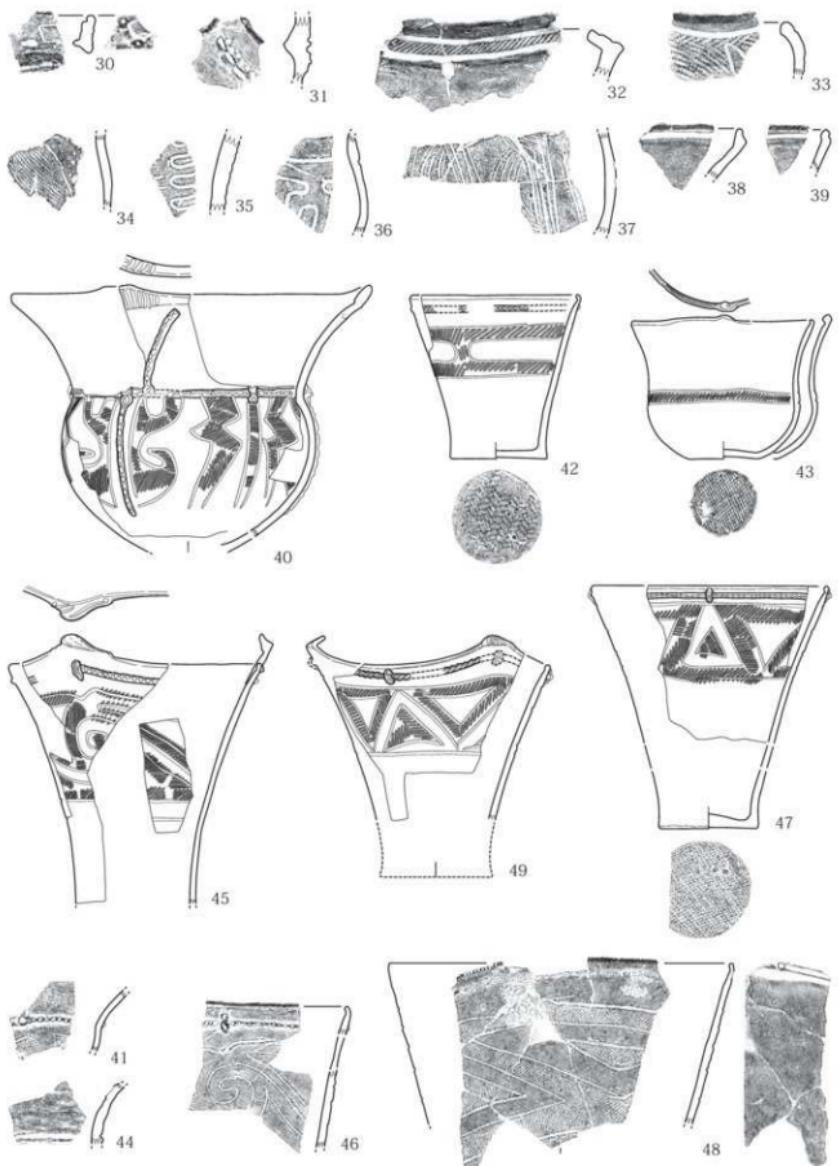
遺物は縄文土器、石器・石製品が出土している。1は阿玉台II式の深鉢で、大波状線の部位であるが隆帯が剥落している。2は焼町土器深鉢の口縁部片、3・4・5・18・19は勝坂式の深鉢で3は双環状把手が付く。6・7・8は曾利II式の深鉢口縁部片、17も曾利系であるが、時期的にIVないしV期まで下がる。9・21・22は中期後半の浅鉢の口縁部片と思われる。10・34は隆帶上に半裁竹管による押引を加えており、曾利I式土器と思われる。中期後半の土器であろうか？11・12・14は中期後半郷土式、13は中期後半唐草文系と思われる。15はあまり類例がない土器であるが、中期後半加曾利E系の土器と思われる。16も加曾利E系の土器で、E IV期と思われる。20・23・24は無文部位であり判然としないが中期後半の深鉢片と思われる。25～27は後期の押圧隆帯が施される粗製土器である。28～33・36は後期称名寺式ないし同時期と思われるものであるが、堀之内I式まで下がるものも含んでいるかもしれない。35～37・42・43は堀之内I式、38～41・44～62は堀之内II式ないし同時期の土器である。63～65は堀之内式期の注口土器である。66～73は土器片円盤である。時期的には堀之内式期のものと思われる。74は平安時代の内面黒色処理の土師器環であり、底部には右回転の糸切痕が認められる。75は中世の内耳鍋の口縁部片である。石器・石製品には石鏃、打製石斧、磨・轍・凹石、砥石、石皿・石錐、スケレイバー、横刃型石器、ビエス・エスキーユ、加工痕・使用痕のある剥片の器種が認められる。

以上の出土遺物の特徴から本址は縄文時代後期堀之内II式期の所産と考えられる。



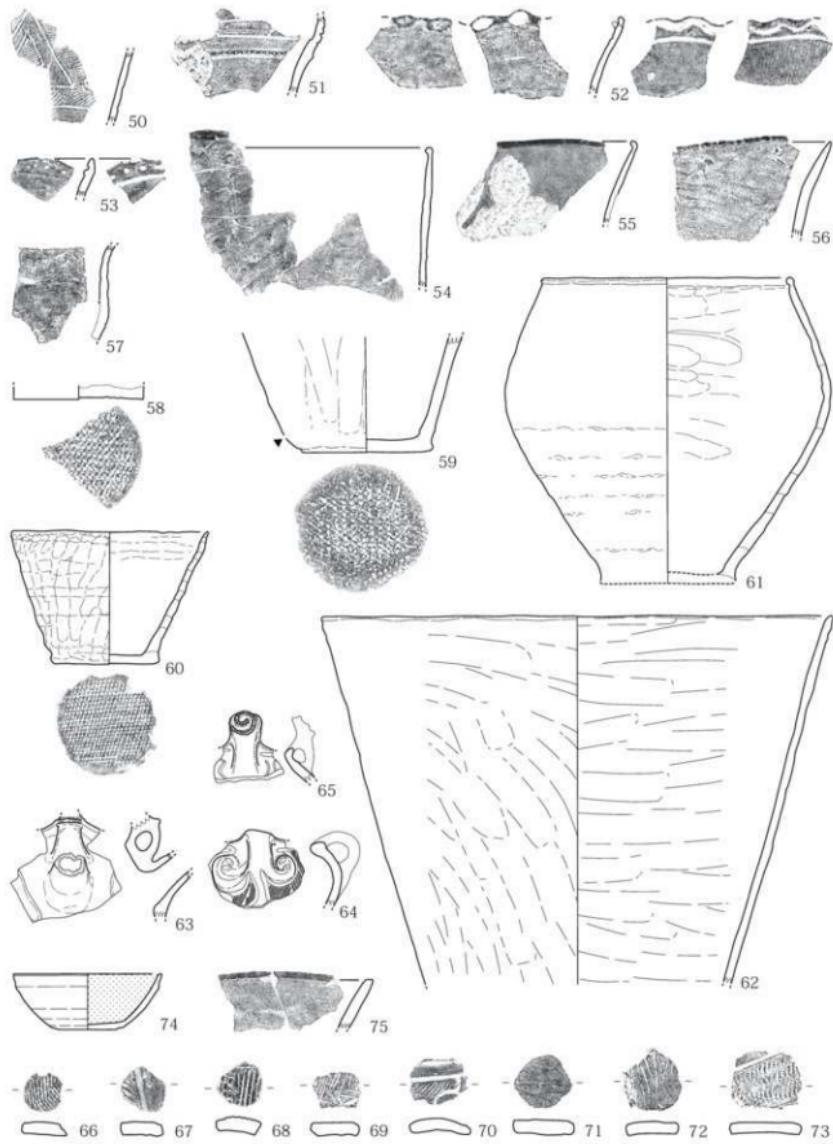
D 18号土坑 (2)

第22図 土坑6



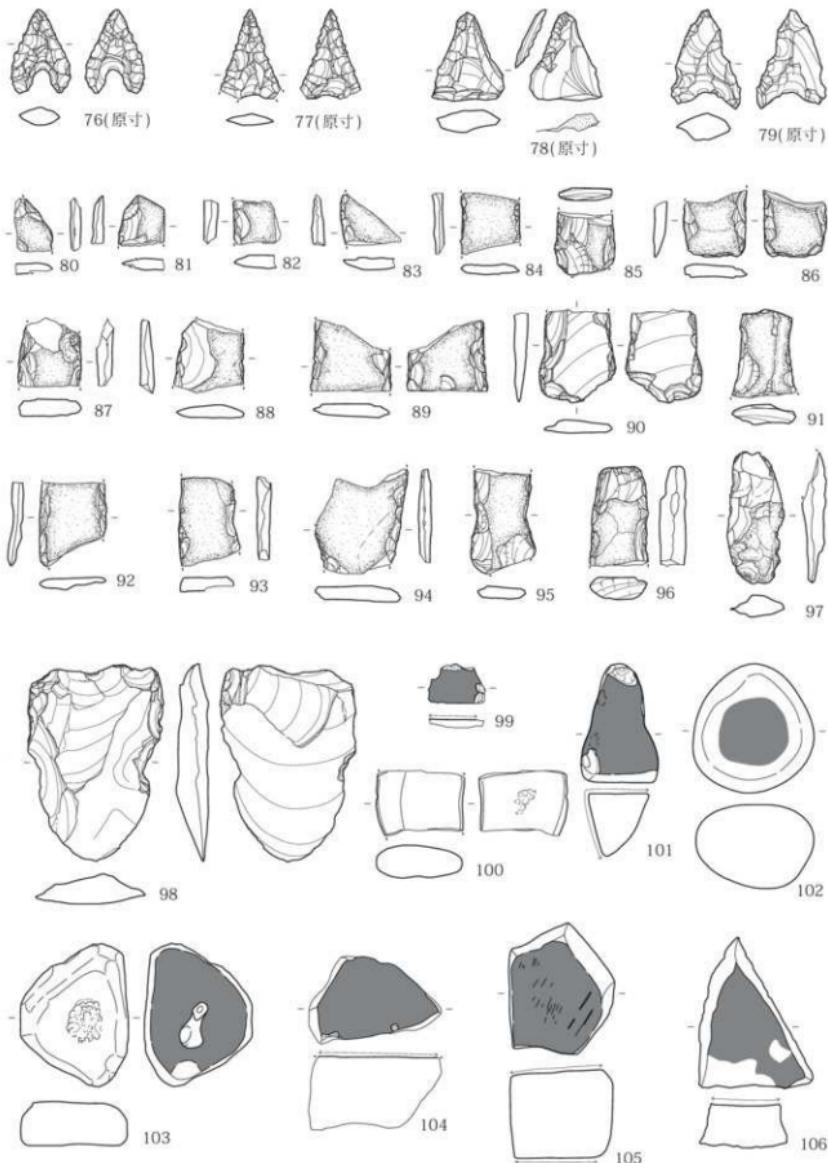
D18号土坑(3)

第23图 土坑7



D18号土坑(3)

第24圖 土坑8



D18号土坑(4)

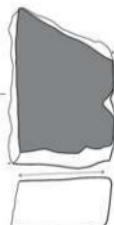
第25图 土坑9



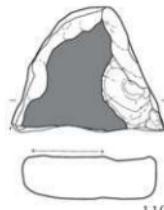
107



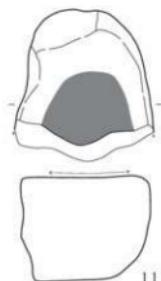
108



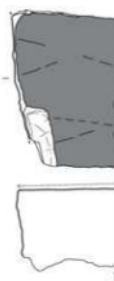
109



110



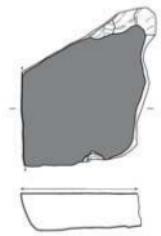
111



112



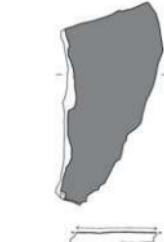
113



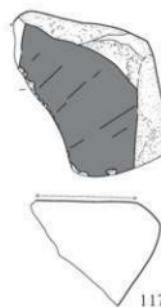
114



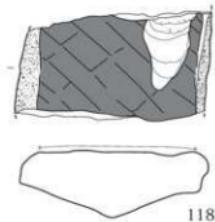
115



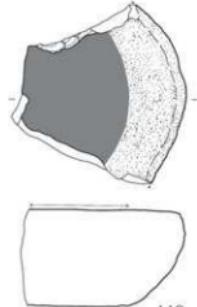
116



117

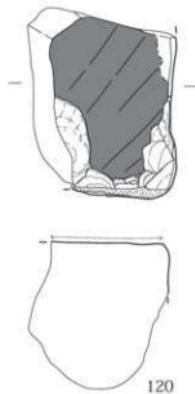


118

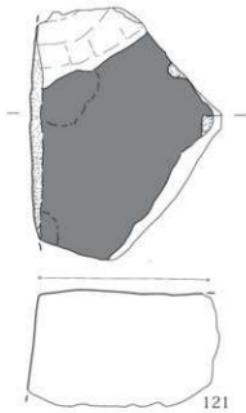


119

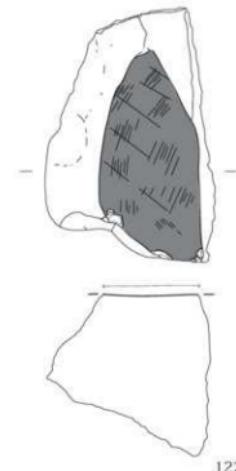
D18号土坑(5)  
第26図 土坑10



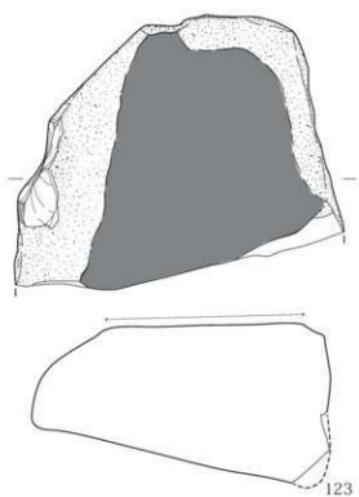
120



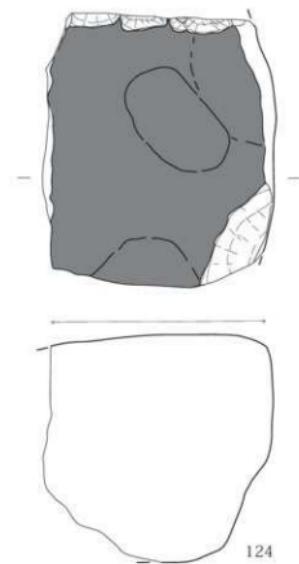
121



122

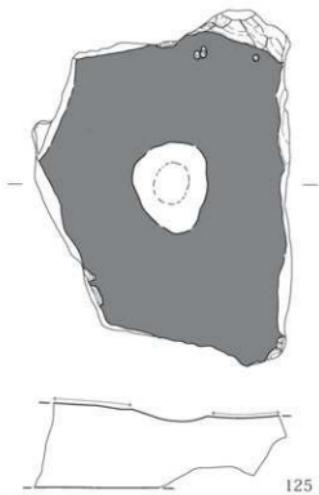


123

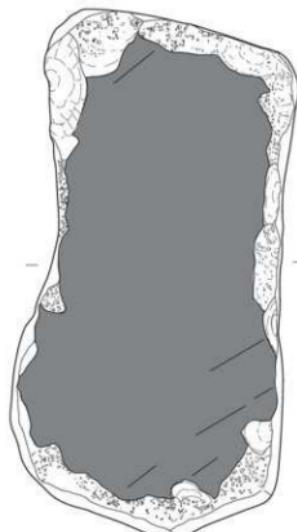


124

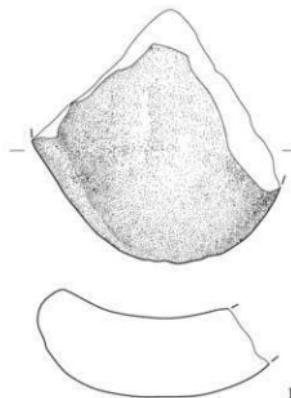
D18号土坑(6)



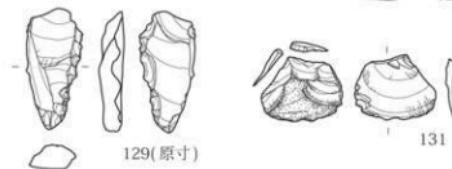
125



126

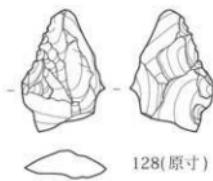


127

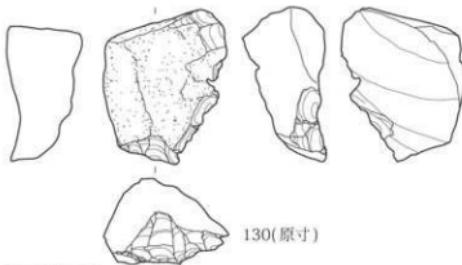


129(原寸)

131

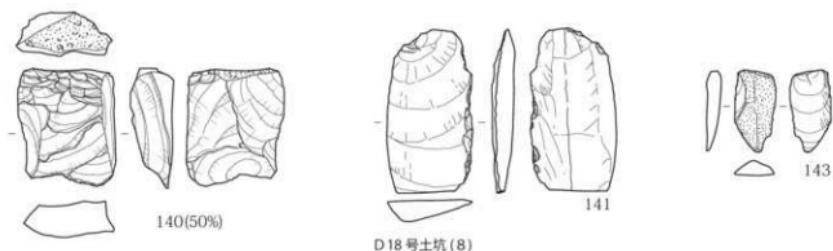
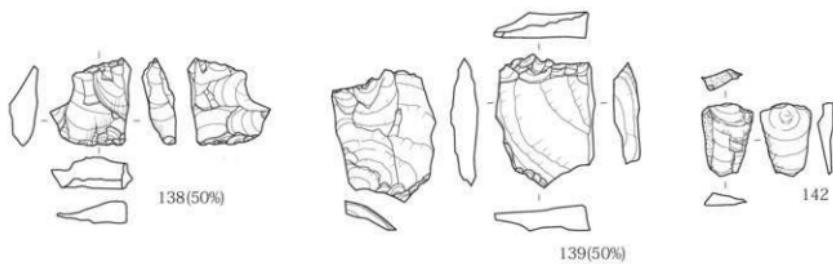
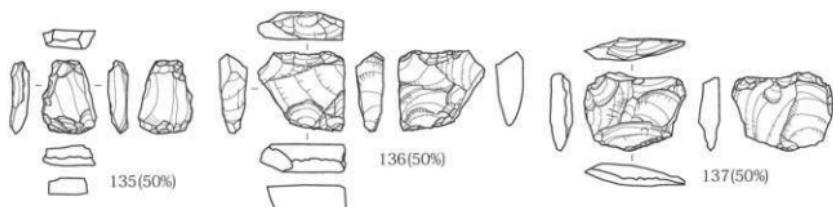
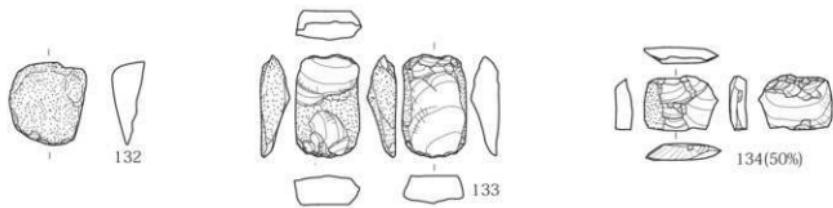


128(原寸)



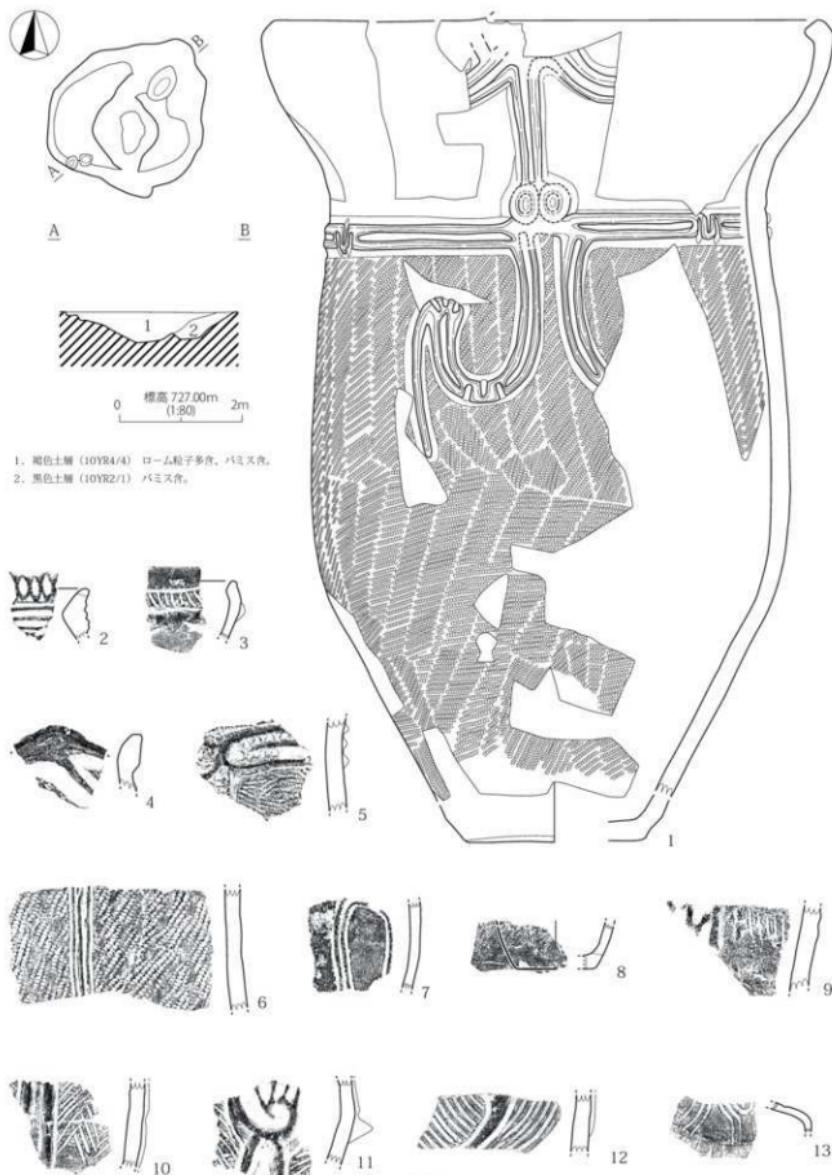
130(原寸)

D18号土坑(7)  
第28图 土坑12



D 18 号土坑 (8)

第 29 国 土坑 13



D19号土坑(1)

第30圖 土坑14

### ○D 19号土坑（第30・31図）

B 11グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-50°-Eに長軸方位をとる。長軸長2.88m、短軸長2.43m、壁残高0.5m、面積5.08m<sup>2</sup>の規模である。平面不整楕円形、断面3段底面の逆梯形の形態を呈する。

遺物は縄文土器、石器・石製品が出土している。縄文土器は1が曾利I式期の深鉢、2は鋸歯口縁下に数条の平行沈線が施される深鉢で、並行沈線下には曲隆線文が展開するものと思われる。中期中葉末期の焼町土器と思われる。3は口縁部の区画帯に斜位の沈線文が充填される中期後半の深鉢である。4は加曾利E III式の波状口縁深鉢の口縁部、5は隆帶間に半裁竹管による刺突が加えられる地文縄文の深鉢である。中期後半に位置付けられるものと思われる。6は加曾利E II式、7はE IV式の深鉢である。8は底部片であり、時期は判然としない。9は中期後半に位置付けてよいものと思われる深鉢の底部付近の破片で、縦位の沈線を地文とし、隆帶による懸垂文が貼付される。10・11は綾杉状の沈線文を地文とし、隆帶による懸垂文が貼付される唐草文系土器の深鉢。12は鱗状沈線が施される郷土式の深鉢である。13は後期壠之内式の注口土器片である。石器・石製品には打製石斧（14～16）、磨石（17・18）、砥石（19～21）、加工痕のある剥片（22）の器種が認められる。

本址の時期としては1の深鉢を基準とするのが妥当と考える。よって本址は縄文時代中期後半曾利I式期の所産と思われる。

### ○D 20号土坑（第32図）

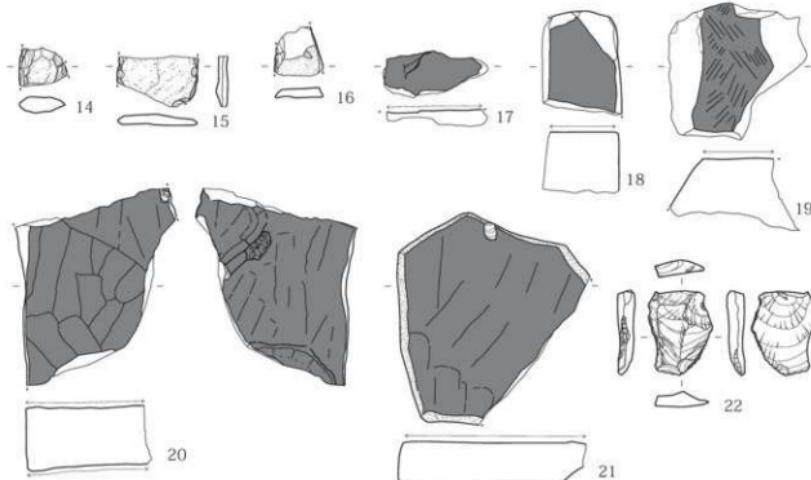
H 8グリットで検出された。S D 6号集石土坑に切られる。N-12°-Wに長軸方位をとる。長軸長2.1m、壁残高0.74mの規模である。平面楕円形、断面逆梯形の形態を呈する。

出土遺物は皆無であり、本址の時期は不明である。

## 第3節 集石土坑

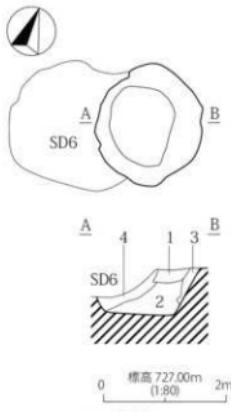
### ○SD 1号土坑（第33図）

Q 4グリットで検出された。P 37に切られる。N-90°-Eに長軸方位をとる。長軸長2.06m、短軸長1.42m、壁残高0.43m、面積2.16m<sup>2</sup>の規模である。平面楕円形、断面逆梯形の形態を呈する。集石は底面には達し



D 19号土坑(2)

第31図 土坑15



第32図 土坑 16

1. 布赤褐色土層 (SYR3/2) ローム粒子・パミス少許。
2. 黒色土層 (SYRL1/7/1) Ⓛ1cm大マス合、♂1cm大ロームブロック極少。
3. 困褐色土層 (SYRS/2) Ⓛ3cm大マス・ローム粒子多々。
4. にぶい褐色土層 (SYR7/4) ローム二次堆積、人糞埋土。

ていない。覆土は粘質土で石を固めている。隣接するP 18も同様であるが、礎石の基礎と思われる。

遺物は灰釉陶器、須恵器、縄文土器、陶器、石器・石製品が出土している。1は灰釉陶器の碗片で、底部に糸切痕を残す。2は平行叩目の須恵器表片、3~5は縄文土器の深鉢片で、3・4は曾利I式、5は加曾利E IV式である。6は18世紀末の前山焼擂鉢片、7は幕末の土瓶の蓋片である。石器・石製品は8・9の打製石斧、10~14・16の砥石、15の石皿が出土している。砥石は12が定型化した砥石の他は扁平な石を用いているが、対象が金属と思われるため砥石とした。15の石皿は溝状の使用痕が全面に認められる。破損した石皿を砥石に転用したものと思われる。

以上の出土遺物の特徴から本址は近世の所産と考えられ、家の基礎の一部と思われる。

#### ○SD 2号土坑 (第17図)

P 4グリットで検出された。D 2号土坑を切る。N-67°-Wに長軸方位をとる。長軸長1.42m、短軸長1.26m、壁残高0.36m、面積1.32m<sup>2</sup>の規模である。平面橈円形、断面逆梯形の形態を呈する。集石は底面に集中している。

遺物は加曾利E IV式の深鉢片が1点出土している。

本址の年代は、重複するD 2号土坑の年代である17世紀を遡ることはないと想定され、17世紀以降と考えられる。

#### ○SD 3号土坑 (第34図)

S 4グリットで検出された。D 1号土坑に切られる。N-49°-Wに長軸方位をとる。長軸長4.23m、短軸長3.32m、壁残高0.42mの規模である。5基以上の掘り込みの複合であり、家の基礎の一部分と思われる。

遺物は土師質土器、陶器、石器・石製品が出土している。1・2は土師質土器内耳鍋、3~11は陶器である。3~6は同一個体と思われる17世紀後半の唐津の呉器手碗。7・8は18世紀の肥前系・平戸波佐見の陶胎碗。9は19世紀の瀬戸・美濃の丸碗。10は18世紀末~19世紀の前山焼の片口碗。11は8世紀末~19世紀の器種不明の瀬戸・美濃焼である。石器・石製品は12の砥石、13の磨石、14の擂鉢の器種が認められる。

以上の出土遺物の特徴から本址は18世紀末~19世紀の近世の所産と考えられる。

#### ○SD 4号土坑 (第34図)

L 3グリットで検出された。他構造との重複関係は有さない。N-69°-Wに長軸方位をとる。長軸長2.55m、短軸長1.98m、壁残高0.18m、面積4.11m<sup>2</sup>の規模である。平面橈円形、底面2面の逆梯形の断面形態である。集石は上面に存在し、底面には達していない。

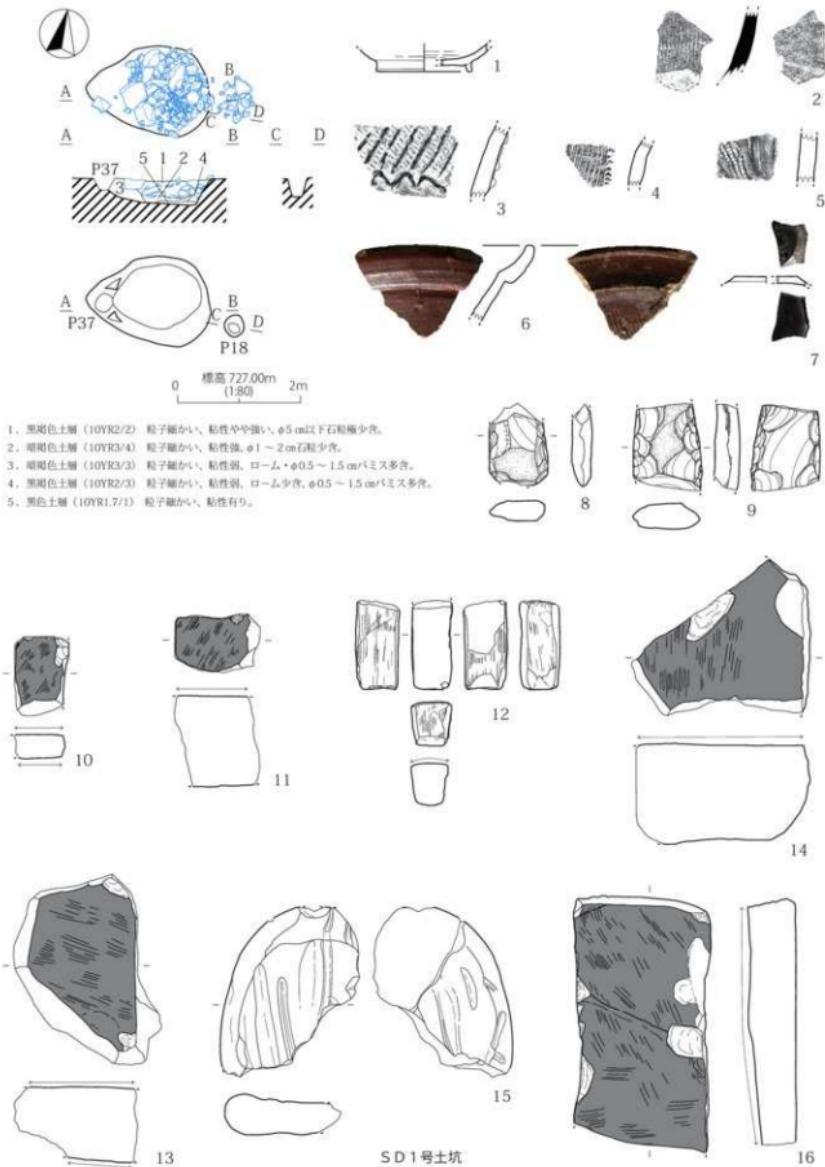
遺物は縄文土器、石器・石製品が出土している。縄文土器は1の中期後半加曾利E III式の深鉢片1点が認められる。石器・石製品は2~3の砥石、5の磨石、6の加工痕のある剥片、7の五輪塔の地輪と思われる立方体に加工された石が存在する。

以上の出土遺物の特徴から本址は中世以降の所産と考えられる。

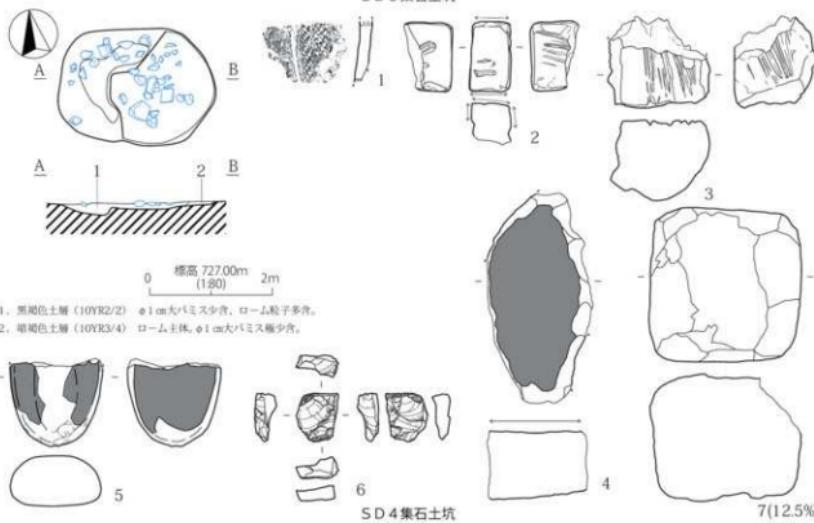
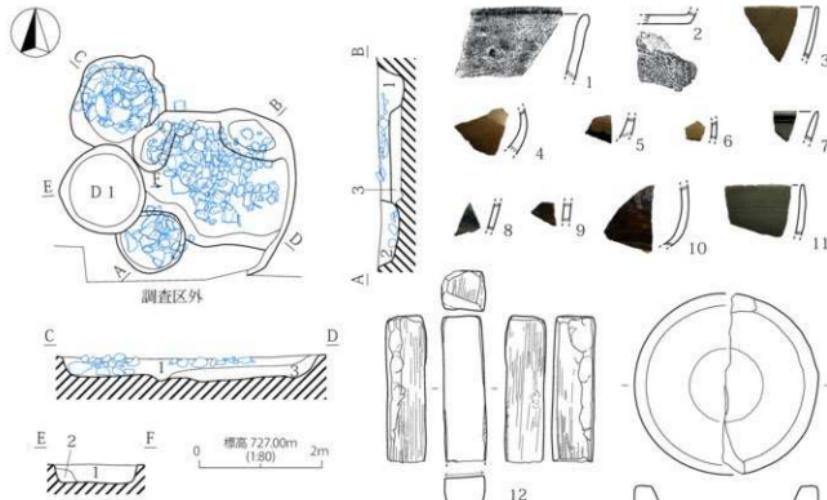
#### ○SD 5号土坑 (第35・36図)

C 11グリットで検出された。D 15号土坑を切る。N-76°-Wに長軸方位をとる。湧水が激しく底面を確認することは出来なかった。長軸長3.17m、短軸長2.9m、面積6.8m<sup>2</sup>の規模である。平面形態は不整な円形である。本址は井戸であり、河原石を方形に積み上げた井戸枠が構築されていた。

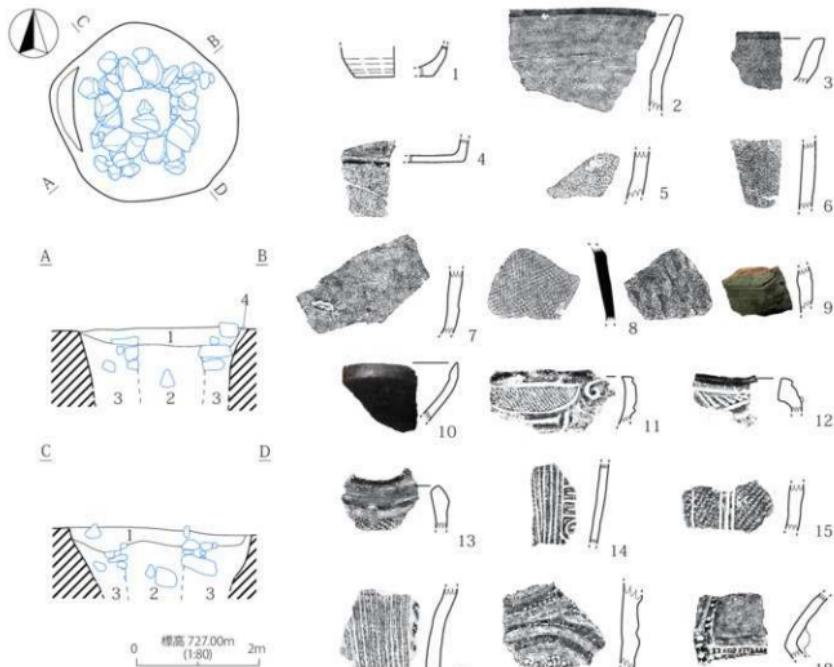
遺物は土師器・土師質土器、須恵器、陶器、縄文土器、土製品、石器・石製品が出土している。土師器はかわらけが、土師質土器は内耳鍋が認められる。須恵器は表片が1点認められる。陶器は瓶子と天目茶碗が1点づつ認められる。いずれも古瀬戸で、瓶子が中期様式14 C?、天目茶碗が後期様式I 14 C後半である。縄文土器は中期後半の加曾利E式や曾利式がほとんどであるが、後期壺之内式も混在する。石器・石製品には打製石斧、磨



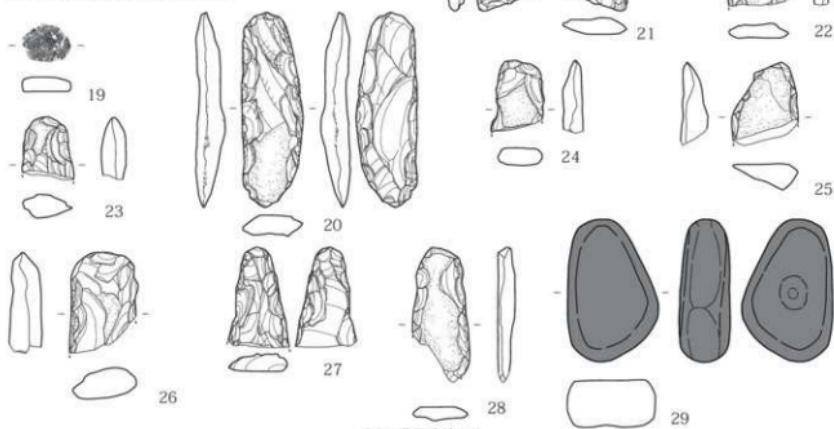
第33図 集石土坑 1



第34図 集石土坑2

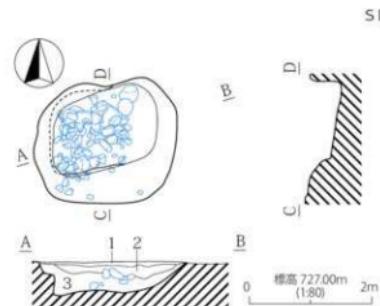
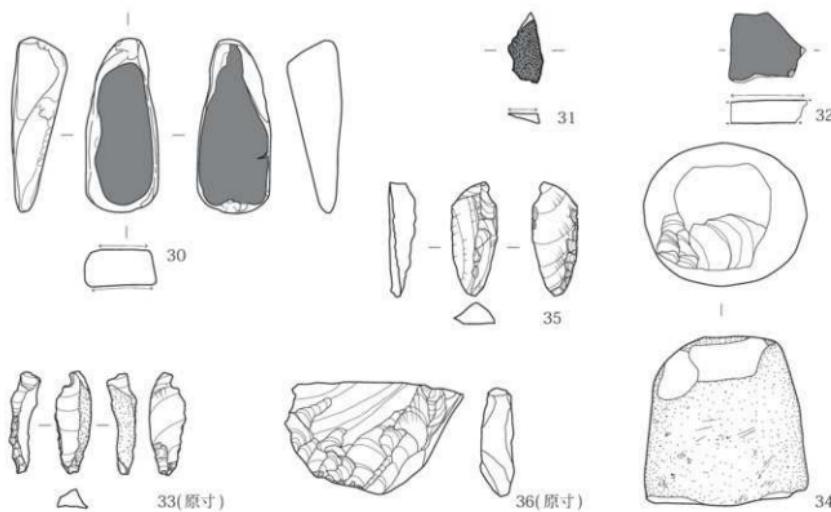


1. 黑褐色土層 (10YR2/2) 炭化物極少。
2. 黑褐色土層 (10YR2/3) 炭化物・ローム粒子極少。
3. 褐色土層 (10YR4/4) ローム粒子多。
4. 黃褐色土層 (10YR5/8) ローム二次堆積。

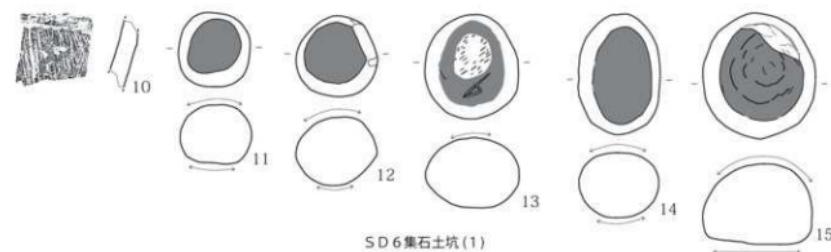


SD 5集石土坑(1)

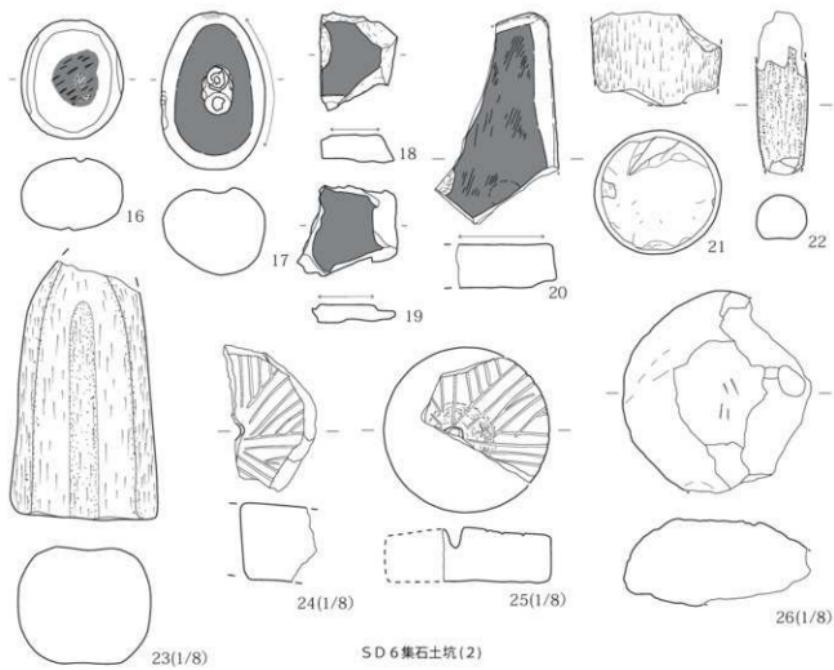
第35図 集石土坑3



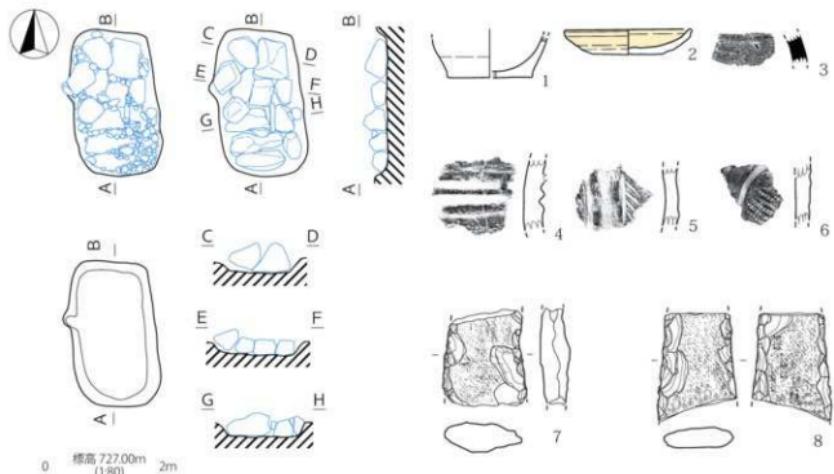
1. 黒色土層 (7.SYR1.7/1) 稲作土。
2. 黒褐色土層 (7.SYR3/1)  $\phi 5\text{ mm} \sim 1\text{ cm}$  大バミス少食。
3. にふり褐色土層 (7.SYR5/3) ローム多食,  $\phi 5\text{ mm}$  大バミス少食。



第36図 集石土坑4



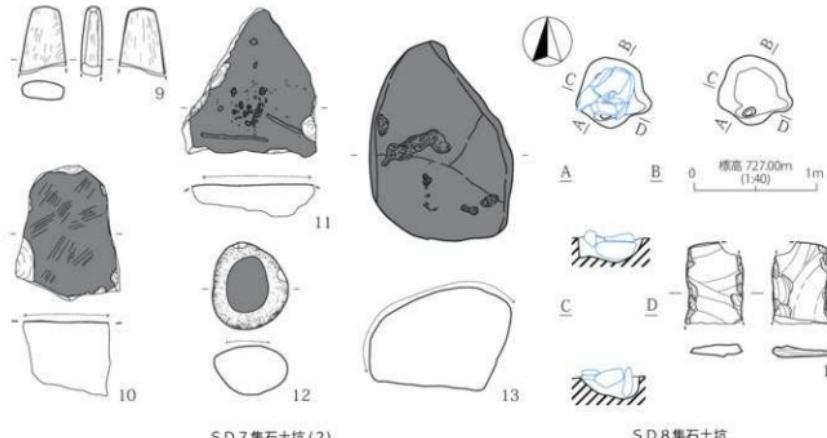
SD 6 集石土坑 (2)



0 標高 727.00m (1:80) 2m

SD 7 集石土坑 (1)

第 37 図 集石土坑 5



第38図 集石土坑6

石、砥石、石錐、石棒、加工痕のある剥片が認められる。ほとんどのものは井戸枠の構築材として集められたものと思われる。

以上の出土遺物の特徴から本址は中世以降の所産と考えられる。

#### ○ S D 6号土坑（第36・37図）

H 8グリットで検出された。D 20号土坑を切る。N-72°-Eに長軸方位をとる。長軸長2.45m、短軸長1.97m、壁残高0.56m、面積4.0m<sup>2</sup>の規模である。平面形態は不整な楕円形、断面は西底面がオーバーハングし、2段落ちとなるが、東側は鍋底状になだらかな底面を形成する。集石は底面よりも上層に存在する。

遺物は縄文土器、石器・石製品が出土している。縄文土器は中期後半の加曾利E式、曾利式、郷土式である。石器・石製品は磨石、磨・敲石、凹敲石、凹・敲・磨石、砥石、石棒、石臼、五輪塔が出土している。石材として集められたものと思われる。

以上の出土遺物の特徴から本址は中世以降の所産と考えられる。

#### ○ S D 7号土坑（第37・38図）

K 4グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-8°-Wに長軸方位をとる。長軸長2.35m、短軸長1.41m、壁残高0.22m、面積3.15m<sup>2</sup>の規模である。平面隅丸長方形、断面逆梯形の形態である。集石は底面からギッシリと組上げられ、隙間には小石が充填されていた。集石土坑というよりは集石とした方がよいのかもしれない。

遺物は土師器、須恵器、陶器、縄文土器、石器・石製品が出土している。土師器はロクロ甕片が1点、須恵器は壺片が1点、陶器は前山焼の燈明皿が1点、縄文土器は中期後半の曾利式、加曾利E式、唐草門系の土器片が各々1点認められる。石器・石製品は打製石斧、砥石、磨石の器種が認められる。

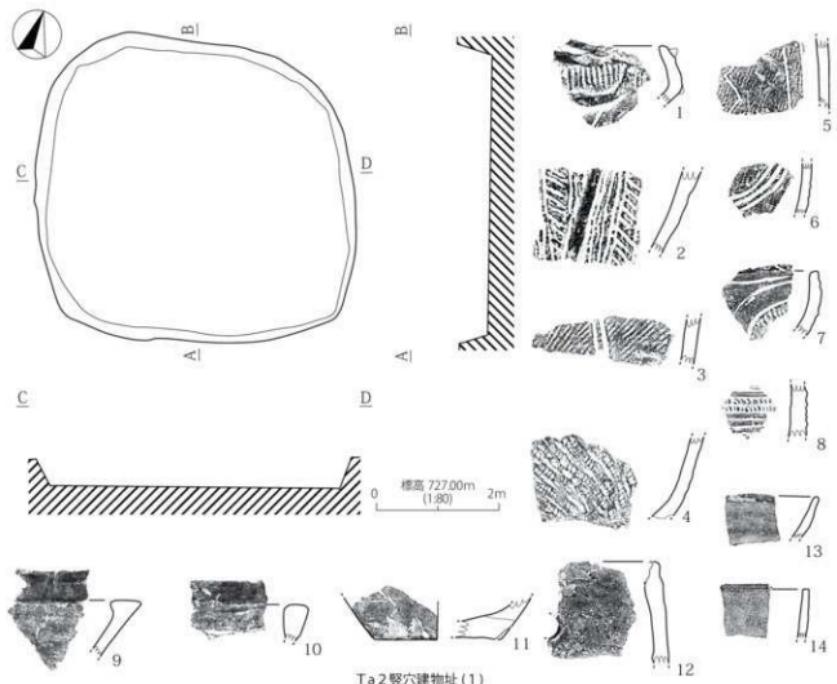
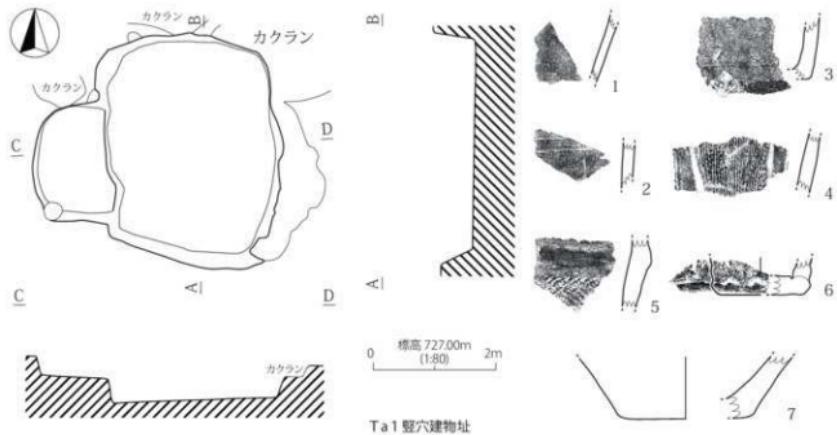
以上の出土遺物の特徴から本址は近世の所産と考えられる。

#### ○ S D 8号土坑（第38図）

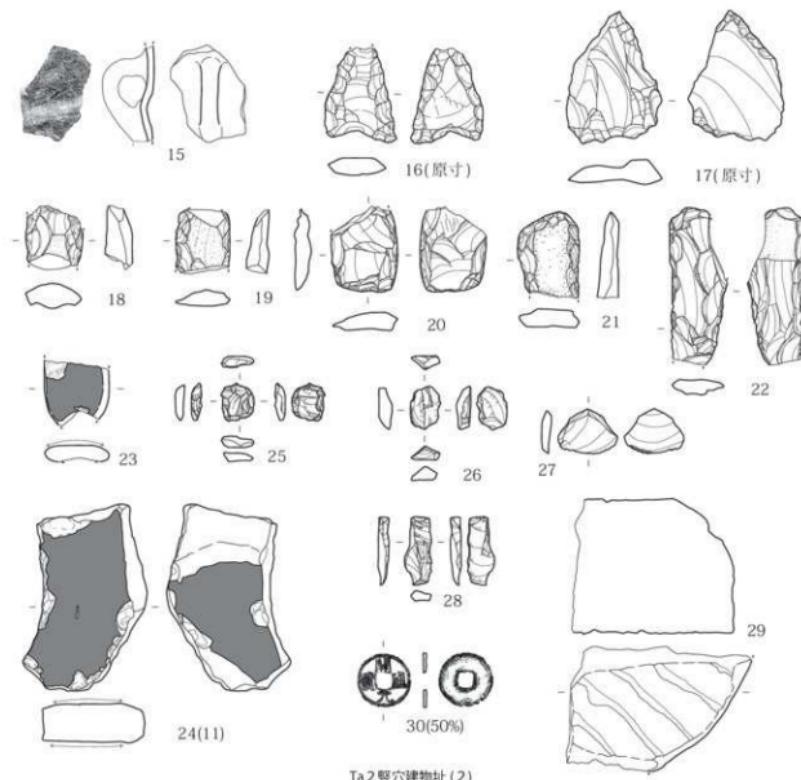
I 7グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-30°-Eに長軸方位をとる。長軸長1.09m、短軸長0.96m、壁残高0.38m、面積0.98m<sup>2</sup>の規模である。平面不整円形、断面不整形の形態である。集石は底面から組上げられていた。集石土坑というよりは礎石とした方がよいのかもしれない。

遺物は打製石斧片が1点出土しているが、構築材として集められたものであろう。

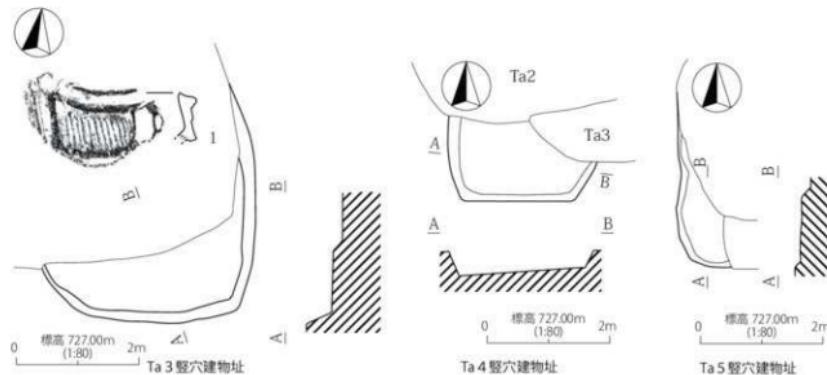
本址の所産期は不明である。



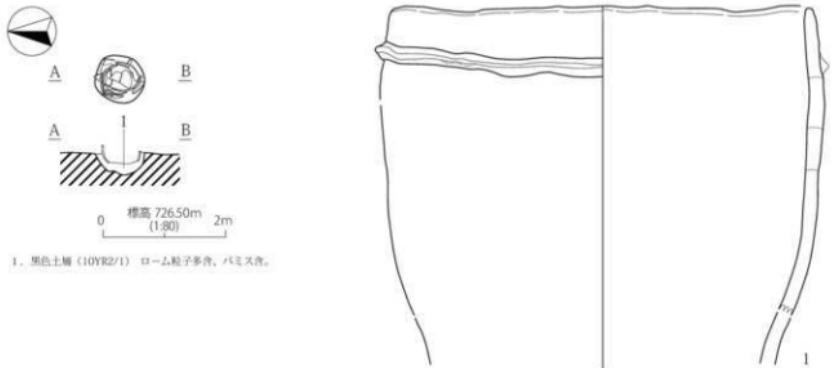
第39図 穫穴建物址 (1)



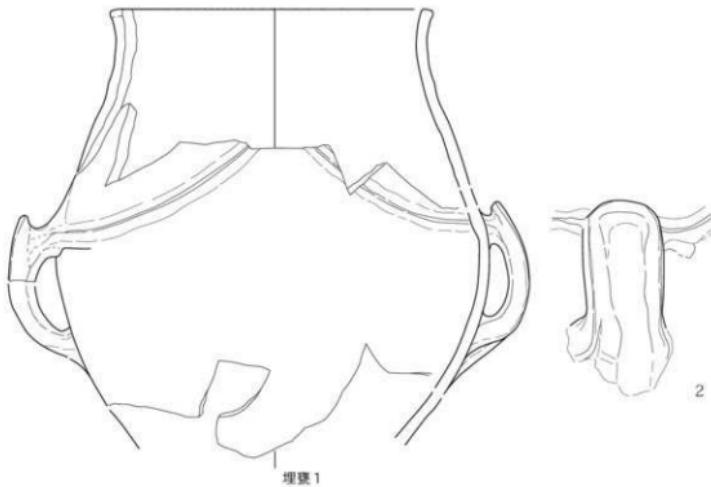
Ta 2 壁穴建物址 (2)



第 40 図 壁穴建物址 (2)

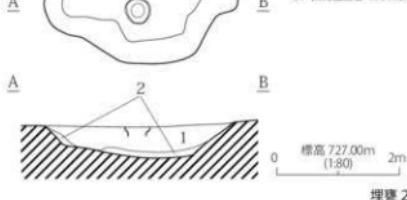


1. 黒色土層 (10YR2/1) ローム粒子多含、バニス含。

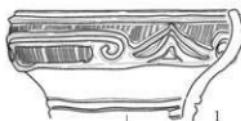


埋甕 1

1. 黒色土層 (10YR2/1)  $\phi$  2cm以下バニス・ローム粒子含。  
2. 黒褐色土層 (10YR3/2)  $\phi$  2cm以下バニス・ローム粒子多含。



埋甕 2



第 41 図 埋甕

## 第4節 竪穴建物址

### ○ T a 1号竪穴建物址（第39図）

E 10グリットで検出された。カクランによる破壊を受けるが他遺構との重複関係は有さない。N-90°-Eに長軸方位をとる。長軸長約4.05m、短軸長3.83m、壁残高0.77m、面積約11.9m<sup>2</sup>の規模である。平面は西辺中央に方形の張り出し部分を有する方形、断面は逆梯形の形態である。張床、周溝、柱穴などの付属施設は一切認められなかった。

遺物は土師質土器の内耳鍋辺3点と縄文土器片が4点出土している。縄文土器は中期のものである。

以上の出土遺物の特徴から本址は中世の所産と思われる。

### ○ T a 2号竪穴建物址（第39・40図）

F 10グリットで検出された。H 5号住居址、T a 3～5号竪穴建物址を切る。N-17°-Wに長軸方位をとる。長軸長約5.19m、短軸長4.92m、壁残高0.52m、面積約22.83m<sup>2</sup>の規模である。平面は隅丸方形、断面は逆梯形の形態である。張床、周溝、柱穴などの付属施設は一切認められなかった。

遺物は縄文土器片が12点と土師質土器の内耳鍋片3点、石器・石製品、銅製品が出土している。縄文土器は中期後半のものが大半を占めるが、中葉や後期のものも認められる。内耳鍋片は1点のみが内耳部分であり、他は口縁部片である。石器・石製品には打製石鐵、打製石斧、磨石、砥石、加工痕の有る剝片、石臼が認められる。銅製品は古錢（開元通宝）が1点出土している。

以上の出土遺物の特徴から本址は中世の所産と思われる。

### ○ T a 3号竪穴建物址（第40図）

F 10グリットで検出された。T a 2号竪穴建物址に切られ、T a 4号竪穴建物址を切る。壁残高0.45m以外の規模は不明である。平面は隅丸長方形を呈するものと思われる。断面は逆梯形の形態である。張床、周溝、柱穴などの付属施設は一切認められなかった。

遺物は縄文時代中期後半の深鉢口縁部片が1点出土している。

遺構の重複関係から本址の時期は中世以降と思われる。

### ○ T a 4号竪穴建物址（第40図）

G 10グリットで検出された。T a 2・3号竪穴建物址に切られ、T a 5号竪穴建物址を切る。壁残高0.4m以外の規模は不明である。平面は長方形を呈するものと思われる。断面は逆梯形の形態である。張床、周溝、柱穴などの付属施設は一切認められなかった。

出土遺物は皆無であった。

遺構の重複関係から本址の時期は中世以降と思われる。

### ○ T a 5号竪穴建物址（第40図）

C 10グリットで検出された。T a 2～4号竪穴建物址に切られ、H 5号住居址を切る。壁残高0.4m以外の規模は不明である。平面は長方形を呈するものと思われる。断面は逆梯形の形態である。張床、周溝、柱穴などの付属施設は一切認められなかった。

出土遺物は皆無であった。

遺構の重複関係から本址の時期は中世以降と思われる。

## 第5節 埋甕

### ○埋甕1（第41図）

I 9グリットで検出された。他遺構との重複関係は有さない。N-55°-Eに長軸方位をとる。長軸長0.84m、短軸長0.78m、壁残高0.35m、面積0.5m<sup>2</sup>の規模である。平面は円形、断面は鍋底の形態である。掘方は土器の法量に合わせ掘り込まれており、甕は2の中に1が入子状態で正位に埋設されていた。

出土遺物は埋設されていた2点の他には認められなかった。1は入子になっていた深鉢であり、口縁部に1条の隆帯が巡るほかは無文である。2は把手付の鉢で、把手は両耳である。文様は把手から弧状に口縁部に向かい

のびる 2 条の隆帯以外は施されない。

以上の出土遺物の特徴から、本址の時期は縄文時代中期後半から後期初頭と思われる。

#### ○埋甕 2 (第 41 図)

L 4 グリットで検出された。カクランによる破壊を受けるほかは、他遺構との重複関係は有さない。N - 90° - W に長軸方位をとる。長軸長 3.15 m、短軸長 2.36 m、壁残高 0.54 m、面積 5.49 m<sup>2</sup> の規模である。平面は不整な楕円形、断面は逆梯形の形態である。埋甕は頸部下が欠損しており、掘方中央に正位で埋設されていた。

出土遺物は埋設土器以外は存在しない。埋設土器は加曾利 E II 式の深鉢である。

出土遺物から、本址は縄文時代中期後半加曾利 E II 式期の所産と思われる。

### 第 5 節 ピット (第 42 ~ 44 図)

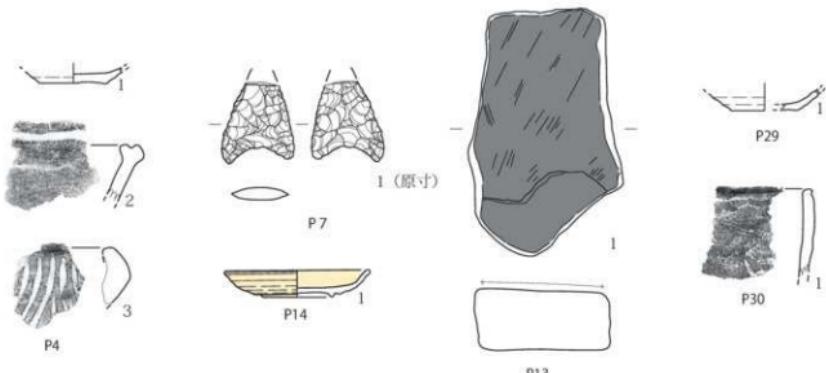
北側の調査区から 40 基検出されている。平安時代の住居址や、近世遺構である S D 1 を切るものが存在することから時期的には中世以降に構築されたものと思われる。平面形態は円、楕円形が主体であるが、方、長方形のものも認められる。断面形態は逆梯形を基本とし、深度は深い傾向にある。

遺物は P4・P7・P13・P14・P29・P30 の 6 基から出土している。P4 からは、土師器坏片 1 点、縄文時代中期後半の深鉢片が 2 点、P7 からは、黒曜石製の打製石鎌が 1 点、P13 からは砥石が 1 点、P14 からは 17 世紀の漁戸・美濃製丸皿片が 1 点、P29 からは土師器坏片が 1 点、P30 からは縄文時代後期の深鉢片が 1 点が出土した。

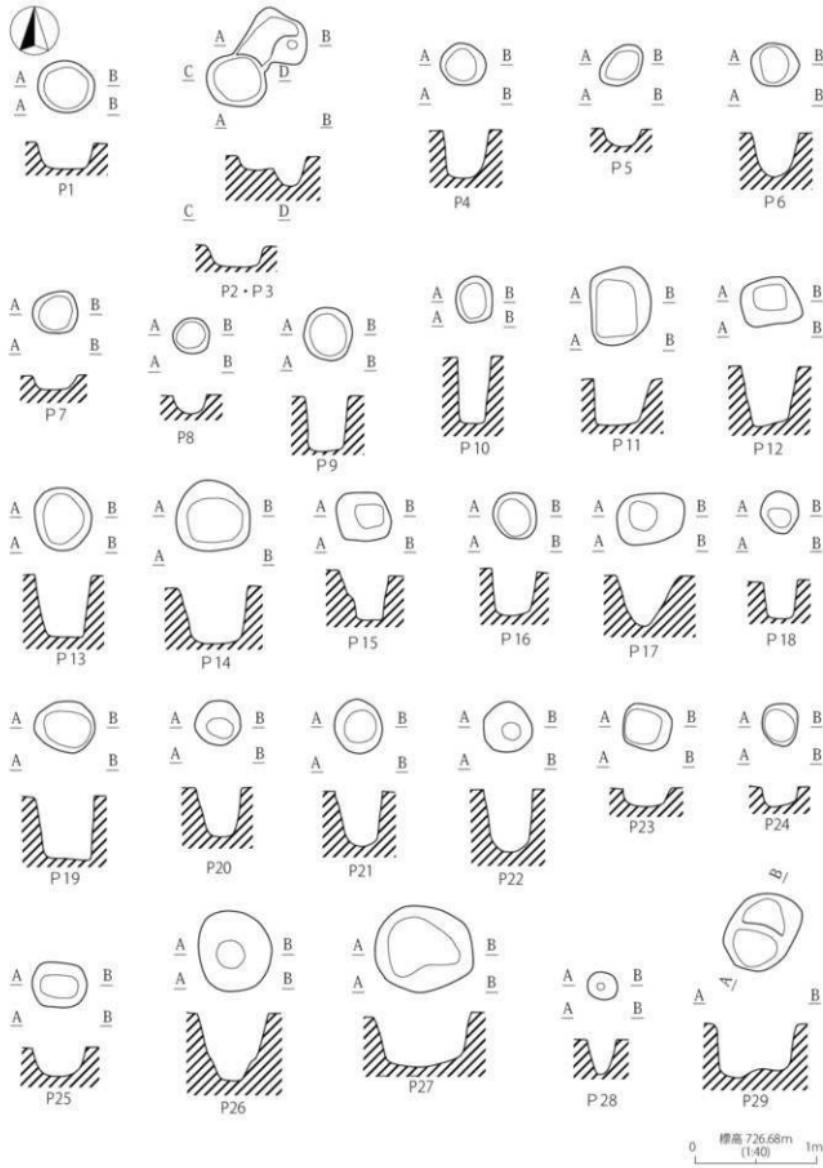
これらのピットの多くは、集石土坑 SD 1 ~ 3 とともに近世の家を構成していた可能性が強いものと思われる。

### 第 6 節 遺構外出土遺物 (第 45 ~ 48 図)

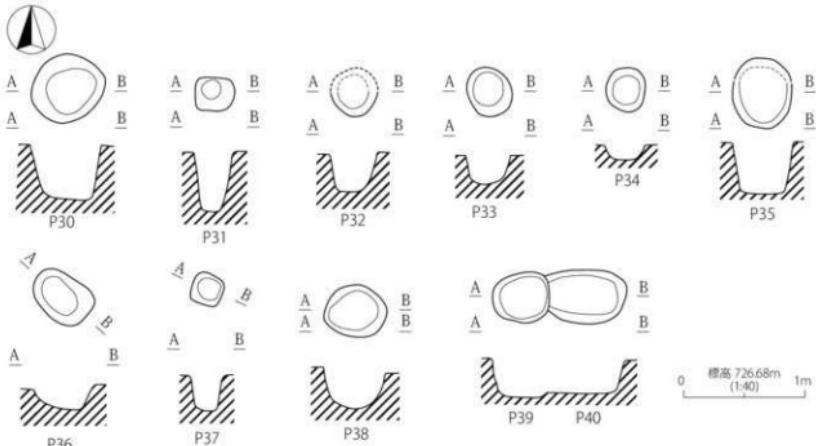
遺構外出土遺物としては縄文土器、土師器、灰釉陶器、陶器、石器・石製品、銅製品が出土している。縄文土器には前期 (33) のもの、中期中葉 (32・66・67)、中期後半 (1 ~ 31、34 ~ 40、49)、後期 (41 ~ 48、50 ~ 65) の時期のものが認められるが主体となるのは中期後半から後期のものである。中期後半土器の中では加曾利 E 式の占める割合が高く、時期的には E I から E III 期が大半である。他型式の土器としては曾利式や唐草文系が多く、在地の郷土式は最も少ない。これは、郷土式が当地方で主体となる時期以前に当遺跡の中期後半期の隆盛期が位置するためと思われる。後期の土器は称名寺式が主体である。土坑出土資料にはまとまった量の堀之内 2 式が認められることから、中期後半終末期から堀之内 2 式までの期間が当遺跡における縄文時代後期の隆盛期と考えられる。土師器は平安時代のものと、中世以降の土師質土器が認められる。土師質土器の大半は内耳



第 42 図 ピット出土遺物



第43図 ピット(1)



第44図 ピット(2)

鍋と思われる土鍋である。灰釉陶器は1点のみ皿が出土している。陶器は近世のものであり、北調査区に存在したと思われる江戸時代の家に伴うものであろう。石器・石製品には打製石鎌、打製石斧、磨・敲石、凹・磨・敲石、砥石、加工痕のある剝片、石錐の器種が認められる。最も多いものは打製石斧で27点認められた。次いで加工痕のある剝片が19点、砥石が13点、打製石鎌が6点であり他の器種は少數であった。銅製品は2点の古銭が出土している。寛永通宝と紹聖元寶である。

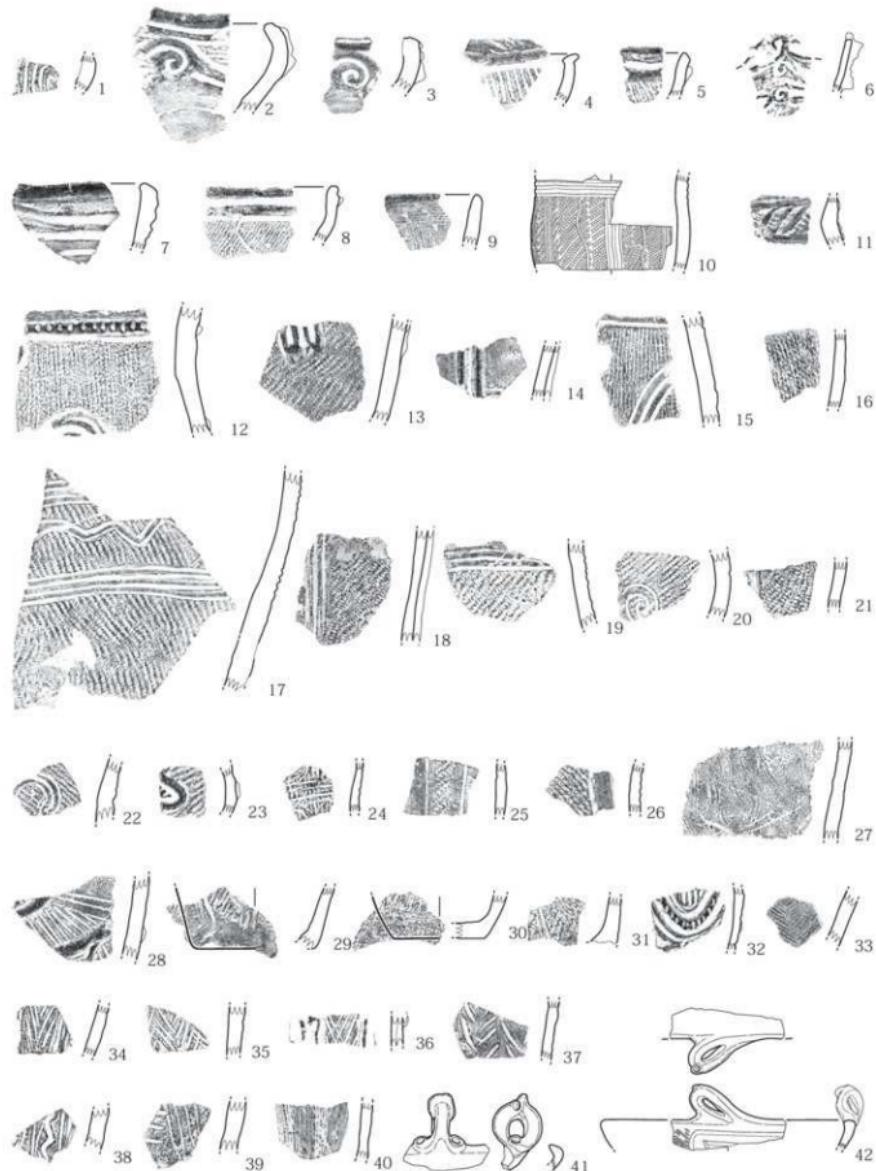
以上のように、遺構外出土遺物は遺構内出土遺物と同様な時期・器種であり、ほとんどのものは本来遺構内に包括されていたものがと思われる。

### 第三章まとめ

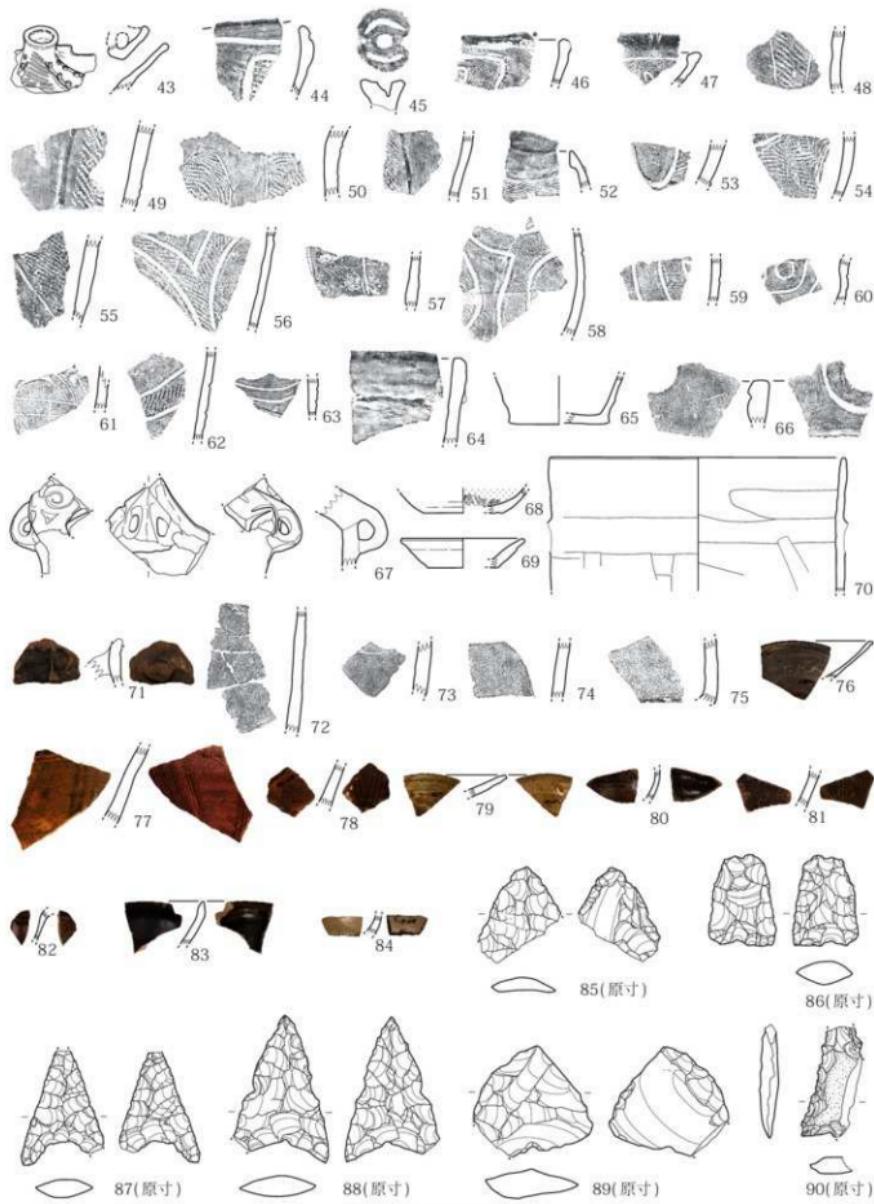
山伏木遺跡の調査が行われたのは平成元年であり、調査から30年の歳月が過ぎ去った。遺跡周辺では調査後に本格的な発掘調査を行う必要が生じるような開発は行われておらず、山伏木遺跡の調査は、当該地域の様相を知りえる重要な資料と言える。

縄文時代の成果としては、平坦な沖積平野にも中期の集落が展開することが判明したことが挙げられる。遺跡の北を東西に走る上信越自動車道の調査では、平尾富士の裾野部に立地する北山寺遺跡や丸山遺跡、大星尻古墳群などの遺跡が調査されているが、前期から中期初頭の遺構・遺物が主であり、当遺跡と同時期のものは稀である。上信越自動車道を更に週り標高900mの香坂地区の吹付遺跡では、中期後半～後期前葉の集落が発見されており、当遺跡との時期的重複が確認できる。しかし中期後半の遺構・遺物は中期後半の後半部分である。以上から、平尾富士の山麓尾根端部に営まれていた縄文時代集落は、中期中葉の後に沖積平野面に進出し中期後半加曾利EⅡ期まで存続し、EⅢ期以降は再度山麓尾根端部や斜面に立地するものと、そのまま沖積平野面に展開するものに分かれ、双方とも後期前葉の堀之内期まで継続する。という想定ができる。かなり乱暴な想定ではあるが、中期中葉の後半と中期後半の加曾利EⅡ期、後期堀之内期に変化要因が存在するようである。遺物面からは、中期後半加曾利EⅠからⅡ期においては、加曾利系土器が主体であり、曾利式や唐草門系土器は主体ではない。石器に占める石鎌の比率は低く、打製石斧や加工痕のある剝片が多く認められることから、食料獲得手段としては採取の比重が高かったのかもしれない。後期については、東信地域では遺跡の減少化傾向ではなく、むしろ増加しているように思われる。当遺跡では堀之内期で集落は断絶している。

平安時代の集落は平尾富士裾野部や、尾根間の扇状地でも集落が発見されている。掘立柱建物址は少数で、住



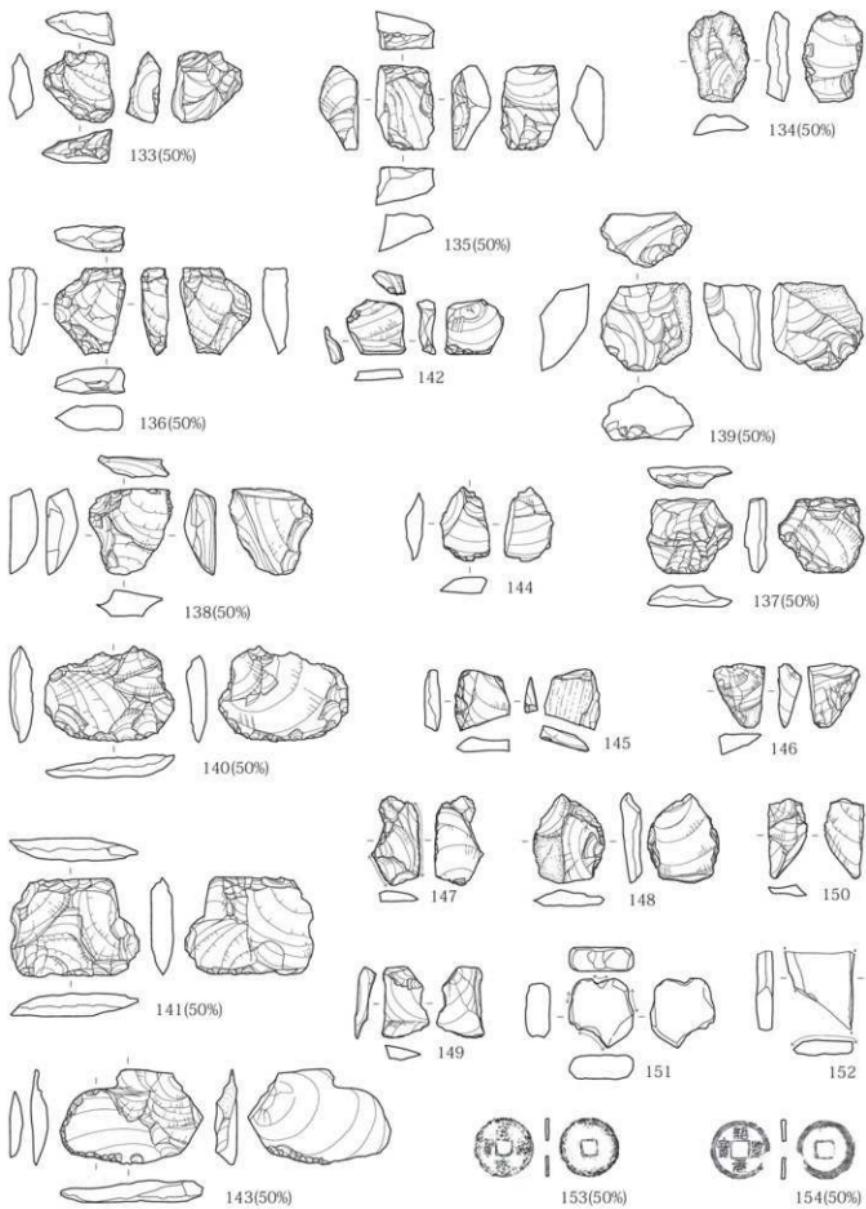
第45図 道構外出土遺物(1)



第46図 遺構外出土遺物(2)



第47図 道構外出土遺物(3)



通標計測表(1)

通標名	樹齢	重複要素	現状				ビット	付属地図	備考	時期
			主始方位	長軸長	短軸長	面積				
H1	Q3	P 9°・31°・38°に切られる	N - 22° - E	3.81	3.38	0.11	12.19	3 おマド・周溝	西側の床面がベッド板に1箇所、	奈良・平安時代V期
H2	N4	P 2°・339.40	N - 0° - E	3.11	2.93	0.07	8.17	1 オマド	—	奈良・平安時代VI期
H3	N3	—	N - 0° - E	4.02	3.87	0.24	12.2	床溝 5+脚 6 カマド・周溝	東西中央部の2箇所のビットが土柱で	奈良・平安時代VI期
H4	L1.1	カクランに切られる	N - 21° - E	3.69	3.51	0.13	9.34	14 椅・周溝	東西出入人口	中期後半
H5	G10	Ta2～5、JB3、カクランに切られる	N - 13° - W	5.33	4.9	0.14	—	16 椅・周溝	が周辺床面よりやや深い、	中期後半
H6	F6	JB3、カクランに切られる	N - 23° - W	4.88	4.85	0.32	—	15 椅	—	中期後半
H7	I.5	調査区外に近づける	—	—	0.29	—	7	—	—	中期後半
D1	T4	S D3 を切る	N - 0° - E	1.46	1.35	0.41	1.58	—	—	—
D2	P4	S D2 に切られる	—	—	0.22	—	—	—	—	—
D3	R4	—	N - 20° - W	0.68	0.49	—	—	—	—	—
D4	I.12	—	N - 12° - E	1.14	0.94	0.29	0.82	—	—	—
D5	F11	—	N - 24° - W	1.64	1.1	0.21	1.37	3	—	—
D6	C11	—	N - 15° - W	1.24	1.03	0.41	0.97	—	—	—
D7	C11	—	N - 15° - W	1.13	0.98	0.29	0.91	—	—	—
D8	D11	—	N - 0° - E	0.68	0.64	0.26	0.35	—	—	—
D9	D11	—	N - 13° - W	1.34	1.17	0.47	1.25	—	—	—
D10	F7	—	N - 7° - E	3.86	2.21	1.11	6.59	—	底面2段	—
D11	E11	—	N - 30° - E	1.71	1.31	0.24	1.8	—	5	—
D12	G11	—	N - 9° - W	1	0.8	0.13	0.59	3	—	—
D13	G11	D 1.4 を切る	N - 90° - E	1.31	0.96	0.08	0.96	—	—	—
D14	G11	D 1.3 に切られる	N - 8° - W	0.97	0.93	0.17	—	—	—	—
D15	B11	S D 5 に切られる	N - 32° - W	0.74	—	0.18	—	—	—	—
D16	J12	—	N - 26° - E	0.74	0.68	0.3	0.37	—	—	—
D17	J12	—	N - 17° - W	0.68	0.6	0.21	0.33	—	—	—
D18	C1.0	カクランに切られる	N - 62° - E	4.9	4.7	0.89	—	—	底面2段	—
D19	B1.1	—	N - 50° - E	2.88	2.43	0.15	5.08	3	—	底面3段
D20	H.8	S D 6 に切られる	N - 12° - W	2.1	—	0.74	—	—	—	—
S D 1	Q4	P37 に切られる	N - 90° - E	2.06	1.42	0.43	2.16	—	—	—
S D 2	P4	D 2 を切る	N - 67° - W	0.42	(0.26)	0.36	(1.32)	1	—	—
S D 3	S4	D 1 に切られる	N - 49° - W	4.23	3.32	0.42	—	—	5 基の掘り込みにより構成される	—
S D 4	L.3	—	N - 68° - W	2.55	1.98	0.18	4.11	—	—	—
S D 5	C11	D 1.5 を切る	N - 76° - W	3.17	2.9	—	6.8	—	井戸	中世以降
S D 6	H.8	D 20 を切る	N - 72° - E	2.45	1.97	0.56	4	—	—	近世
S D 7	K4	—	N - 8° - W	2.35	1.41	0.22	3.15	—	—	不明
S D 8	I.7	—	N - 30° - E	1.09	0.96	0.38	0.98	—	—	中世以降
Ta1	E10	カクランに切られる	N - 90° - E	(406)	3.83	0.77	(11.9)	—	—	中世以降
Ta2	F10	H.5・Ta3～5を切る	N - 17° - W	5.19	4.92	0.52	22.83	—	—	中世以降
Ta3	F10	Ta2 に切られ、Ta4 を切る	—	—	0.45	—	—	—	—	中世以降
Ta4	G10	Ta2・3 に切られ、Ta5 を切る	—	—	0.4	—	—	—	—	中世以降
Ta5	I.9	Ta2～4 に切られ、HS を切る	N - 55° - E	0.84	0.78	0.35	0.5	—	—	中世末～後期初頭
開墾1	G10	カクランに切られる	N - 90° - W	3.15	2.36	0.54	5.49	—	入子	—
開墾2	L.4	カクランに切られる	—	—	—	—	—	—	—	—

居規模も総じて小規模である。今回発見された3軒の住居址も同様であり、山間の農村集落と思われる。

中世の遺構は、南側調査区の南東部分に集中しており、竪穴建物址と井戸が発見された。付近では北山寺遺跡から15世紀中頃から16世紀前半の遺構群が発見されている。年代的には判然としないが、東南方向に向かい遺構は続くものと思われる。

北側調査区に散在する集石土坑や土坑、ピットは近世の家の痕跡の可能性が強い。形状は知れないが、18世紀～19世紀に家が存在したものと思われる。

遺構計測表(2)

遺構名	平面形態	長軸長	短軸長	壁残高	重複関係	備考	検出位置
P 1	円形	0.95	0.87	0.44	—	10YR2/1	Q4
P 2	円形	1.01	0.87	0.23 P3を切る	—	10YR2/1	Q4
P 3	—	—	1.03	0.49 P2に切られる	—	10YR2/1	Q4
P 4	円形	0.76	0.71	0.79	—	10YR2/1、バミス多合	N4
P 5	楕円形	0.81	0.56	0.32	—	10YR2/1	N4
P 6	楕円形	0.81	0.72	0.72	—	10YR2/1、バミス多合	M4
P 7	楕円形	0.77	0.7	0.23	—	10YR2/1、バミス多合	N4
P 8	円形	0.61	0.59	0.3	—	10YR2/1	N4
P 9	円形	0.87	0.79	0.9 H1を切る	—	10YR2/2、ローム粒・バミス多合	Q 3
P 10	楕円形	0.77	0.61	1.09	—	10YR2/3、ローム粒・バミス合	P3
P 11	楕円形	1.29	1	0.76	—	1 10YR2/1、ローム粒・バミス多合 2 ローム主体	P3
P 12	楕円形	0.98	0.78	1.01	—	10YR2/1、ローム粒・ブロック多合	P3
P 13	円形	1.04	0.95	1.02	—	10YR2/1、ローム粒合	Q 3
P 14	円形	1.22	1.16	0.95	—	10YR2/2、ローム粒・バミス多合	R3
P 15	方形	0.9	0.8	0.73	—	10YR2/2、ローム粒・バミス多合	R3
P 16	円形	0.81	0.71	0.74	—	10YR2/1、ローム多合	R3
P 17	楕円形	1.14	0.85	0.85	—	10YR2/1、ローム粒・バミス多合	R4
P 18	円形	0.73	0.66	0.61	—	10YR2/1、バミス多合	Q4
P 19	楕円形	0.99	0.85	1.05	—	10YR2/1、ローム・バミス多合	P4
P 20	円形	0.78	0.73	0.8	—	10YR2/1、ローム・バミス多合	P4
P 21	楕円形	0.89	0.8	0.94	—	10YR2/1、ローム・バミス多合	Q4
P 22	円形	0.83	0.82	1.04	—	10YR2/1、ローム・バミス多合	P3
P 23	方形	0.77	0.71	0.31	—	10YR2/1、ローム・バミス多合	Q3
P 24	楕円形	0.71	0.57	0.31	—	10YR2/1、ローム・バミス多合	Q3
P 25	楕円形	0.91	0.73	0.47	—	10YR2/2、ローム粒・ブロック多合	Q2
P 26	円形	1.31	1.22	1.14	—	10YR2/2、ローム粒・ブロック多合	Q2
P 27	円形	1.63	1.44	0.85	—	10YR2/2、ローム粒・ブロック多合	R2
P 28	楕円形	0.51	0.43	0.58	—	—	R4
P 29	楕円形	1.36	1.08	0.91 底面2段	—	10YR2/1、ローム粒・ブロック多合	M4
P 30	楕円形	1.22	1.01	0.91	—	10YR2/1、ローム粒・ブロック多合	M4
P 31	長方形	0.66	0.53	0.99 H1を切る	—	10YR2/1	Q3
P 32	円形	0.81	0.8	0.63	—	10YR2/1	M1
P 33	楕円形	0.65	0.58	0.49	—	10YR2/1	M2
P 34	楕円形	0.75	0.65	0.86	—	—	N2
P 35	楕円形	1.15	0.98	0.86	—	—	N1
P 36	楕円形	1.05	0.75	0.35	—	—	O2
P 37	方形	0.53	0.5	0.57 SD1を切る	—	—	Q4
P 38	楕円形	1.06	0.89	0.59 H1を切る	—	—	Q3
P 39	楕円形	0.93	0.84	0.66 H2・P40を切る	—	—	Q4
P 40	楕円形	—	0.9	0.53 H2・P39に切られる	—	—	Q4

H.1号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	口径(径)	法 量 (底径)(厚度)(重量)	法 量 (底径)(厚度)(重量)	法 量 (底径)(厚度)(重量)	成形・調整		備考	出土層位
							内面	外面		
1	土師器	环	13.6 (17.4)	3.0 (4.2)	黑色處理 ミガキ→黒色處理	ヘラケシリ	回転失調	回転失調、団上復元	II区	
2	土師器	环	17.2 (19.8)	— (3.6)	— ナデ	ヘラケシリ ナデ	回転失調	回転失調	I区	
3	土師器	武藏焼	20.4 <5.8>	— 5.6	— 1.1	— <42.7>	完全失調 完全失調	完全失調	IV区	
4	土師器	武藏焼	4.2 <6.5>	0.9	0.9	<51.0> <60.3>	— —	完全失調 完全失調	カマド西	
5	石器	打製石斧	—	—	—	—	—	完全失調	I区	
6	石器	打製石斧	—	—	—	—	—	完全失調	I区	
7	石器	磨打型石器	—	—	—	—	—	完全失調	S6	
8	石器	磨石	23.2 磨石	11.3 6.5	2658.7 —	—	—	完全失調	完全失調	
9	石器	砾石	5.28 砾石	33.6 9.9	19820.0 砾面数 1	—	—	完全失調	S1	

H.2号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	口径(径)	法 量 (底径)(厚度)(重量)	法 量 (底径)(厚度)(重量)	法 量 (底径)(厚度)(重量)	成形・調整		備考	出土層位
							内面	外面		
1	土師器	环	(14.4)	(6.0) (4.5)	— (3.6)	ヘラミガキ→黑色處理 ヘラミガキ→黒色處理	底部・周縁へラケシリ・墨書き	回転失調	回転失調	Ⅱ区
2	土師器	环	(14.5)	(7.0)	— —	ヘラミガキ→黒色處理 ヘラケシリ	回転失調	回転失調	回転失調	Ⅱ区
3	土師器	武藏焼	— (25.5)	— —	— <8.2> —	ナデ ナデ	ヘラミガキ→黒色處理 ヘラミガキ→黒色處理	回転失調	回転失調	カマド内
4	土師器	口クロ型	— (13.2)	— (6.4)	— (4.6)	— —	— —	回転失調	回転失調	カマド内
5	須恵器	足頭瓶	— (15.8)	— (6.5)	— —	— —	— —	回転失調	回転失調	Ⅱ区
6	土師器	环	12.9 (16.6)	5.2 —	4.5 —	— —	黑色處理 黑色處理	完全失調	完全失調	Ⅱ区
7	土師器	环	13.0 (16.0)	7.5 —	3.9 —	— —	黑色處理 黑色處理	完全失調	完全失調	No.3
8	土師器	环	— (6.0)	— —	— —	— —	— —	回転失調	回転失調	No.4
9	土師器	环	— (6.2)	— —	— —	— —	— —	回転失調	回転失調	カマド
10	土師器	环	— (6.2)	— —	— —	— —	— —	回転失調	回転失調	カマド
11	土師器	环	— (6.2)	— —	— —	— —	— —	回転失調	回転失調	Ⅱ区
12	土師器	环	— (6.2)	— —	— —	— —	— —	回転失調	回転失調	Ⅱ区
13	土師器	环	— (6.6)	— —	— —	— —	— —	回転失調	回転失調	Ⅱ区
14	土師器	环	— (6.4)	— —	— —	— —	— —	回転失調	回転失調	No.5
15	土師器	环	— (12.5)	— —	— —	— —	— —	回転失調	回転失調	Ⅱ区
16	須恵器	环	— (6.0)	— —	— —	— —	— —	回転失調・火葬	回転失調	カマド
17	須恵器	环	— (5.4)	— —	— —	— —	— —	— —	— —	カマド
18	須恵器	环	— (6.4)	— —	— —	— —	— —	右回転失調	回転失調	Ⅱ区
19	灰陶陶器	碗	— (15.8)	— —	— —	— —	— —	施釉	回転失調	Ⅱ区
20	灰陶陶器	碗	— (22.0)	— —	— —	— —	— —	施釉	完全失調	No.1・2
21	土師器	口クロ型	— —	— —	— —	— —	— —	ヘラケシリ	回転失調	カマド

H.3号住居址出土遺物観察表(1)

No.	器種	器形	口径(径)	法 量 (底径)(厚度)(重量)	法 量 (底径)(厚度)(重量)	法 量 (底径)(厚度)(重量)	成形・調整		備考	出土層位
							内面	外面		
1	土師器	环	(12.8)	5.7 (4.5)	4.8 —	— —	黑色見明 黑色見明	回転失調	完全失調	Ⅱ区
2	土師器	环	12.9 (13.0)	5.2 —	4.5 —	— —	黑色見明 黑色見明	回転失調	完全失調	No.3
3	土師器	环	— (13.0)	7.5 —	3.9 —	— —	黑色見明 黑色見明	回転失調	完全失調	No.4
4	土師器	环	— (13.2)	— —	— —	— —	— —	回転失調	回転失調	カマド
5	土師器	环	— (15.8)	— —	— —	— —	— —	回転失調	回転失調	Ⅱ区
6	土師器	环	— (16.6)	— —	— —	— —	— —	回転失調	回転失調	Ⅱ区
7	土師器	环	— (6.0)	— —	— —	— —	— —	回転失調	回転失調	Ⅱ区
8	土師器	环	— (6.0)	— —	— —	— —	— —	回転失調	回転失調	No.6
9	土師器	环	— (6.2)	— —	— —	— —	— —	回転失調	回転失調	カマド
10	土師器	环	— (6.2)	— —	— —	— —	— —	回転失調	回転失調	カマド
11	土師器	环	— (6.2)	— —	— —	— —	— —	回転失調	回転失調	Ⅱ区
12	土師器	环	— (6.2)	— —	— —	— —	— —	回転失調	回転失調	Ⅱ区
13	土師器	环	— (6.6)	— —	— —	— —	— —	回転失調	回転失調	Ⅱ区
14	土師器	环	— (6.4)	— —	— —	— —	— —	回転失調	回転失調	No.5
15	土師器	环	— (12.5)	— —	— —	— —	— —	回転失調	回転失調	Ⅱ区
16	須恵器	环	— (6.0)	— —	— —	— —	— —	火葬	完全失調	カマド
17	須恵器	环	— (5.4)	— —	— —	— —	— —	— —	— —	カマド
18	須恵器	环	— (6.4)	— —	— —	— —	— —	クロナロナデ	回転失調	Ⅱ区
19	灰陶陶器	碗	— (15.8)	— —	— —	— —	— —	施釉	回転失調	Ⅱ区
20	灰陶陶器	碗	— (22.0)	— —	— —	— —	— —	施釉	完全失調	No.1・2
21	土師器	口クロ型	— —	— —	— —	— —	— —	ヘラケシリ	回転失調	カマド

H.3号住居址出土遺物觀察表(2)

No.	器種	器形	口径(外) 口径(内) 法 深	底径(外) 底径(内) 法 深	高さ(外) 高さ(内) 法 量	(重量) (重)	内面	外面	備考	出土層位
22	土器	クロ口縁 打製石斧	—	—	<1.84> <1.0>	— <1.78>	ハケ目	—	回転式測	IVK
23	石器・石製品	打製石斧	<3.6> <5.3>	<5.1> <5.6>	<23.6> <23.6>	— <0.6>	—	完全剥離	IVK	
25	石器・石製品	打製石斧	<3.7>	<5.5>	<23.6>	<0.8>	—	完全剥離	IVK	
26	石器・石製品	打製石斧	<4.5>	<6.1>	<35.6>	<54.9>	—	完全剥離	IVK	
27	石器・石製品	打製石斧	<7.0> <7.5>	<4.1> <4.2>	<7.8> <5.2>	<1.2> <1.3>	— <58.9>	完全剥離	I区	
28	石器・石製品	打製石斧	<8.8>	<6.7>	<2.9>	<197>	—	完全剥離	II区	
29	石器・石製品	打製石斧	4.3	1.3	1.0	16.9	安山岩	完全剥離	III区床	
30	石器・石製品	加工痕のある片割 磨石	<10.1>	<15.6>	<6.1>	<1536.9>	断面1・燃熱有	完全剥離	S10	
32	石器・石製品	砥石	<15.5>	<17.2>	<6.7>	<2750.0>	砥面1	完全剥離	S13	
33	石器・石製品	砥石	22.5	20.0	5.6	4230.0	砥面2	完全剥離	S4	

H.4号住居址出土遺物觀察表(1)

No.	器種	器形	口径(外) 口径(内) 法 深	底径(外) 底径(内) 法 深	高さ(外) 高さ(内) 法 量	(重量) (重)	内面	外面	備考	出土層位
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	繩文・半縫合部微凹に剝離 蛇行縫合・沈線文・縄文(IV)	—	破片剥離・拓本、前削跡隕b式	覆土
2	縄文土器	深鉢	—	(0.6)	<9.9>	—	蛇行縫合・沈線文・縄文(IV)	—	回転式測・中崩後半加曾利E II	覆土
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	垂下縫合・隆筋状縫合・縄文(IV)	—	破片剥離・拓本、中崩後半加曾利E II	覆土
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片剥離・拓本、中崩後半加曾利E II	覆土	
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片剥離・拓本、中崩後半曾利I	覆土	
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片剥離・拓本、中崩後半曾利I	覆土	
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片剥離・拓本、中崩後半曾利E I	覆土	
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片剥離・拓本、中崩後半曾利E I	覆土	
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片剥離・拓本、中崩後半曾利E I	覆土	
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片剥離・拓本、中崩後半曾利E I	覆土	
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片剥離・拓本、中崩後半曾利E I	覆土	
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片剥離・拓本、中崩後半曾利E I	覆土	
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片剥離・拓本、中崩後半曾利E I	覆土	
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片剥離・拓本、前削	覆土	
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	羽状縫合(IV)	破片剥離・拓本、中崩後半曾利E I	覆土	
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片剥離・拓本、中崩後半曾利E I	覆土	
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片剥離・拓本、中崩後半曾利E I	覆土	
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片剥離・拓本、中崩後半曾利E I	覆土	
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片剥離・拓本、中崩後半曾利E I	覆土	
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片剥離・拓本、中崩後半曾利E I	覆土	
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片剥離・拓本、中崩後半曾利E I	覆土	
22	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片剥離・拓本、中崩後半曾利E I	覆土	
24	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片剥離・拓本、中崩後半曾利E I	覆土	
25	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片剥離・拓本、中崩後半曾利E I	覆土	
26	縄文土器	深鉢	—	(1.22)	<3.6>	—	—	回旋式測・拓本、中崩後半曾利E I	覆土	
27	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片剥離・拓本、中崩後半曾利E I	覆土	

H.4 号住居址出土遺物觀察表(2)

No.	器種	器形	法 口徑(径) (底径)	厚度(厚) (重量)	内面		外面	備考	出土層位
					縫合・調査	外面			
28	縄文土器	深鉢	—	—	—	縫合部	—	縫片尖削・柘木、中崩末	覆土
29	縄文土器	深鉢	—	—	—	縫合部	—	縫片尖削・柘木、中崩末～後期初頭	覆土
30	縄文土器	深鉢	—	—	—	縫合部	—	縫片尖削・柘木、中崩末～後期初頭	覆土
31	縄文土器	深鉢	—	—	—	縫合部	—	縫片尖削・柘木、中崩末～後期初頭	覆土
32	縄文土器	深鉢	—	—	—	縫合部	—	縫片尖削・柘木、中崩末～後期初頭	覆土
33	縄文土器	深鉢	—	—	—	縫合部	—	縫片尖削・柘木、中崩末～後期初頭	覆土
34	縄文土器	鉢	—	—	—	縫合部	—	縫片尖削・柘木、中崩末～後期初頭	覆土
35	土器類	石器	打製石斧	7.0	5.6	1.4	71.4	ヘラミガホ・黒色處理	覆土
36	石器・石製品	石器	打製石斧	12.5	7.8	2.0	277.8	安山岩	完全尖削
37	石器・石製品	石器	打製石斧	15.0	6.0	1.1	120.7	安山岩	完全尖削
38	石器・石製品	石器	打製石斧	11.4	8.5	2.8	283.2	磐梯 1・岐打鐵	完全尖削
39	石器・石製品	磨・敲石	—	—	—	—	—	—	覆土
40	石器・石製品	石皿	—	—	—	—	—	—	覆土
41	石器・石製品	石皿	—	—	—	—	—	—	覆土
42	石器・石製品	加工鉋のある鉗片	43.65	24.0	11.5	254.30	使用面 2	完全尖削	覆土
43	石器・石製品	加工鉋のある鉗片	4.5	4.3	1.5	33.3	安山岩	完全尖削	覆土
44	石器・石製品	加工鉋のある鉗片	9.1	9.3	1.6	94.3	安山岩	完全尖削	覆土
45	石器・石製品	加工鉋のある鉗片	9.2	4.0	1.6	44.6	安山岩	完全尖削	覆土
			10.7	3.5	1.1	33.9	安山岩	完全尖削	覆土

H.5号住居址出土遺物觀察表(1)

No.	器種	器形	法 口徑(径) (底径)	厚度(厚) (重量)	内面		縫合・調査	外面	備考	出土層位
					縫合部	外面				
1	縄文土器	深鉢	(15.0) (12.6)	—	—	縫合部	—	縫合部尖突・縫帶・縫文 (RL)	回転尖削・中期後半加曾利 E II	覆土
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	温湯塗带・ヘラミガホによる沈縫文 (KL)	回転尖削・中期後半加曾利 E II	覆土
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	温湯塗带・ヘラミガホによる沈縫文 (RL)	回転尖削・中期後半加曾利 E II	覆土
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	温湯塗带・ヘラミガホによる沈縫文 (RL)	回転尖削・中期後半加曾利 E II	覆土
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	温湯塗带・ヘラミガホによる沈縫文 (RL)	回転尖削・中期後半加曾利 E II	覆土
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	温湯塗带・ヘラミガホによる沈縫文 (RL)	回転尖削・中期後半加曾利 E II	覆土
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	温湯塗带・ヘラミガホによる沈縫文 (RL)	回転尖削・中期後半加曾利 E II	覆土
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	温湯塗带・ヘラミガホによる沈縫文 (RL)	回転尖削・中期後半加曾利 E II	覆土
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	温湯塗带・ヘラミガホによる沈縫文 (RL)	回転尖削・中期後半加曾利 E II	覆土
10	縄文土器	深鉢	(55.0)	—	—	—	—	縫合部平行縫・沈縫	回転尖削・中期後半加曾利 E II	覆土
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	縫合部平行縫・沈縫	回転尖削・中期後半加曾利 E II	覆土
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	縫合部平行縫・沈縫	回転尖削・中期後半加曾利 E II	覆土
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	縫合部平行縫・沈縫	回転尖削・中期後半加曾利 E II	覆土
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	縫合部平行縫・沈縫	回転尖削・中期後半加曾利 E II	覆土
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	縫合部平行縫・沈縫	回転尖削・中期後半加曾利 E II	覆土
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	縫合部平行縫・沈縫	回転尖削・中期後半加曾利 E II	覆土
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	縫合部平行縫・沈縫	回転尖削・中期後半加曾利 E II	覆土
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	縫合部平行縫・沈縫	回転尖削・中期後半加曾利 E IV	覆土
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	縫合部平行縫・沈縫	回転尖削・中期後半加曾利 E IV	覆土
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	縫合部平行縫・沈縫	回転尖削・中期後半加曾利 E IV	覆土
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	沈縫	回転尖削・中期後半	覆土

H 5 号住居址出土遺物觀察表(2)

No	器種	器形	口径(外)	法(外)	底径(外)	高さ(外)	底面(厚)(重量)	内面		外側		備考
								縫合・沈縫	隆筋・沈縫	縫合・沈縫	隆筋・沈縫	
22	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縫片実測・拓本、中期中葉燒町
23	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縫片実測・拓本、中期後半曾利
24	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縫片実測・拓本、中期中葉燒町
25	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縫片実測・拓本、中期後半
26	縄文土器	浅鉢	(27.3)	—	—	—	—	—	—	—	—	回転式焼、中期後半
27	縄文土器	浅鉢	(23.8)	—	—	—	—	—	—	—	—	回転式焼、中期後半
28	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	完全失測
29	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	完全失測
30	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	完全失測
31	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	完全失測
32	縄文土器	浅鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—	完全失測
33	石器・石製品	石礫	2	1.6	0.6	1.2	1.2 安山岩	—	—	—	—	完全失測
34	石器・石製品	石礫未品	1.8	1.4	0.7	1.4 黒曜石	—	—	—	—	—	完全失測
35	石器・石製品	石礫	2.2	0.7	0.55	0.5 黒曜石	—	—	—	—	—	完全失測
36	石器・石製品	打製石斧	5.4	4.9	1	39.5	—	—	—	—	—	完全失測
37	石器・石製品	四・盾・敲石	11.6	8.3	4.95	713.4 断面2、花崗岩	—	—	—	—	—	完全失測
38	石器・石製品	敲石	9	9.7	6.95	1117.9 断面2	—	—	—	—	—	完全失測
39	石器・石製品	磨石	10.65	9.7	1.7	362.7 断面1	—	—	—	—	—	完全失測
40	石器・石製品	磨・敲合石	32.35	25.5	5.15	7070 断面1、被熱	—	—	—	—	—	完全失測
41	石器・石製品	敲打型石器	13.5	6.2	1.5	101.5 安山岩	—	—	—	—	—	完全失測
42	石器・石製品	加工類の有る断片	4.0	4.6	1.1	19.1 安山岩	—	—	—	—	—	完全失測
43	石器・石製品	加工類の有る断片	8.0	7.2	3.8	202.6 安山岩	—	—	—	—	—	完全失測
44	鍛器・鉄製品	計	—	—	—	<4.6>	—	—	—	—	—	—

H 6 号住居址出土遺物觀察表(1)

No	器種	器形	口径(外)	法(外)	底径(外)	高さ(外)	底面(厚)(重量)	内面		外側		備考	出土層位
								縫合縫(RL)・隆筋・キサミ目、脣上に含織縫	縫合縫(CK)	縫合縫(CK)・隆筋・沈縫	縫合縫(CK)・隆筋・沈縫		
1	縄文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縫片実測・拓本、中期末塙田式	
2	縄文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縫片実測・拓本、中期中葉燒町	
3	縄文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縫片実測・拓本、中期中葉燒町	
4	縄文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縫片実測・拓本、中期中葉燒町	
5	縄文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縫片実測・拓本、中期中葉燒町	
6	縄文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縫片実測・拓本、中期中葉燒町	
7	縄文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縫片実測・拓本、中期中葉燒町	
8	縄文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縫片実測・拓本、中期中葉燒町	
9	縄文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縫片実測・拓本、中期中葉燒町	
10	縄文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縫片実測・拓本、中期中葉燒町	
11	縄文土器	深林	(14.6)	—	—	—	—	—	—	—	—	縫片実測・拓本、中期中葉燒町	
12	縄文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縫片実測・拓本、中期中葉燒町	
13	縄文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縫片実測・拓本、中期中葉燒町	
14	縄文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縫片実測・拓本、中期中葉燒町	
15	縄文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縫片実測・拓本、中期中葉燒町	
16	縄文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	—	縫片実測・拓本、中期中葉燒町	

H.6号住居址出土遺物観察表(2)

No.	器種	器形	法 口徑(長) (底径(短)) 厚度(厚)	(重量) (重量)	成型・調整		備考	出土層位
					内面	外面		
17	縄文土器	深林	—	—	—	—	破片実測・拓本 回転実測・拓本、中期中葉彌板式	覆土
18	縄文土器	深林	—	—	—	—	破片実測・拓本、中期中葉彌板式	覆土
19	縄文土器	深林	—	—	—	—	破片実測・拓本、中期中葉彌板式	覆土
20	縄文土器	深林	—	—	—	—	回転実測・拓本、中期中葉	覆土
21	縄文土器	深林	—	—	—	—	破片実測・拓本、中期中葉	覆土
22	縄文土器	浅林	—	—	—	—	破片実測・拓本、中期中葉	覆土
23	縄文土器	浅林	—	—	—	—	破片実測・拓本、中期中葉	覆土
24	縄文土器	?	—	—	—	—	破片実測・拓本、中期中葉	覆土
25	縄文土器	浅林	—	—	—	—	破片実測・拓本、中期中葉	覆土
26	縄文土器	浅林	—	—	—	—	破片実測・拓本、中期中葉	覆土
27	縄文土器	浅林	—	—	—	—	完全実測	覆土
28	縄文土器	鉤手	—	—	—	—	完全実測	覆土
29	石器・石製品	打製石斧	<23>	2.2	0.6	2.5 黒曜石	完全実測	覆土
30	石器・石製品	打製石斧	8.7	5.6	1.8	125.1	完全実測	覆土
31	石器・石製品	打製石斧	10.3	5.8	2.7	199	完全実測	覆土
32	石器・石製品	打製石斧	11.7	3.9	1.6	83.9 安山岩	完全実測	覆土
33	石器・石製品	打製石斧	18.1	4.9	1.3	126.8 安山岩	完全実測	覆土
34	石器・石製品	ヒエス・エスキーゴ	1.9	2.0	0.8	3.4 黒曜石	完全実測	覆土
35	石器・石製品	加工窓の有る削片	3.1	3.4	1.1	9.5 安山岩	完全実測	覆土
36	石器・石製品	加工窓の有る削片	3.5	4.4	1.3	19.6 安山岩	完全実測	覆土
37	石器・石製品	加工窓の有る削片	5.0	3.8	1.7	26.7 安山岩	完全実測	覆土
38	石器・石製品	加工窓の有る削片	5.5	5.8	1.5	53.2 安山岩	完全実測	覆土
39	石器・石製品	加工窓の有る削片	6.8	4.8	2.0	42.0 安山岩	完全実測	覆土
40	石器・石製品	加工窓の有る削片	7.2	4.8	1.8	41.9 貝岩	完全実測	覆土
41	石器・石製品	加工窓の有る削片	10.0	9.8	3.0	452.0 砂面 1	完全実測	覆土
42	石器・石製品	磨石・四石	<9.9>	<10.0>	<9.7><1000.0> 四ヶ所、斜面 1			

H.7号住居址出土遺物観察表

No.	器種	器形	法 口徑(長) (底径(短)) 厚度(厚)	(重量) (重量)	成型・調整		備考	出土層位
					内面	外面		
1	縄文	深林	—	—	—	—	破片実測・拓本、中期後半骨盆E	覆土
2	縄文	深林	—	—	—	—	破片実測・拓本、中期後半臼正	覆土
3	縄文	深林	—	—	—	—	破片実測・拓本、中期後半臼正	覆土
4	縄文	浅林	—	—	—	—	破片実測・拓本、中期後半骨盆E	覆土
5	縄文	浅林	—	—	—	—	完全実測	覆土
6	石器・石製品	打製石斧	(5.0)	(5.0)	(37.4)	—	完全実測	覆土
7	石器・石製品	使用痕のある削片	(5.4)	(6.7)	(0.9)	(30.2) 安山岩	完全実測	覆土

D.2号土坑出土遺物観察表

No.	器種	器形	法 口徑(長) (底径(短)) 厚度(厚)	(重量) (重量)	成型・調整		備考	出土層位
					内面	外面		
1	志野焼	III	—	—	—	—	破片実測・写真、17世紀	覆土

D 3 号土坑出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(長) 法(深) (底径) (高さ) (厚さ)	量 (重量)	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
1	土鋤器	环	(15.1)	-	-	-	-	回転系切	回転系切
2	土鋤器	皿	-	(5.2)	<1.0>	-	-	右回転系切	回転系切
3	灰陶陶器	碗	-	(7.6)	-	-	-	-	回転系切
4	灰陶陶器	長頸瓶	-	-	-	-	-	回転系切→窓台貼付・灰輪	回転系切
5	石器・石製品	砥石	<10.5>	<10.1>	2.5	<390.0>	-	-	完全火照
6	石器・石製品	砥石	<8.7>	<12.0>	2.0	<158.0>	-	砥面 1	完全火照
7	石器・石製品	砥石	18.5	<20.7>	5.9	<2568.0>	-	砥面 2	完全火照
								砥面 1	完全火照

D 4 号土坑出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(長) 法(深) (底径) (高さ) (厚さ)	量 (重量)	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
1	縄文	深林	-	-	-	-	-	沈縫・縛文 (LR)	後期縄名寺式
2	縄文	深林	-	-	-	-	-	縫片火照・柘本、後期縄名寺式	後期縄名寺式
3	縄文	深林	-	-	-	-	-	縫片火照・柘本、後期縄名寺式	後期縄名寺式
4	縄文	深林	-	-	-	-	-	縫片火照・柘本、後期縄名寺式	後期縄名寺式
5	縄文	深林	-	-	-	-	-	縫片火照・柘本、後期縄名寺式	後期縄名寺式
6	縄文	深林	-	-	-	-	-	縫片火照・柘本、後期縄名寺式	後期縄名寺式
7	縄文	深林	-	-	-	-	-	縫片火照・柘本、後期縄名寺式	後期縄名寺式
9	縄文	深林	-	-	-	-	-	縫片火照・柘本、後期縄名寺式	後期縄名寺式
10	縄文	深林	-	-	-	-	-	縫片火照・柘本、後期縄名寺式	後期縄名寺式
11	石器・石製品	打曳石斧	<5.3>	<4.4>	<1.9>	<38.8>	-	-	完全火照
12	石器・石製品	打曳石斧	15.9	7.7	2.0	<288.6>	-	-	完全火照
13	石器・石製品	砥石?	9.3	7.4	6.0	678.3	凹 1 ケ所	-	完全火照
14	石器・石製品	磨石・凹石	<11.7>	<13.5>	<11.7>	<3390.0>	安山岩	-	完全火照

D 5 号土坑出土遺物觀察表

No	器種	器形	口径(長) 法(深) (底径) (高さ) (厚さ)	量 (重量)	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
1	土質土器	内口輪	-	-	-	-	-	-	後期火照
2	土質土器	深林	-	-	-	-	-	縫片火照・柘本、中期後半	後期火照・柘本、中期後半
3	石器・石製品	砥石	15.0	<11.7>	3.3	<1054.7>	砥面 1	完全火照	完全火照
4	石器・石製品	砥石	(16.6)	-	3.6	1.900	砥面 1、全面に燃付着	完全火照	完全火照
5	石器・石製品	砥石	10.7	22.5	10.5	3.340	砥面 2	完全火照	完全火照

D 6 号土坑出土遺物觀察表(1)

No	器種	器形	口径(長) 法(深) (底径) (高さ) (厚さ)	量 (重量)	内面	成形・調整	外面	備考	出土層位
1	縄文	深林	-	-	-	-	-	陳縫・沈縫文・縛文 (LR)	中期後半加曾利 E II
2	縄文	深林	-	-	-	-	-	陳縫・沈縫文・縛文 (RL)	中期後半加曾利 E II
3	縄文	浅林	-	-	-	-	-	陳縫・沈縫文・外面赤彩	中期後半加曾利 E II
4	縄文	深林	-	-	-	-	-	沈縫文・縛文 (LR)	中期後半加曾利 I
5	縄文	深林	-	-	-	-	-	陳縫文・縛文 (RL)	中期後半加曾利 I
6	縄文	深林	-	-	-	-	-	陳縫文・縛文 (LR)	中期後半加曾利 E II

D 6 号土坑出土遺物觀察表(2)

No	器種	器形	量			成形・調整	外 面	備考
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)			
7	繩文	漆林	—	—	—	—	沈像文	破片実測・柘本、中期中東燒町
8	繩文	有孔剪付土器?	—	—	—	—	陳帶	破片実測・柘本、中期中東燒坂
9	石器・石製品	石器	<2.0s	<1.8s	0.3	<1.0s	黒曜石	完全失測

D 7 号土坑出土遺物觀察表

No	器種	器形	量			成形・調整	外 面	備考
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)			
1	繩文	漆林	—	—	—	—	R燃系触・鉤み縫帶	破片実測・柘本、後期株名寺式
2	繩文	漆林	—	—	—	—	沈像文・繩文(RL)	破片実測・柘本、後期株名寺式

D 9 号土坑出土遺物觀察表

No	器種	器形	量			成形・調整	外 面	備考
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)			
1	土陶器	Ⅲ	8.8	6.0	2.4	—	焼付質	完全実測
2	石器・石製品	磨・敲石	11.6	4.3	3.8	278	兩端削成、その他の面削り	完全実測
3	石器・石製品	磨石	<42.4s	21.7	23.0	<3280s- 斜面！	完全実測	完全実測

D 10 号土坑出土遺物觀察表

No	器種	器形	量			成形・調整	外 面	備考
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)			
1	繩文土器	深鉢	—	—	—	—	沈像・半裁竹管押引文	破片実測・柘本、中期後半曾利 I
2	繩文土器	深鉢	—	—	—	—	沈像	破片実測・柘本、中期後半曾利 E
3	繩文土器	深鉢	—	—	—	—	沈像・降帶・繩文 LR	破片実測・柘本、中期後半曾利 EN
4	繩文土器	深鉢	—	—	—	—	沈像・降帶・繩文 LR	破片実測・柘本、中期後半曾利 EN
5	繩文土器	深鉢	—	—	—	—	沈像	破片実測・柘本
6	石器・石製品	橢丸型石器	5.1	7.8	0.9	46.5	—	完全実測

D 15 号土坑出土遺物觀察表

No	器種	器形	量			成形・調整	外 面	備考
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)			
1	繩文土器	漆林	—	—	—	—	沈像文	破片実測・柘本、中期後半
2	繩文土器	漆林	—	—	—	—	沈像	破片実測・柘本、中期後半

D 18 号土坑出土遺物觀察表(1)

No	器種	器形	量			成形・調整	外 面	備考
			口径(長)	底径(短)	高さ(厚)			
1	繩文土器	漆林	—	—	—	—	陳帶	破片実測・柘本、中期後半玉台 II 式
2	繩文土器	漆林	—	—	—	—	陳帶	破片実測・柘本、中期後半曾利 I 器
3	繩文土器	漆林	—	—	—	—	陳帶、双頭突起	破片実測・柘本、中期後半曾利坂式
4	繩文土器	漆林	—	—	—	—	渦巻文	破片実測・柘本、中期後半曾利坂式
5	繩文土器	漆林	—	—	—	—	陳帶	破片実測・柘本、中期後半曾利坂式
6	繩文土器	漆林	—	—	—	—	陳帶	破片実測・柘本、中期後半曾利坂式
7	繩文土器	漆林	—	—	—	—	陳帶	破片実測・柘本、中期後半曾利坂式
8	繩文土器	漆林	—	—	—	—	陳帶	回転実測、中期後半曾利 I 式

18号十馆出土植物观察表(2)

出土位置	備考									
	活 (口径×高)	形 (底名類)	高 (厚)	器高(厚) (重量)	内 面	外 面	成形・調整	外 面	内 面	外 面
9 條文土器	深鉢	—	—	—	陳帶上に半抜竹筍による押引・半抜竹質による捺線	—	—	—	—	—
10 條文土器	深鉢	—	—	—	沈鉢	綴文	—	—	—	—
11 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	—	—	—	—	—
12 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	無文	—	—	—	—
13 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	綴文	—	—	—	—
14 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	蛇形彫刻	沈鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢
15 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	陳鉢	沈鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢
16 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	圓状模様	沈鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢
17 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	圓狀模樣	沈鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢
18 條文土器	深鉢	(24.8)	—	—	陳鉢	矢狀形模様	沈鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢
19 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	圓形刻文	沈鉢	綴文	綴文	綴文
20 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	無文	—	—	—	—
21 條文土器	浅鉢	—	—	—	陳鉢	無文	—	—	—	—
22 條文土器	浅鉢	—	—	—	陳鉢	無文	—	—	—	—
23 條文土器	浅鉢	—	—	—	陳鉢	無文	—	—	—	—
24 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	無文	—	—	—	—
25 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	無文	—	—	—	—
26 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	陳鉢	側突・沈鉢	綴文	綴文 (L.R.)	綴文
27 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢
28 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢
29 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢
30 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢
31 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢
32 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢
33 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢
34 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢
35 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢
36 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢
37 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢
38 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢
39 條文土器	深鉢	(29.5)	—	—	陳鉢	(21.3)	—	—	—	—
40 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	(19.6)	(8.2)	(19.95)	〔8.1〕字状模様の引文、沈鉢、綴文、口唇部に刻目	〔8.1〕字状模様の引文、沈鉢、綴文、口唇部に刻目
41 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	(28.2)	—	—	—	—
42 條文土器	深鉢	14	7.95	13.3	陳鉢	沈鉢	沈鉢	沈鉢	沈鉢	沈鉢
43 條文土器	深鉢	15	5.65	11.8	陳鉢	沈鉢	沈鉢	沈鉢	沈鉢	沈鉢
44 條文土器	深鉢	(20.8)	—	—	陳鉢	〔8.1〕字状模様の引文、沈鉢、綴文 (L.R.)				
45 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢
46 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢	陳鉢
47 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	〔8.1〕字状模様の引文、沈鉢、綴文 (L.R.)				
48 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	〔8.1〕字状模様の引文、沈鉢、綴文 (L.R.)				
49 條文土器	深鉢	(18.8)	—	—	陳鉢	沈鉢	沈鉢	沈鉢	沈鉢	沈鉢
50 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	〔8.1〕字状模様の引文、沈鉢、綴文 (L.R.)				
51 條文土器	深鉢	—	—	—	陳鉢	沈鉢	沈鉢	沈鉢	沈鉢	沈鉢

D 18号土坑出土遺物總覽表(3)

No.	器種	器形	法 量 (口徑×長) (底徑×高)	器高(高)	重量 (重量)	內面		外面		備考	出土層位
						小沿狀口沿、沈腹	円形制尖列	瓦片尖列、拓本、後期輪之內附	瓦片尖列、拓本、後期輪之內附		
52	編文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	—
53	編文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	—
54	編文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	—
55	編文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	—
56	編文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	—
57	編文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	—
58	編文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	—
59	編文土器	深林	—	(106)	—	—	—	—	—	—	—
60	編文土器	深林	16.15	8.9	10.9	—	—	—	—	—	—
61	編文土器	深林	(20.7)	(11.2)	(25.0)	—	—	—	—	—	—
62	編文土器	深林	42	—	—	—	—	—	—	—	—
63	編文土器	注口	—	—	—	—	—	—	—	—	—
64	編文土器	注口	—	—	—	—	—	—	—	—	—
65	編文土器	土製品	土器片中盤	—	—	—	—	—	—	—	—
66	土製品	土器片中盤	—	—	—	—	—	—	—	—	—
67	土製品	土器片中盤	—	—	—	—	—	—	—	—	—
68	土製品	土器片中盤	—	—	—	—	—	—	—	—	—
69	土製品	土器片中盤	—	—	—	—	—	—	—	—	—
70	土製品	土器片中盤	—	—	—	—	—	—	—	—	—
71	土製品	土器片中盤	—	—	—	—	—	—	—	—	—
72	土製品	土器片中盤	—	—	—	—	—	—	—	—	—
73	土製品	土器片中盤	—	—	—	—	—	—	—	—	—
74	土師器	环	(12.0)	(4.5)	(4.5)	—	—	—	—	—	—
75	土師器	内耳鉢	—	—	—	—	—	—	—	—	—
76	石器・石製品	石纏	<1.75>	<1.2>	<0.4>	<0.5>	黑色识别	—	—	—	—
77	石器・石製品	石纏	<1.85>	<1.2>	<0.3>	<0.4>	黑色识别	—	—	—	—
78	石器・石製品	石纏	<1.8>	<1.5>	<0.6>	<1.0>	黑色识别	—	—	—	—
79	石器・石製品	石纏	<2.1>	<1.5>	<0.6>	<1.0>	黑色识别	—	—	—	—
80	石器・石製品	石纏	<2.5>	<1.7>	<0.6>	<1.5>	黑色识别	—	—	—	—
81	石器・石製品	石纏	2.5	1.2	0.5	1.2	—	—	—	—	—
82	打製石斧	打製石斧	<4.4>	<3.1>	<0.9>	<14.6>	—	—	—	—	—
83	石器・石製品	打製石斧	<4.2>	<3.7>	1	<19.1>	—	—	—	—	—
84	石器・石製品	打製石斧	<3.6>	<3.4>	1.1	<24.3>	—	—	—	—	—
85	石器・石製品	打製石斧	<4.2>	<4.9>	1	<22.3>	—	—	—	—	—
86	石器・石製品	打製石斧	<5.0>	5	0.9	<26.9>	—	—	—	—	—
87	石器・石製品	打製石斧	<5.2>	4.9	1.3	<43.9>	—	—	—	—	—
88	石器・石製品	打製石斧	<5.6>	5.1	1.1	<42.1>	—	—	—	—	—
89	石器・石製品	打製石斧	<5.7>	5.2	1.4	<56.9>	—	—	—	—	—
90	石器・石製品	打製石斧	<6.0>	5.7	1.1	<50.7>	—	—	—	—	—
91	石器・石製品	打製石斧	<6.5>	5.9	1.1	<42.0>	—	—	—	—	—
92	石器・石製品	打製石斧	<7.2>	6.3	1.1	<68.9>	—	—	—	—	—
93	石器・石製品	打製石斧	<7.3>	5.1	1.7	<84.1>	—	—	—	—	—
94	石器・石製品	打製石斧	<6.9>	5.5	1	<49.9>	—	—	—	—	—

D 18号土坑出土遺物觀察表(4)

No.	器種	形狀	法 口徑(厘) 底徑(厘)			重量 (重量) (重)	内面	底面	外 面	備考	出土層位
			底面(厘)	底面(厘)	底面(厘)						
95	石器・石製品	打製石斧	<7.35>	5	1.2	<68.2>	-	-	-	完全美術	出土
96	石器・石製品	打製石斧	<8.0>	7.5	1.3	<93.6>	-	-	-	完全美術	出土
97	石器・石製品	打製石斧	<8.7>	5.4	1.1	<72.5>	-	-	-	完全美術	出土
98	石器・石製品	打製石斧	<8.3>	4.9	1.8	<134.8>	-	-	-	完全美術	出土
99	石器・石製品	打製石斧	<10.9>	4.7	1.3	<226.0>	-	-	-	完全美術	出土
100	石器・石製品	打製石斧	<16.3>	11.3	2.7	<499.9>	-	-	-	完全美術	出土
101	石器・石製品	磨石	<3.3>	4.7	<0.7>	<14.8>	-	-	-	完全美術	出土
102	石器・石製品	磨石	<9.8>	6.4	<5.1>	<381.0>	-	-	-	完全美術	出土
103	石器・石製品	磨石	10.6	9.9	7.2	1026.7	-	-	-	完全美術	出土
104	石器・石製品	磨石	7.1	1.0	<6.1>	<636.3>	-	-	-	完全美術	出土
105	石器・石製品	磨石	<10.8>	8.8	<7.3>	<1210.0>	-	-	-	完全美術	出土
106	石器・石製品	磨石	12.3	9.4	3.7	<512.7>	-	-	-	完全美術	出土
107	石器・石製品	磨石	<8.8>	<12.2>	<3.1>	<441.2>	-	-	-	完全美術	出土
108	石器・石製品	磨石	<12.3>	8.7	<4.1>	<836.7>	-	-	-	完全美術	出土
109	石器・石製品	磨石	<12.8>	<8.7>	<4.2>	<902.0>	-	-	-	完全美術	出土
110	石器・石製品	磨石	<10.3>	12.6	5.5	<715.4>	-	-	-	完全美術	出土
111	石器・石製品	磨石	<12.0>	11.9	<8.9>	<1990.0>	-	-	-	完全美術	出土
112	石器・石製品	磨石	<13.1>	<9.3>	<6.8>	<1636.2>	-	-	-	完全美術	出土
113	石器・石製品	磨石	<13.2>	<11.0>	<3.1>	<746.9>	-	-	-	完全美術	出土
114	石器・石製品	磨石	16.7	<8.7>	<1.4>	<244.1>	-	-	-	完全美術	出土
115	石器・石製品	磨石	<13.6>	<12.9>	8.8	<1621.2>	-	-	-	完全美術	出土
116	石器・石製品	磨石	<8.9>	15.9	5.5	<1272.3>	-	-	-	完全美術	出土
117	石器・石製品	磨石	<14.7>	<14.3>	<8.0>	<2420.0>	-	-	-	完全美術	出土
118	石器・石製品	磨石	<15.5>	<12.4>	<12.0>	<3590.0>	-	-	-	完全美術	出土
119	石器・石製品	磨石	<20.7>	<15.6>	<9.7>	<4330.0>	-	-	-	完全美術	出土
120	石器・石製品	磨石	<21.0>	<14.0>	<13.3>	<4500.0>	-	-	-	完全美術	出土
121	石器・石製品	磨・敲石	<5.4>	7.3	2.2	<151.6>	-	-	-	完全美術	出土
122	石器・石製品	磨・敲石	11.7	8.8	3.9	622.7	-	-	-	完全美術	出土
123	石器・石製品	磨・敲石	<16.3>	<11.7>	<6.6>	<1297.4>	-	-	-	完全美術	出土
124	石器・石製品	磨・敲石	12	<15.7>	<3.8>	<867.9>	-	-	-	完全美術	出土
125	石器・石製品	磨・敲石	<13.7>	<24.2>	<13.8>	-	-	-	-	完全美術	出土
126	石器・石製品	磨・凹石	22.7	19.2	18.8	1418.0	-	-	-	完全美術	出土
127	石器・石製品	石皿	<22.6>	27.1	13.1	-	-	-	-	完全美術	出土
128	石器・石製品	砾石	<20.8>	<19.0>	<9.0>	<3120.0>	-	-	-	完全美術	出土
129	石器・石製品	砾石	29.2	<21.4>	<7.0>	<5700.0>	-	-	-	完全美術	出土
130	石器・石製品	スクレーパー	3.2	2.6	1.7	9.5	-	-	-	完全美術	出土
131	石器・石製品	傾刃型石器	5.4	6.7	1	29.6	-	-	-	完全美術	出土
132	石器・石製品	傾刃型石器	6.8	6.3	2.8	152.9	-	-	-	完全美術	出土
133	石器・石製品	ビエス・エスキュー	6.4	5.3	2.4	133.7	-	-	-	完全美術	出土
134	石器・石製品	加工痕のある剝片	2.2	3	0.8	5.97	-	-	-	完全美術	出土
135	石器・石製品	加工痕のある剝片	3	2.2	0.8	5.64	-	-	-	完全美術	出土
136	石器・石製品	加工痕のある剝片	3.3	3.5	1.1	18.2	-	-	-	完全美術	出土
137	石器・石製品	加工痕のある剝片	3.2	4.1	0.9	11.5	-	-	-	完全美術	出土

D 18 号土坑出土遺物觀察表 (5)

No.	器種	器形	法 口徑(長) (底至短)			器底(厚) (重量)	底形・調整		備考	出土層位
			外 面	内 面	量		外 面	内 面		
138	石器・石製品	加工痕のある削片	3.5	3.4	1.3	10.5	—	—	完全美調、質古	覆土
139	石器・石製品	加工痕のある削片	5.3	4	1	23.1	—	—	完全美調、ガラス質安山岩	覆土
140	石器・石製品	加工痕のある削片	4.9	4	1.8	40.1	—	—	完全美調、ガラス質安山岩	覆土
141	石器・石製品	加工痕のある削片	13.5	7	1.7	204.3	—	—	完全美調、ガラス質安山岩	覆土
142	石器・石製品	加工痕のある削片	6	4.2	1.6	25.6	—	—	完全美調、安山岩	覆土
143	石器・石製品	使用痕のある削片	6.2	3.4	1.3	32.9	—	—	完全美調、ホルンフェス	覆土

D 19 号土坑出土遺物觀察表

No.	器種	器形	法 口徑(長) (底至短)			器底(厚) (重量)	底形・調整		備考	出土層位
			外 面	内 面	量		外 面	内 面		
1	縄文土器	深鉢	47.0	14.9	67.1	—	湖文 RL 帶	深鉢	回転丸調、曾利 I ~ II 古	覆土
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	深鉢	平行波線文	波片美調、柘木、中期中葉未焼町	覆土
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	深鉢	平行波線	波片美調、柘木、中期後半	覆土
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	ナデ・沈文	—	波片美調、柘木、加曾利 E III	覆土
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	湖文 LR	深鉢・当摺竹管斜突文	波片美調、柘木、中期後半	覆土
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	湖文 RL	深鉢・波段竹管による 3 本の微條帶	波片美調、柘木、加曾利 E II	覆土
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	微條帶	—	波片美調、柘木、加曾利 E IV	覆土
8	縄文土器	深鉢	—	—	(6.5)	—	湖文 RL 帯	—	回転波調、柘木、中期後半	覆土
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	湖文 RL	深鉢	波片美調、柘木、中期後半	覆土
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	波帶・棱形	—	波片美調、柘木、唐草文系	覆土
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	波帶・棱形	—	波片美調、柘木、唐草文系	覆土
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	波帶・棱形	—	波片美調、柘木、鷹次式	覆土
13	縄文土器	注口	—	—	—	—	沈文	—	波片美調・柘木、後期頭の内式	覆土
14	石器・石製品	打製石斧	<3.1>	3.9	1.3	<19.2>	—	—	完全美調	覆土
15	石器・石製品	打製石斧	<0.2>	60.7	1.0	<30.0>	—	—	完全美調	覆土
16	石器・石製品	打製石斧	<4.0>	4.0	0.7	<17.8>	—	—	完全美調	覆土
17	石器・石製品	磨石	3.8	8.6	1.4	44.9	斜面 1	—	完全美調	覆土
18	石器・石製品	磨石	<8.5>	6.5	5.0	<49.2>	—	—	完全美調	覆土
19	石器・石製品	砾石	<11.2>	<11.3>	<6.0>	<97.3	—	—	完全美調	覆土
20	石器・石製品	砾石	<16.3>	13.3	5.3	<158.5> 破面 2	—	—	完全美調	覆土
21	石器・石製品	陶器	17.4	15.8	3.5	1568.5	—	—	完全美調	覆土
22	石器・石製品	加工痕のある削片	6.9	5.3	1.3	53.7 安山岩	—	—	完全美調	覆土

S D 1 号土坑出土遺物觀察表 (1)

No.	器種	器形	法 口徑(長) (底至短)			器底(厚) (重量)	底形・調整		備考	出土層位
			外 面	内 面	量		外 面	内 面		
1	灰釉陶器	輪	—	7.6	(2.3)	—	クロコナデ	—	回転丸調・底部凹凸切	覆土
2	須掛器	蓋	—	—	—	—	—	—	波片美調・柘木	覆土
3	縄文	深鉢	—	—	—	—	蛇行條帶・施目文	—	波片美調・柘木、曾利 I 式	覆土
4	縄文	深鉢	—	—	—	—	沈文	—	波片美調・柘木、曾利 I 式	覆土
5	縄文	深鉢	—	—	—	—	—	—	波片美調・柘木、加曾利 E IV 式	覆土
6	山燒	攝鉢	—	—	—	—	—	—	波片美調・18世紀末	覆土
7	山燒	土瓶器	—	—	—	—	—	—	幕末	覆土
8	石器・石製品	打製石斧	(6.8)	(4.8)	(1.7)	(73.0)	—	—	波片美調	覆土

SD 1 号土坑出土遗物观察表(2)

No.	器種	形狀	口徑(毫米)	底徑(毫米)	高度(毫米)	重量	成形・調整	備考	出土層位
9	石器・石製品	打製石斧	(7.1)	(5.7)	(2.1)	(129.8)	—	破片尖頭	覆土
10	石器・石製品	砾石	(6.5)	(4.2)	(2.0)	(110.1)	砾面2	破片尖頭	覆土
11	石器・石製品	砾石	(4.7)	(7.0)	(6.3)	(423.7)	砾面2	破片尖頭	覆土
12	石器・石製品	砾石	(7.3)	(3.3)	(3.5)	(144.5)	砾面3, 条縫	破片尖頭	覆土
13	石器・石製品	砾石	(15.6)	(10.1)	(6.2)	(549.9)	砾面2	破片尖頭	覆土
14	石器・石製品	砾石	(12.7)	(14.6)	(8.1)	(2028.5)	砾面1	破片尖頭	覆土
15	石器・石製品	石皿	(13.9)	(10.5)	(3.7)	(558.6)	砾石に點用か?	破片尖頭	覆土
16	石器・石製品	砾石	(11.3)	(20.2)	(3.9)	(1935.6)	砾面1	破片尖頭	覆土

SD 2 号土坑出土遗物觀察表

No.	器種	形狀	口徑(毫米)	底徑(毫米)	高度(毫米)	重量	成形・調整	備考	出土層位
1	編文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片尖頭・拓本	覆土
2	編文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片尖頭・拓本	覆土
3	陶器	耳杯	—	—	—	—	—	破片尖頭・拓本	後半
4	陶器	耳杯手碗	—	—	—	—	—	破片尖頭・拓本	後半
5	陶器	耳杯手碗	—	—	—	—	—	破片尖頭・拓本	後半
6	陶器	耳杯手碗	—	—	—	—	—	破片尖頭・拓本	後半
7	陶器	陶脂碗	—	—	—	—	—	破片尖頭・肥前系・平戸波佐見・18C	覆土
8	陶器	陶脂碗	—	—	—	—	—	破片尖頭・肥前系・平戸波佐見・18C	覆土
9	陶器	丸碗	—	—	—	—	—	破片尖頭・肥前系・18C	覆土
10	陶器	片口碗	—	—	—	—	—	破片尖頭・肥前系・18C	覆土
11	不明	—	—	—	—	—	—	完全尖頭	覆土
12	石器・石製品	砾石	(12.2)	(3.3)	(3.4)	(230.2)	—	完全尖頭	覆土
13	石器・石製品	砾石	(6.2)	(6.3)	(2.2)	(141.0)	—	完全尖頭	覆土
14	石器・石製品	擂鉢	(330.0)	(143.0)	(85.0)	(5780.0)	輝石安山岩	完全尖頭	覆土

SD 4 号土坑出土遗物觀察表

No.	器種	形狀	口徑(毫米)	底徑(毫米)	高度(毫米)	重量	成形・調整	備考	出土層位
1	編文土器	深鉢	—	—	—	—	光線・LR綴文	破片尖頭・拓本・加曾利 E III	覆土
2	石器・石製品	砾石	5.7	<3.2>	<3.9>	<107.8>	砾面5	完全尖頭	覆土
3	石器・石製品	砾石	<7.6>	<8.5>	6.6	<212.1>	砾面2	完全尖頭	覆土
4	石器・石製品	砾石	<17.3>	<8.7>	5.6	<1256.1>	砾面1	完全尖頭	覆土
5	石器・石製品	砾石	<7.2>	7.6	4.2	<337.7>	砾面2	完全尖頭	覆土
6	石器・石製品	加工済の石製片	4.0	3.5	1.4	22.8	菱斑質安山岩	完全尖頭	覆土
7	石器・石製品	五輪格地輪?	253	25.1	20.9	—	—	完全尖頭	覆土

SD 5 号土坑出土遺物觀察表

No.	西暦	器形	口径	口径(奥)	底径(奥)	底径(奥)(重量)	内面	外 面	備考		出土層位
									活	死	
1	土師質土器	かわらけ	-	(6.4)	-	-	ロクロナデ	外クロナデ	目板実測	破片実測・拓本	覆土
2	土師質土器	内耳鍋	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	目板実測	破片実測・拓本	覆土
3	土師質土器	内耳鍋	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	目板実測	破片実測・拓本	覆土
4	土師質土器	内耳鍋	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	目板実測	破片実測・拓本	覆土
5	土師質土器	内耳鍋	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	目板実測	破片実測・拓本	覆土
6	土師質土器	内耳鍋	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	目板実測	破片実測・拓本	覆土
7	土師質土器	内耳鍋	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	目板実測	破片実測・拓本	覆土
8	須恵土器	甕	-	-	-	-	当具痕	平叩口	目板実測	破片実測・拓本	覆土
9	陶器	瓶子	-	-	-	-	灰釉、4条の横位洗擦	-	古瀬戸、14C 7・中期様式	古瀬戸、14C 後半・後期様式	覆土
10	陶器	天目茶碗	-	-	-	-	隆筋、沈底、純文 LR	隆筋、沈底、純文 LR	鏡片実測・写真、古瀬戸	鏡片実測・拓本、加曾利 E II	覆土
11	埴文土器	深林	-	-	-	-	隆筋、沈底	隆筋、沈底	鏡片実測	鏡片実測・拓本、中間後半	覆土
12	埴文土器	深林	-	-	-	-	鏡条筋、純文	鏡条筋、純文	鏡片実測	鏡片実測・拓本、加曾利 E N	覆土
13	埴文土器	深林	-	-	-	-	半荻竹管状縫	半荻竹管状縫	鏡片実測	鏡片実測・拓本、曾利 I	覆土
14	埴文土器	深林	-	-	-	-	純文 RL	純文 RL	鏡片実測	鏡片実測・拓本、加曾利 E II	覆土
15	埴文土器	深林	-	-	-	-	半荻竹管状縫、隆筋	半荻竹管状縫、隆筋	鏡片実測	鏡片実測・拓本、曾利 I	覆土
16	埴文土器	深林	-	-	-	-	隆筋、純文	隆筋、純文	鏡片実測	鏡片実測・拓本、加曾利 E III	覆土
17	埴文土器	深林	-	-	-	-	鏡状縫筋	鏡状縫筋	鏡片実測	鏡片実測・拓本、後期縫之内	覆土
18	土製品	土器円盤	3.9	3.0	1.2	無文	-	-	完全実測	完全実測	覆土
19	石器・石製品	打製石斧	16.0	5.1	2.3	210.0	-	-	完全実測	完全実測	No 25
20	石器・石製品	打製石斧	<4.4>	<5.4>	<1.5>	<32.9>	-	-	完全実測	完全実測	No 26
21	石器・石製品	打製石斧	<3.6>	<5.0>	<1.2>	<53.3>	-	-	完全実測	完全実測	No 27
22	石器・石製品	打製石斧	<5.1>	<4.2>	<1.2>	<44.3>	-	-	完全実測	完全実測	No 13
23	石器・石製品	打製石斧	<59.0>	<4.5>	<1.7>	<56.1>	-	-	完全実測	完全実測	No 14
24	石器・石製品	打製石斧	<6.8>	<5.4>	<2.2>	<82.1>	-	-	完全実測	完全実測	No 18
25	石器・石製品	打製石斧	<8.4>	<5.7>	<2.7>	<156.7>	-	-	完全実測	完全実測	1 区
26	石器・石製品	打製石斧	<8.2>	<5.0>	<1.5>	<68.8>	-	-	完全実測	完全実測	No 2
27	石器・石製品	打製石斧	<11.1>	4.7	1.4	<84.7>	-	-	完全実測	完全実測	No 3
28	石器・石製品	磨石	11.7	7.4	4.2	611.2	-	-	完全実測	完全実測	1 区
29	石器・石製品	磨石	14.4	5.9	4.3	474.5	-	-	完全実測	完全実測	No 2
30	石器・石製品	砥石	<5.8>	<2.9>	<0.9>	<11.1> 脳面 1	-	-	完全実測	完全実測	1 区
31	石器・石製品	砥石	<5.8>	<6.4>	1.9	<100.5>	-	-	完全実測	完全実測	覆土
32	石器・石製品	砥石	<2.1>	<0.8>	<0.6>	<65.5>	-	-	完全実測	完全実測	覆土
33	石器・石製品	石礫	<13.9>	13.4	11.8	<2920.0>	-	-	完全実測	完全実測	覆土
34	石器・石製品	加工後の有る断片	9.4	3.7	2.2	70.0 黒曜石	-	-	完全実測	完全実測	覆土
35	石器・石製品	加工後の有る断片	1.2	1.8	0.3	0.6 黑曜石	-	-	完全実測	完全実測	覆土

SD 6 号土坑出土遺物觀察表 (1)

No.	器形	口径	口径(奥)	底径(奥)	底径(奥)(重量)	内面	外 面	備考		出土層位
								活	死	
1	埴文土器	深林	-	-	-	-	-	鏡片実測	鏡片実測・拓本、加曾利 E	覆土
2	埴文土器	深林	-	-	-	-	-	鏡片実測	鏡片実測・拓本、曾利	覆土
3	埴文土器	深林	-	-	-	-	-	R燃糸	R燃糸、沈底	覆土

SD 6号土坑出土遗物觀察表(2)

No	器種	形狀	量		外觀		備考		出土層位
			直徑(厘米)	高度(厘米)	直徑(厘米)	高度(厘米)	直徑(厘米)	高度(厘米)	
4	編文土器	深林	—	—	—	—	隆帶、R.L.編文	破片美測	孢子
5	編文土器	深林	—	—	—	—	沈線、R.L.編文	孢片美測	孢子
6	編文土器	深林	—	—	—	—	沈線	孢片美測	孢子
7	編文土器	深林	—	—	—	—	隆帶、沈線	孢片美測	孢子
8	編文土器	深林	—	—	—	—	隆帶、沈線	孢片美測	孢子
9	編文土器	深林	—	—	—	—	—	鐵行美測	孢子
10	編文土器	深林	—	—	—	—	—	鐵行美測	孢子
11	石器	磨石	6.1	5.9	4.9	286.0	斷面2面	完全美測	孢子
12	石器	磨石	6.6	6.7	5.7	327.4	斷面2面	完全美測	孢子
13	石器	磨石	8.6	7.8	5.7	499.8	斷面1面	完全美測	孢子
14	石器	磨石	9.9	6.5	5.3	593.3	斷面2面	完全美測	孢子
15	石器	磨・敲石	10.3	9.3	6.7	99.6	斷面1面	完全美測	孢子
16	石器	凹・敲・敲石	9.7	8.4	5.9	703.4	凹面2、敲面1	完全美測	孢子
17	石器	凹・敲・断石	13.0	8.5	7.2	1052.7	凹面2、断面2、断面1面	完全美測	孢子
18	石器	敲石	8.1	6.4	2.3	165.0	敲面1面	完全美測	孢子
19	石器	敲石	7.5	8.2	1.5	107.5	敲面1面	完全美測	孢子
20	石器	敲石	17.4	10.2	3.6	880.0	敲面1面	完全美測	孢子
21	石器	石棒	<7.5>	10.2	10.7	819.6	—	完全美測	孢子
22	石器	石棒	13.5	4.0	4.2	327.8	—	完全美測	孢子
23	石器	石棒	<21.3>	12.2	9.6	456.0	—	完全美測	孢子
24	石器	石臼	24.1	<15.3>	12.6	513.0	下白	完全美測	孢子
25	石器	石臼	<20.5>	21.1	8.8	375.0	下白	完全美測	孢子
26	石器	五輪塔	33.5	30.9	14.4	1178.0	—	完全美測	孢子

SD 7号土坑出土遗物觀察表

No	器種	形狀	量		外觀		備考		出土層位
			直徑(厘米)	高度(厘米)	直徑(厘米)	高度(厘米)	直徑(厘米)	高度(厘米)	
1	土師器	口侈口撇	—	6.8	<3.4>	—	ナデ	回転糸切	孢子
2	陶器	灯明皿	10.4	5.6	2.1	—	施輪	回転・平安時代	孢子
3	須恵器	壺	—	—	—	—	ナ子	施輪	孢子
4	編文土器	深林	—	—	—	—	陳帶	施輪波狀文	孢子
5	編文土器	深林	—	—	—	—	沈線	施輪・拓本	孢子
6	編文土器	深林	—	—	—	—	沈線	施輪・曾利文	孢子
7	石器	打製石斧	7.9	6.8	2.4	171.3	陳帶、沈線	完全美測	孢子
8	石器	打製石斧	8.9	6.4	1.6	142.6	陳帶、沈線	完全美測	孢子
9	石器	敲石	5.5	3.8	1.55	64.0	敲面4面	完全美測	孢子
10	石器	敲石	11.2	8.9	<6.2>	<923.0>	敲面1面	完全美測	孢子
11	石器	敲石	12.3	11.0	<2.65>	<462.4>	敲面1面	完全美測	孢子
12	石器	磨石	7.1	6.1	4.1	200.8	磨面1面	完全美測	孢子
13	石器	磨石	16.5	11.8	8.5	2270.0	磨面1面	完全美測	孢子

SD 8 号土坑出土遺物解説表

No.	器種	器形	法			量 (重量)	量 (重量)	量 (重量)	成形・調整	備考	出土層位 覆土
			口径(厘米)	底径(厘米)	高さ(厘米)						
1	石器	打製石斧	<6.7>	4.7	—	1.0	<41.2>	—	—	完全失測	覆土
2	土師質土器	内耳鍋	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
3	土師質土器	内耳鍋	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
4	編文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
5	編文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
6	編文土器	深林	—	(3.8)	—	—	—	—	—	—	覆土
7	編文土器	深林	—	(1.10)	—	—	—	—	—	—	覆土

T a 1号竪穴建物址出土遺物観察表(1)

No.	器種	器形	法			量 (重量)	量 (重量)	量 (重量)	成形・調整	備考	出土層位 覆土
			口径(厘米)	底径(厘米)	高さ(厘米)						
1	編文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
2	編文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
3	編文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
4	編文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
5	編文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
6	編文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
7	編文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
8	編文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
9	編文土器	深林	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
10	編文土器	浅林	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
11	編文土器	深林	—	(10.4)	<2.5>	—	—	—	—	—	覆土?
12	編文土器	器台	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
13	土師質土器	内耳鍋	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
14	土師質土器	内耳鍋	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
15	土師質土器	内耳鍋	—	—	—	—	—	—	—	—	覆土
16	石器・石製品	石轆	<2.0>	1.5	0.45	<1.4>	—	—	—	完全失測	覆土
17	石器・石製品	石轆	2.8	1.9	0.6	1.8	—	—	—	完全失測	覆土
18	石器・石製品	打製石斧	<5.2>	4.7	2.1	<66.2>	—	—	—	完全失測	覆土
19	石器・石製品	打製石斧	<5.3>	4.5	1.4	<51.2>	—	—	—	完全失測	覆土
20	石器・石製品	打製石斧	7.0	5.5	1.5	62.7	—	—	—	完全失測	覆土
21	石器・石製品	打製石斧	7.0	5.1	1.5	86.5	—	—	—	完全失測	覆土
22	石器・石製品	打製石斧	<12.8>	4.7	1.3	<100.3>	—	—	—	完全失測	覆土
23	石器・石製品	磨石	<5.3>	5.2	1.4	<44.4> 橋面 1	—	—	—	完全失測	No.11
24	石器・石製品	砥石	15.4	10.1	3.2	749.0 橋面 2	—	—	—	完全失測	覆土
25	石器・石製品	加工痕のある削片	3.2	2.7	0.9	7.4 安山岩	—	—	—	完全失測	覆土
26	石器・石製品	加工痕のある削片	3.6	2.4	1.2	9.1 安山岩	—	—	—	完全失測	覆土
27	石器・石製品	加工痕のある削片	3.7	4.9	0.8	13.2	—	—	—	完全失測	覆土

T a 2号窓穴建物出土遺物觀察表(2)

No	器種	器形	法 口径(長) 底径(短)	法 器高(厚) 底高(短)	量 (重量)	内面	成形・調整 外面	備考	出土層位
228	石器・石製品	施用痕のある剝片 石臼	5.6 <10.3>	2.2 <11.1>	0.9 <17.0>	9.1 安山岩	完全失調		覆土
229	石器・石製品	古鏡	2.2	2.2	0.1	2.2 「開元通」真書	完全失調		覆土
30	銅製品						完全失調		1区

T a 3号窓穴建物出土遺物觀察表

No	器種	器形	法 口径(長) 底径(短)	法 器高(厚) 底高(短)	量 (重量)	内面	成形・調整 外面	備考	出土層位
1	縄文	深鉢	—	—	—	—	—	破片失調・柘本、中期後半	覆土
1	縄文	深鉢	—	—	—	—	—	破片失調・柘本、中期後半	覆土

埋甕1出土遺物觀察表

No	器種	器形	法 口径(長) 底径(短)	法 器高(厚) 底高(短)	量 (重量)	内面	成形・調整 外面	備考	出土層位
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	回転失調、中期末～後期初頭	入子状態
2	縄文土器	把手付鉢	(26.3)	—	—	—	—	回転失調、中期末～後期初頭	入子状態

埋甕2出土遺物觀察表

No	器種	器形	法 口径(長) 底径(短)	法 器高(厚) 底高(短)	量 (重量)	内面	成形・調整 外面	備考	出土層位
1	縄文土器	深鉢	18.2	—	—	—	—	完全失調、加曾利E II	—

ビット出土遺物觀察表

No	器種	器形	法 口径(長) 底径(短)	法 器高(厚) 底高(短)	量 (重量)	内面	成形・調整 外面	備考	出土層位
1	土師器	环	—	5.6 <1.3>	—	—	—	完全失調	P 4
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	完全失調、平安時代	P 4
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	完全失調	P 4
1	石器	石繩	<1.7>	1.5	0.3	0.6	—	破片失調・柘本、曾利II	P 7
1	石器	砥石	<20.5>	<12.7>	5.1	2303	砥面一面	完全失調、黒曜石	P 13
1	陶器	丸皿	—	(5.8)	2.2	—	瀬戸・美濃	回転失調、17世紀	P 14
1	土師器	环	—	(5.6)	<1.8>	—	—	完全失調	P 29
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	—	—	破片失調・柘本、後期	P 30

遺構外出土遺物類別表(1)

No.	番種	器形	口径(長) 深さ	法 量	高さ(底径) (底深)	(重量) (重量)	内面		外 面		出土層位
							沈痕	底面	底面	底面	
1	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	沈痕文	拓本、加曾利 II	Z		
2	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	S字彫痕文・R燃糸軸轆	拓本、加曾利 II	H4b		
3	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	渦巻き沈痕文	拓本、加曾利 II	Z		
4	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	沈痕文	拓本、中崩後半	E11a		
5	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	沈痕文	拓本、中崩後半	H10a		
6	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	S字彫痕文・沈痕文	拓本、中崩後半	H10c		
7	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	沈痕文	拓本、中崩後半	H11a		
8	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	沈痕文	拓本、加曾利 III	H12 地上		
9	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	沈痕文	拓本、加曾利 II	J11a		
10	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	継・横条縫	拓本、曾利 V?			
11	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	蛇行沈痕文・RL彌文	拓本、曾利 II	I6a		
12	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	竹簡目文	拓本、曾利 I	J10G		
13	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	隆形刻み・R燃糸軸轆	拓本、曾利 I	I6d		
14	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	LR彌文・腰帶	拓本、曾利 I	Z		
15	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	隆形刻み・沈痕文	拓本、中崩後半	Z		
16	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	沈痕文・R燃糸軸轆	拓本、加曾利 I	D10a カクラン		
17	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	R燃糸軸轆	拓本、加曾利 I	H10 カクラン		
18	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	半散竹管の輪條痕文・RL彌文	拓本、加曾利 E	D8a		
19	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	半散竹管の輪條痕文・RL彌文	拓本、加曾利 E	D10a カクラン		
20	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	横方彌文	拓本、加曾利 E	I8d		
21	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	渦巻き沈痕文・RL彌文	拓本、加曾利 E	H9c		
22	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	沈痕文・RL彌文	拓本、加曾利 E	J5c		
23	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	半散竹管の輪條痕文・RL彌文	拓本、加曾利 E	G3a		
24	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	半散竹管の輪條痕文・RL彌文	拓本、加曾利 E	H9c		
25	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	沈痕文・RL彌文	拓本、加曾利 E	H12 地上		
26	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	沈痕文・RL彌文	拓本、加曾利 III	H12 地上		
27	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	条痕	拓本、曾利 II	H12b		
28	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	条痕・鰐口状沈痕文	拓本、鰐口	D10a カクラン		
29	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	沈痕文・RL彌文	拓本、加曾利 E	F7c		
30	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	RL彌文	拓本、中崩後半	II区		
31	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	沈痕文・LR彌文	拓本、中崩後半	I6a		
32	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	刻込み腰帶・沈痕文	拓本、井戸原	D9c カクラン		
33	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	LR非對彌文	拓本、前削	G6a		
34	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	横形刻み沈痕文	拓本、唐草文系	M4d		
35	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	横形刻み沈痕文	拓本、唐草文系	H9b		
36	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	横形刻み沈痕文	拓本、唐草文系	D8d カクラン		
37	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	横形刻み沈痕文	拓本、唐草文系	D8d カクラン		
38	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	蛇行沈痕・沈痕文	拓本、曾利	H11a		
39	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	沈痕文・うろこ状沈痕文	拓本、鄭氏	M3d		
40	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	条痕	拓本、曾利	M2		
41	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	母子把手	拓本、名寺	G5a カクラン		
42	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	沈痕文・RL彌文・突起	拓本、名寺	I12b		
43	縦文土器	深鉢	-	-	-	-	隆痕	拓本、名寺	G9a		

通棟外出土遺物類別表(2)

No.	系種	器形	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	(重さ) (g)	内面		成形・調整		位置	備考
							沈	縫	外面			
44	埴文土器	深鉢	-	-	-	-	沈縫文・LR縫文	-	破片・拓本、移名寺	破片・拓本、移名寺	D7a カクラン	
45	埴文土器	深鉢	-	-	-	-	突起	-	破片・拓本、移名寺	破片・拓本、移名寺	H10d	
46	埴文土器	深鉢	-	-	-	-	沈縫文・RL縫文	-	破片・拓本、移名寺	破片・拓本、移名寺	H12a	
47	埴文土器	深鉢	-	-	-	-	沈縫文・LR縫文	-	破片・拓本、移名寺	破片・拓本、移名寺	H12 地上	
48	埴文土器	深鉢	-	-	-	-	沈縫文・LR縫文	-	破片・拓本、移名寺	破片・拓本、移名寺	H12 地上	
49	埴文土器	深鉢	-	-	-	-	隆縫文・LR縫文	-	破片・拓本、移名寺	破片・拓本、移名寺	D9c カクラン	
50	埴文土器	深鉢	-	-	-	-	沈縫文・LR縫文	-	破片・拓本、移名寺	破片・拓本、移名寺	P3d	
51	埴文土器	深鉢	-	-	-	-	隆縫文・LR縫文	-	破片・拓本、移名寺	破片・拓本、移名寺	I9b	
52	埴文土器	深鉢	-	-	-	-	沈縫文・LR縫文	-	破片・拓本、移名寺	破片・拓本、移名寺	H12b	
53	埴文土器	深鉢	-	-	-	-	沈縫文・LR縫文	-	破片・拓本、移名寺	破片・拓本、移名寺	D9d	
54	埴文土器	深鉢	-	-	-	-	沈縫文・LR縫文	-	破片・拓本、移名寺	破片・拓本、移名寺	I9c	
35	埴文土器	深鉢	-	-	-	-	沈縫文・RL縫文	-	破片・拓本、移名寺	破片・拓本、移名寺	Z	
56	埴文土器	深鉢	-	-	-	-	沈縫文・RL縫文	-	破片・拓本、移名寺	破片・拓本、移名寺	覆土	
37	埴文土器	深鉢	-	-	-	-	沈縫文・LR縫文	-	破片・拓本、移名寺	破片・拓本、移名寺	H12b	
38	埴文土器	深鉢	-	-	-	-	沈縫文・LR縫文	-	破片・拓本、移名寺	破片・拓本、移名寺	G5a カクラン・J12a	
59	埴文土器	深鉢	-	-	-	-	沈縫文・LR縫文	-	破片・拓本、移名寺	破片・拓本、移名寺	I12	
60	埴文土器	深鉢	-	-	-	-	沈縫文・LR縫文	-	破片・拓本、移名寺	破片・拓本、移名寺	H12 地上	
61	埴文土器	深鉢	-	-	-	-	沈縫文・LR縫文	-	破片・拓本、移名寺	破片・拓本、移名寺	E10d	
62	埴文土器	深鉢	-	-	-	-	沈縫文・LR縫文	-	破片・拓本、移名寺	破片・拓本、移名寺	I12a	
63	埴文土器	深鉢	-	-	-	-	沈縫文	-	破片・拓本・後期	破片・拓本・後期	H10a	
64	埴文土器	深鉢	-	-	-	-	隆縫文	-	回転・切削・後期	回転・切削・後期	I9c	
65	埴文土器	深鉢	-	-	(8.2)	<4.0s	RL縫文	-	破片・拓本、移名寺	破片・拓本、移名寺	H12 地上	
66	埴文土器	深鉢	-	-	-	-	沈縫文	-	破片・拓本、中堅中葉	破片・拓本、中堅中葉	G6a	
67	埴文土器	灼土鉢	-	-	-	-	玉抱き・三叉文	-	黑色見理	圓底糸切	I9c	
68	土師器	环	-	-	(6.4)	<2.1s	-	-	-	-	Z	
69	土師器	かわらけ	(10.0)	(5.8)	3.0	-	-	-	-	-	E10c	
70	土師器	釜	(24.2)	-	<11.0s	-	ヘラナデ	-	-	ヘラナデ→ナデ	L3b	
71	土師器	内耳鍋	-	-	-	-	-	-	-	-	Z	
72	土師器	土鍋	-	-	-	-	-	-	-	-	G11d	
73	土師器	土鍋	-	-	-	-	-	-	-	-	D10b	
74	土師器	土鍋	-	-	-	-	-	-	-	-	D9c カクラン	
75	土師器	釜	-	-	-	-	-	-	-	-	B12 カクラン	
76	灰陶陶器	皿	(7.5)	-	-	-	-	-	-	-	J5b	
77	陶器	擂鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	II 区	
78	陶器	擂鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	I 区	
79	陶器	皿	-	-	-	-	-	-	-	-	F8A	
80	陶器	?	-	-	-	-	-	-	-	-	E9a カクラン	
81	陶器	擂鉢	-	-	-	-	-	-	-	-	G6d	
82	陶器	?	-	-	-	-	-	-	-	-	G11	
83	陶器	碗	-	-	-	-	-	-	-	-	覆土	
84	陶器	?	-	-	-	-	-	-	-	-	完全未測	
85	石器・石製品	石礫	<1.9s	<1.7s	<0.3s	<1.0s	黒曜石	0.6	1.1	完全未測	F7c	
86	石器・石製品	石礫	1.8	1.4	0.6	-	-	-	-	-	F11b	

遺傳外出土遺物類別表(3)

No.	器種	形	法			(重)	量	成形・調整		備考	出土層位
			口径(径)	底径(粗)	高(厚)			内面	外面		
87	石器・石製品	石繩	<2.4>	<1.7>	0.4	<0.9>	チヤート	完全実測		112a	
88	石器・石製品	石繩	3.0	<1.9>	0.5	<1.8>	チヤート	完全実測		F5c	
89	石器・石製品	石繩	<2.2>	<2.5>	<0.6>	<2.5>	輪廓質安山岩	完全実測		Z	
90	石器・石製品	石繩	<2.7>	<1.2>	<0.4>	<1.0>	山岩	完全実測		D12a	
91	石器・石製品	打製石斧	<3.9>	<3.2>	<1.0>	<11.9g>		完全実測		Z	
92	石器・石製品	打製石斧	<4.3>	3.8	1.5	<29.4g>		完全実測		E10b カクラン	
93	石器・石製品	打製石斧	<5.4>	3.7	1.45	<28.2g>		完全実測		Z	
94	石器・石製品	打製石斧	<4.9>	4.7	9.5	<23.2g>		完全実測		G5a カクラン	
95	石器・石製品	打製石斧	<4.6>	4.85	1.9	<5.31g>		完全実測		Z	
96	石器・石製品	打製石斧	<4.5>	4.2	0.8	<24.6g>		完全実測		I9a	
97	石器・石製品	打製石斧	<4.7>	5.3	2.0	<71.5g>		完全実測		E10G カクラン	
98	石器・石製品	打製石斧	<6.5>	<3.7>	1.0	<25.4g>		完全実測		H12G	
99	石器・石製品	打製石斧	<5.3>	<2.8>	0.8	<16.0g>		完全実測		H12a	
100	石器・石製品	打製石斧	<5.2>	<5.2>	<1.8>	<6.17g>		完全実測		F16b	
101	石器・石製品	打製石斧	<6.9>	<4.8>	<1.9>	<59.5g>		完全実測		H10a	
102	石器・石製品	打製石斧	<6.2>	5.3	1.5	<61.5g>		完全実測		Z	
103	石器・石製品	打製石斧	6.8	<6.9>	0.7	<35.2g>		完全実測		H6a	
104	石器・石製品	打製石斧	<6.55>	5.5	1.1	<52.2g>		完全実測		Z	
105	石器・石製品	打製石斧	7.9	4.9	1.2	<47.8g>		完全実測		H11c	
106	石器・石製品	打製石斧	<6.3>	4.4	2.8	<80.0g>		完全実測		P1a	
107	石器・石製品	打製石斧	<6.2>	4.7	1.3	<67.3g>		完全実測		B12G カクラン	
108	石器・石製品	打製石斧	<6.1>	5.2	1.45	<49.5g>		完全実測		J8c	
109	石器・石製品	打製石斧	<6.9>	4.7	1.8	<69.7g>		完全実測		H10b	
110	石器・石製品	打製石斧	<7.3>	7.9	1.8	<118.2g>		完全実測		D10a カクラン	
111	石器・石製品	打製石斧	<8.6>	4.0	2.3	<88.2g>		完全実測		L1c	
112	石器・石製品	打製石斧	<8.5>	4.2	2.5	<114.6g>		完全実測		D9d	
113	石器・石製品	打製石斧	<8.3>	5.8	1.15	<99.0g>		完全実測		D10a	
114	石器・石製品	打製石斧	<9.5>	4.7	1.3	<105.8g>		完全実測		M2d	
115	石器・石製品	打製石斧	9.3	4.6	2.6	141.7 下部欠損		完全実測		C10c カクラン	
116	石器・石製品	打製石斧	<10.1>	5.4	1.35	<101.7g>		完全実測		I1K H10a	
117	石器・石製品	打製石斧	<10.25>	6.55	1.2	<87.7g>		完全実測		I2・17Z	
118	石器・石製品	磨・敲石	12.2	8.6	3.0	452.8 花崗		完全実測		Z	
119	石器・石製品	凹・削・敲石	14.2	7.4	3.5	615.7 磐面2		完全実測		H12a	
120	石器・石製品	砥石或石皿	<15.7>	<23.3>	6.5	<2980.0g> 磐面1、被擦有、蝶付着		完全実測		I7d	
121	石器・石製品	砥石	4.45	<3.45>	0.8	<18.0g> 磐面1?		完全実測		D10a カクラン	
122	石器・石製品	砥石	<4.0>	3.2	1.4	<29.3g> 磐面2		完全実測		G5a カクラン	
123	石器・石製品	砥石	4.9	<3.9>	1.4	<29.3g> 磐面1		完全実測		H12b	
124	石器・石製品	砥石	<5.3>	3.3	0.7	<22.2g> 磐面1		完全実測		I2・17Z	
125	石器・石製品	砥石	<4.9>	5.0	3.7	<170.5g> 磐面2		完全実測		F11d	
126	石器・石製品	砥石	2.3	6.5	1.1	24.2		完全実測		F5b	
127	石器・石製品	砥石	<4.6>	<5.5>	2.0	<87.0g> 磐面1		完全実測		H8d	
128	石器・石製品	砥石	11.3	10.0	2.7	<63.5g> 磐面1		完全実測		G7a	
129	石器・石製品	砥石								D10a	

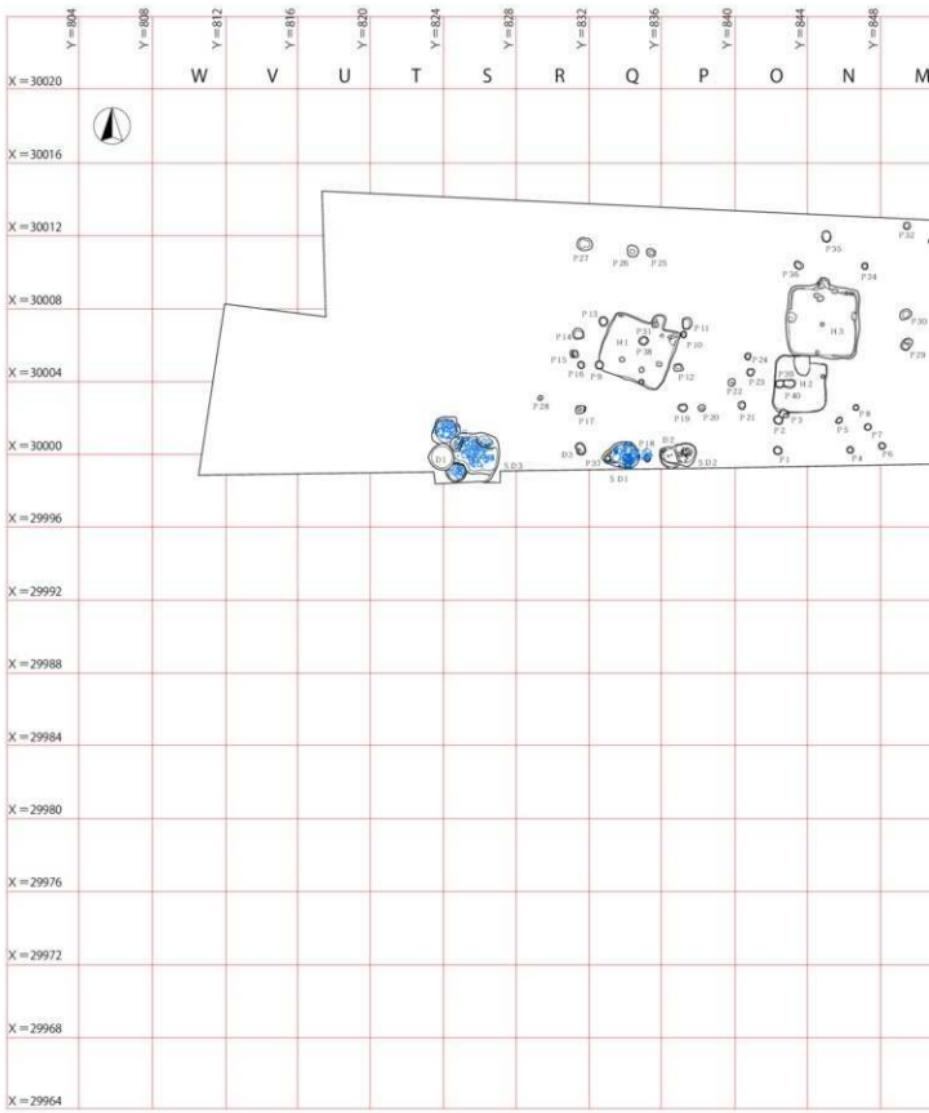
遺構外出土遺物類別表(4)

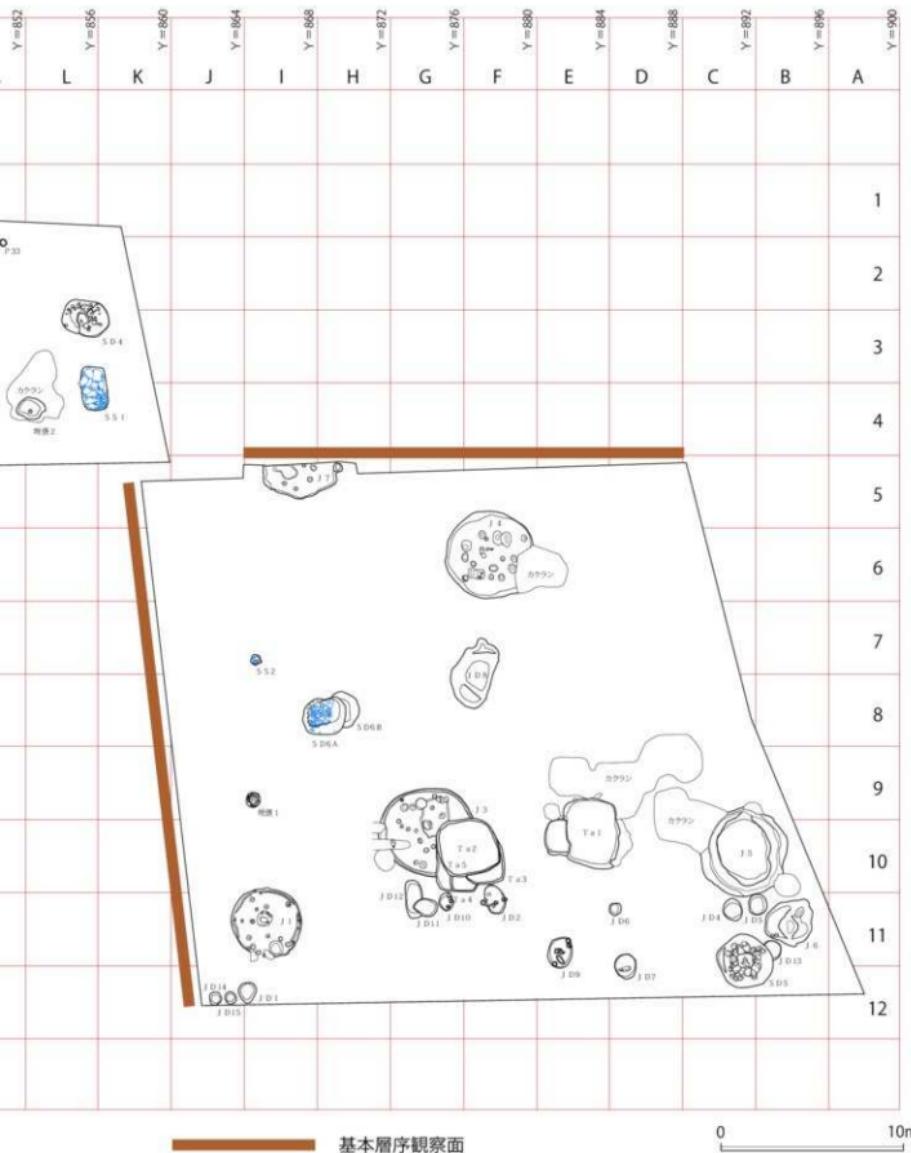
No.	器種	器形	口径(φ) 法寸	底径(φ) 法寸	高さ (mm) 法寸	重量 (kg) (重さ)	内面	外面	成形・調整	備考	出土層位
130	石器・石製品	砥石	12.0	<9.9>	3.5	<762.6> <762.6> 砥面1	完全剥離	完全剥離	完全剥離	19b	
131	石器・石製品	砥石	<13.7>	<12.6>	<8.8>	<572.1> <572.1> 砥面1、敲打痕	完全剥離	完全剥離	完全剥離	Z	
132	石器・石製品	砥石	<17.0>	<7.5>	<2.0>	<308.6> <308.6> 砥面1	完全剥離	完全剥離	完全剥離	I区J12a	
133	石器・石製品	加工痕のある削片	<2.9>	<2.9>	<1.4>	<9.6> <9.6> 研磨質安山岩	完全剥離	完全剥離	完全剥離	Z	
134	石器・石製品	加工痕のある削片	<3.7>	<2.5>	<0.9>	<8.6> <8.6> 直削	完全剥離	完全剥離	完全剥離	H12a	
135	石器・石製品	加工痕のある削片	<3.5>	<2.4>	<1.6>	<13.9> <13.9> 研磨質安山岩	完全剥離	完全剥離	完全剥離	Z	
136	石器・石製品	加工痕のある削片	<3.6>	<2.9>	<1.1>	<13.9> <13.9> 研磨質安山岩	完全剥離	完全剥離	完全剥離	Z	
137	石器・石製品	加工痕のある削片	<3.1>	<3.5>	<0.9>	<10.6> <10.6> 研磨質安山岩	完全剥離	完全剥離	完全剥離	F12a	
138	石器・石製品	加工痕のある削片	<3.5>	<3.4>	<1.25>	<14.7> <14.7> 研磨質安山岩	完全剥離	完全剥離	完全剥離	H10c	
139	石器・石製品	加工痕のある削片	<3.6>	<3.8>	<2.4>	<27.5> <27.5> チヤート	完全剥離	完全剥離	完全剥離	F16b	
140	石器・石製品	加工痕のある削片	<4.0>	<5.3>	<0.9>	<16.5> <16.5> 研磨質安山岩	完全剥離	完全剥離	完全剥離	D10aカクラン	
141	石器・石製品	加工痕のある削片	<4.0>	<5.03>	<0.9>	<19.0> <19.0> 直削	完全剥離	完全剥離	完全剥離	D9b	
142	石器・石製品	加工痕のある削片	<4.5>	<4.8>	<1.1>	<31.4> <31.4> 直削	完全剥離	完全剥離	完全剥離	B12aカクラン	
143	石器・石製品	加工痕のある削片	<4.0>	<5.8>	<0.9>	<17.5> <17.5> 黒色頁岩	完全剥離	完全剥離	完全剥離	I5d	
144	石器・石製品	加工痕のある削片	<6.1>	<4.1>	<1.3>	<34.5> <34.5> 研磨質安山岩	完全剥離	完全剥離	完全剥離	D11a	
145	石器・石製品	加工痕のある削片	<5.0>	<4.5>	<1.3>	<32.2> <32.2> 研磨質安山岩	完全剥離	完全剥離	完全剥離	H12G7	
146	石器・石製品	加工痕のある削片	<5.3>	<4.3>	<1.7>	<35.0> <35.0> 研磨質安山岩	完全剥離	完全剥離	完全剥離	F7c	
147	石器・石製品	加工痕のある削片	<7.3>	<4.1>	<0.9>	<31.7> <31.7> 研磨質安山岩	完全剥離	完全剥離	完全剥離	H11c	
148	石器・石製品	加工痕のある削片	<7.3>	<5.8>	<1.4>	<61.4> <61.4> 研磨質安山岩	完全剥離	完全剥離	完全剥離	H10Gカクラン	
149	石器・石製品	加工痕のある削片	<5.9>	<3.9>	<1.1>	<26.3> <26.3> 研磨質安山岩	完全剥離	完全剥離	完全剥離	H12b	
150	石器・石製品	加工痕のある削片	<6.2>	<3.3>	<0.8>	<18.4> <18.4> 研磨質安山岩	完全剥離	完全剥離	完全剥離	H10a	
151	石器・石製品	石錐	<5.7>	<5.2>	<1.95>	<73.5> <73.5> 直削	完全剥離	完全剥離	完全剥離	C12a	
152	石器・石製品	加工痕のある削片	<6.4>	5.7	1.3	<55.4> <55.4> 焼付着	完全剥離	完全剥離	完全剥離	Z	
153	銅製品	古鏡	2.4	2.4	1.0	<29> <29> 「新嘗元寶」篆	完全剥離・柘木	完全剥離・柘木	完全剥離・柘木	P4d	
154	銅製品	古鏡	2.4	2.35	1.0	<32> <32> 「新嘗元寶」篆	D9g-G				

## 引用・参考文献

1978年 平根村誌  
1995年 佐久市志歴史編（一）原始・古代  
2005年 聖原遺跡 第5分冊  
2006年 文化としての縄文土器  
2008年 総覧 縄文土器

平根小学校  
佐久市志刊行会  
佐久市教育委員会  
（株）雄山閣  
（株）アム・プロモーション  
川崎保  
小林達雄





木道跡全体図







H 1号住居址



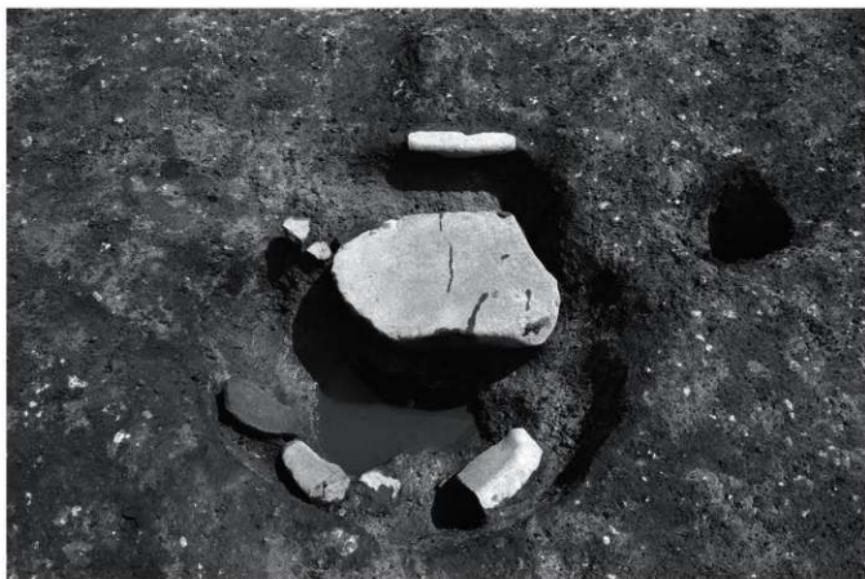
H 2号住居址



H 3号住居址



H 4号住居址



H 4号住居址炉



H 5号住居址



H 6号住居址



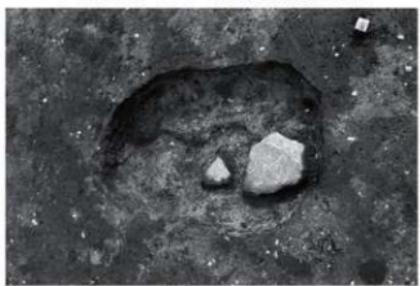
H 7号住居址



D 1号土坑、SD 3号集石土坑(石除去後)



D 2号土坑、SD 2号集石土坑



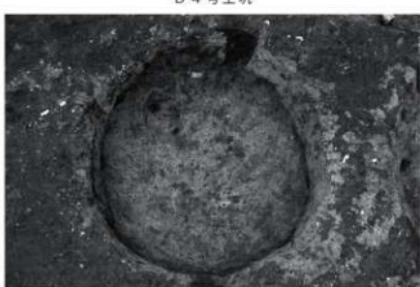
D 3号土坑



D 4号土坑



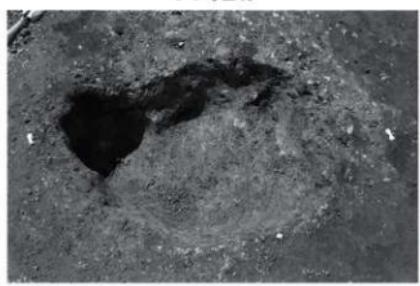
D 5号土坑



D 6号土坑



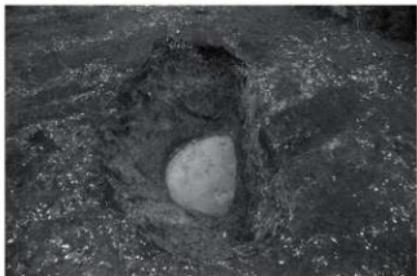
D 7号土坑



D 8号土坑



D 9号土坑



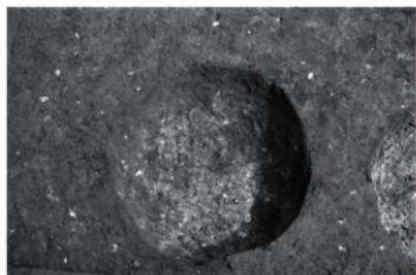
D 10号土坑



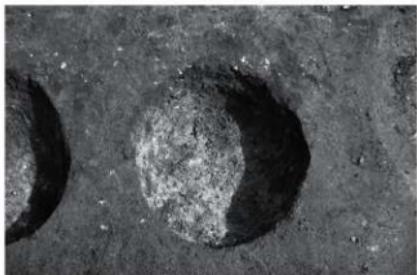
D 11号土坑



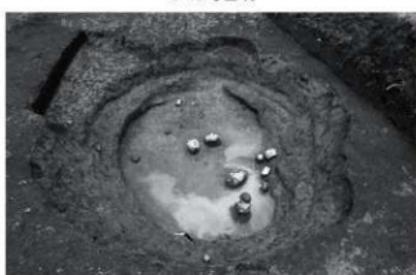
D 14号土坑



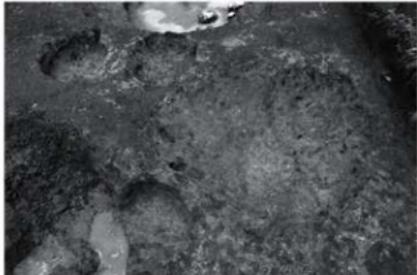
D 16号土坑



D 17号土坑



D 18号土坑



D 19号土坑



SD 1号集石土坑



SD 3号集石土坑



SD 4号集石土坑



SD 5号集石土坑 (井戸址)



SD 6号集石土坑、D 20号土坑



SD 7号集石土坑



SD 8号集石土坑



T a 1号竪穴建物址



T a 2・3・4・5号竪穴建物址



埋甕 1(検出状況)



埋甕 1(断面)



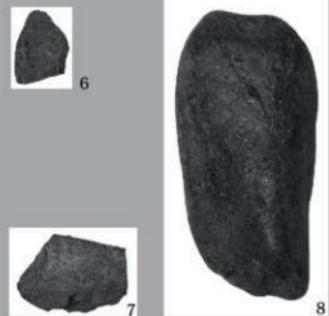
埋甕 2(断面)



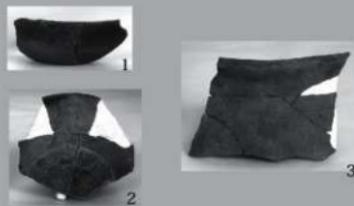
調査風景



調査風景



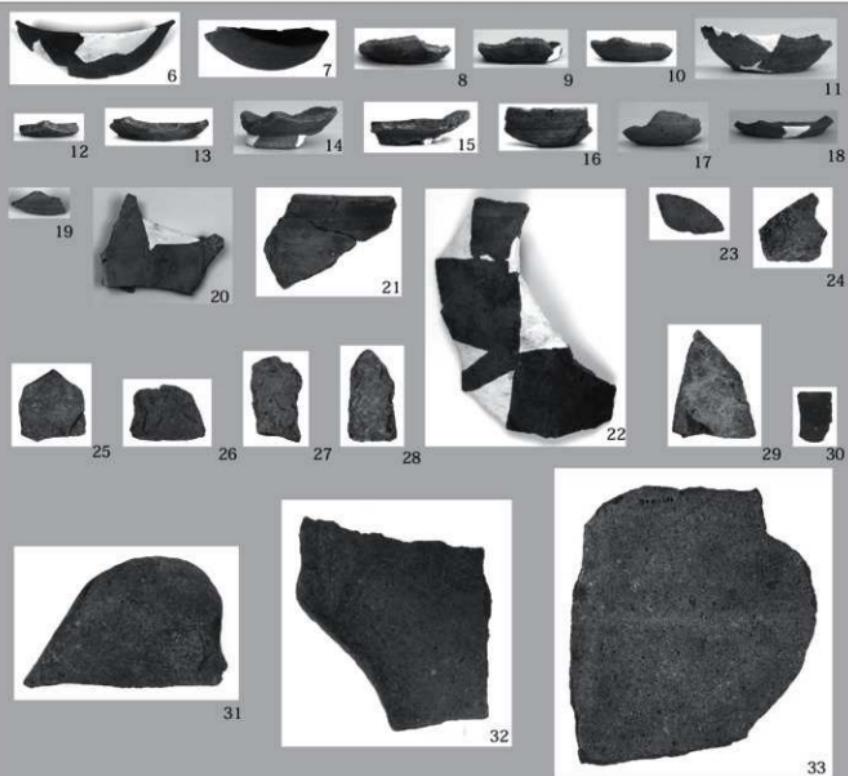
H 1号住居址出土遺物



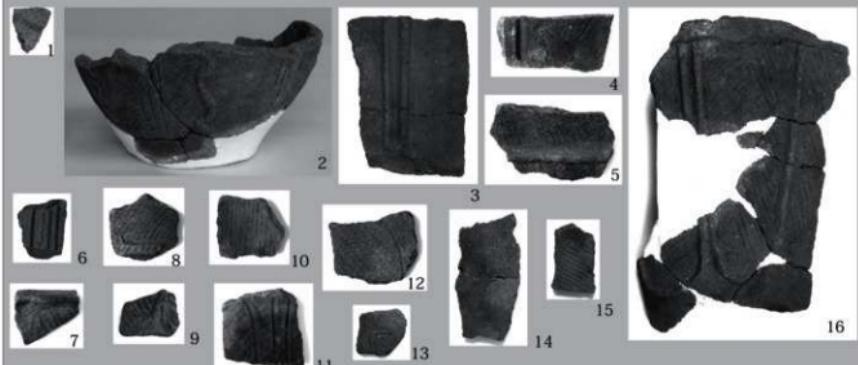
H 2号住居址出土遺物



H 3号住居址出土遺物（1）



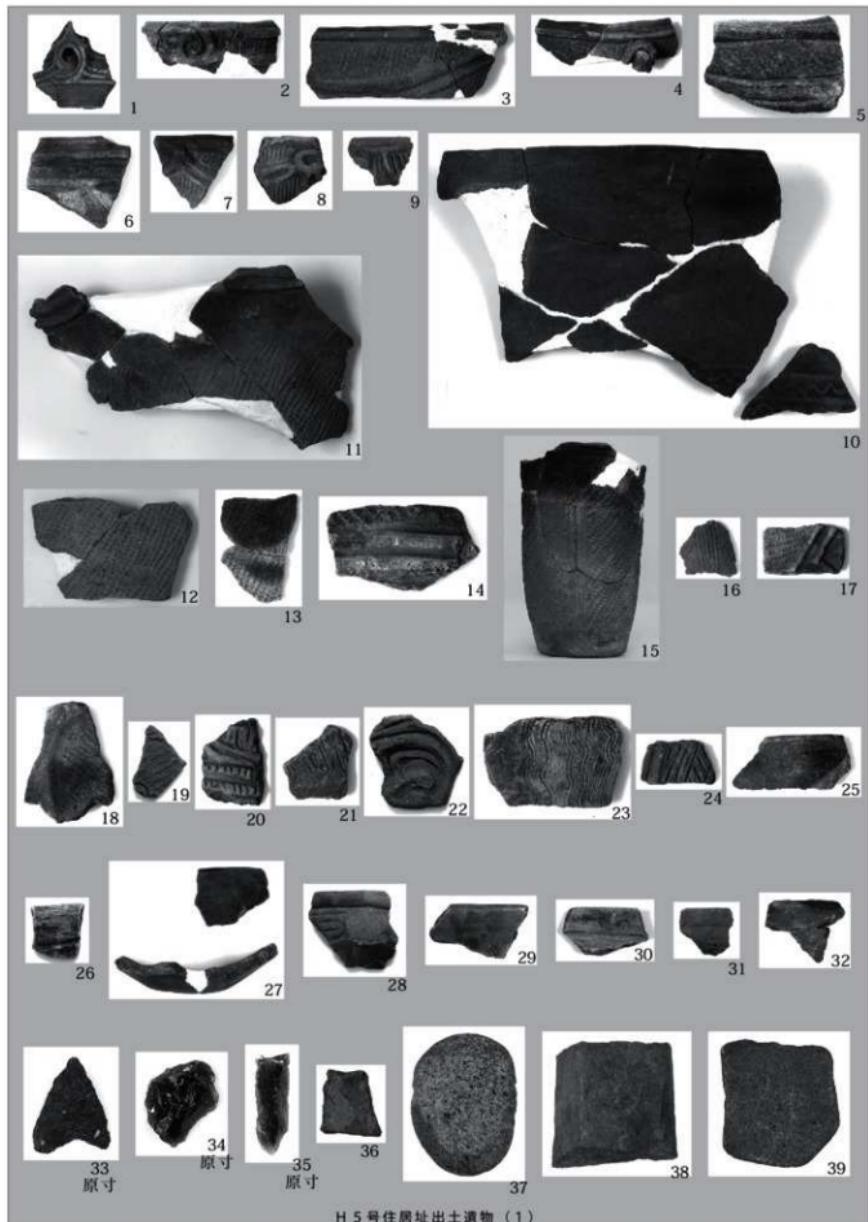
H 3号住居址出土遺物 (2)



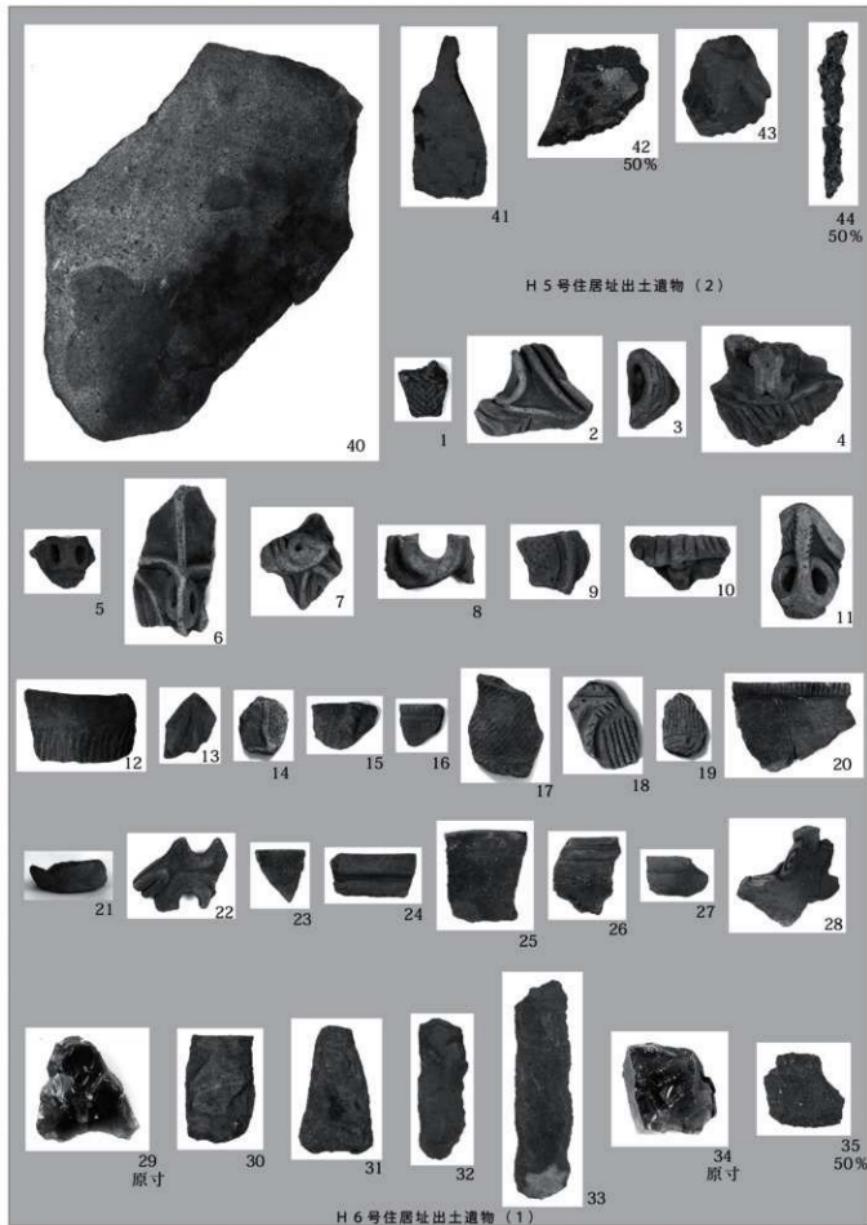
H 4号住居址出土遺物 (1)



H 4号住居址出土遺物（2）



H 5 号住居址出土遗物 (1)





H 6号住居址出土遗物 (2)



H 7号住居址出土遗物

D 2号土坑出土遗物

S D 2号土坑出土遗物



D 3号土坑出土遗物



D 4号土坑出土遗物



D 5号土坑出土遺物



D 6号土坑出土遺物



D 7号土坑出土遺物



D 9号土坑出土遺物

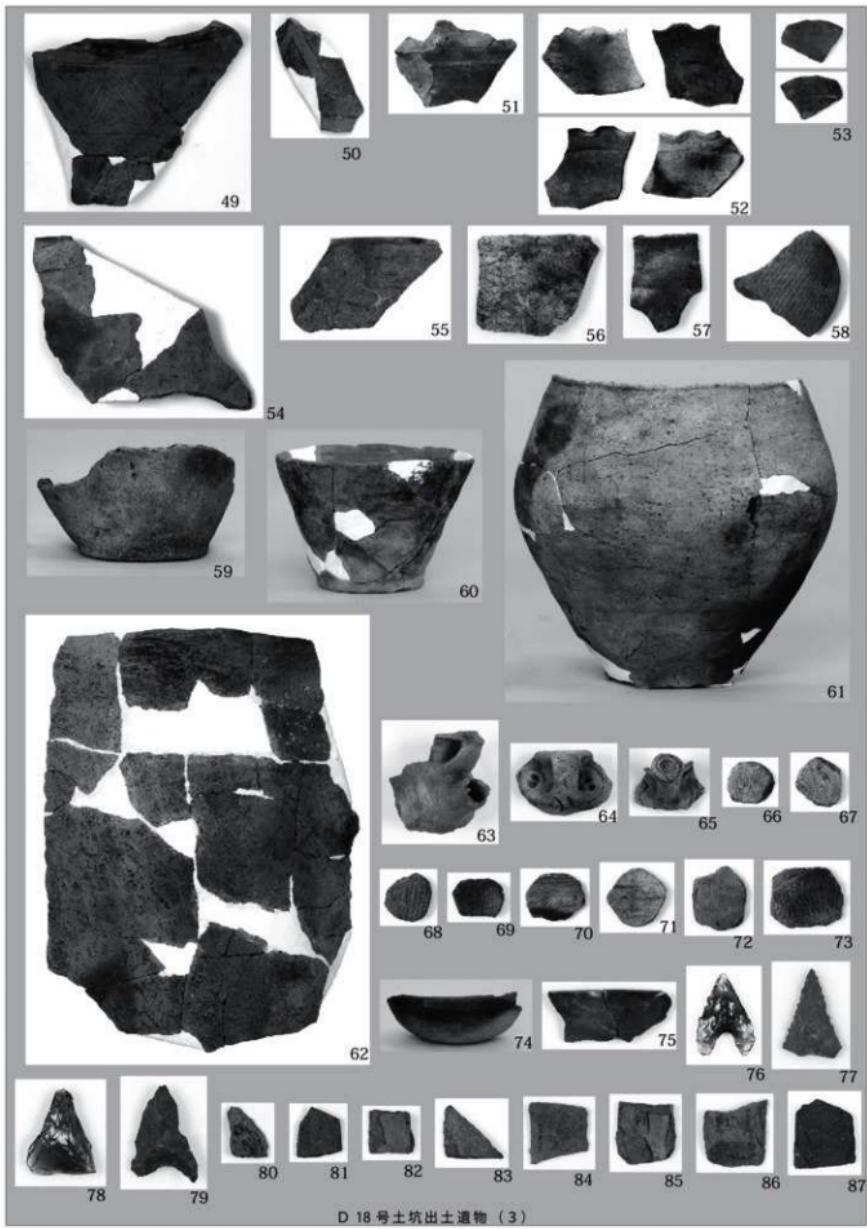


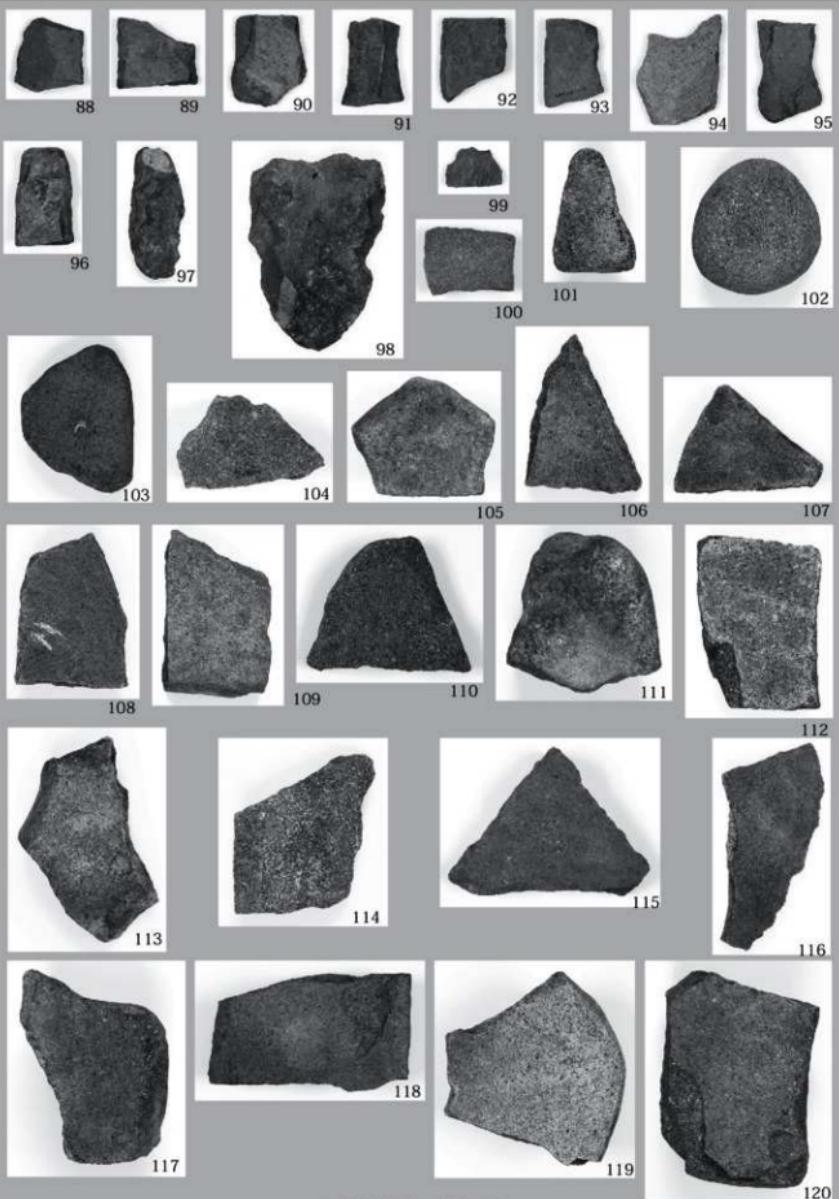
D 15号土坑出土遺物

D 18号土坑出土遺物 (1)



D 18 号土坑出土遗物 (2)





D 18 号土坑出土遗物 (4)



121



122



124



123

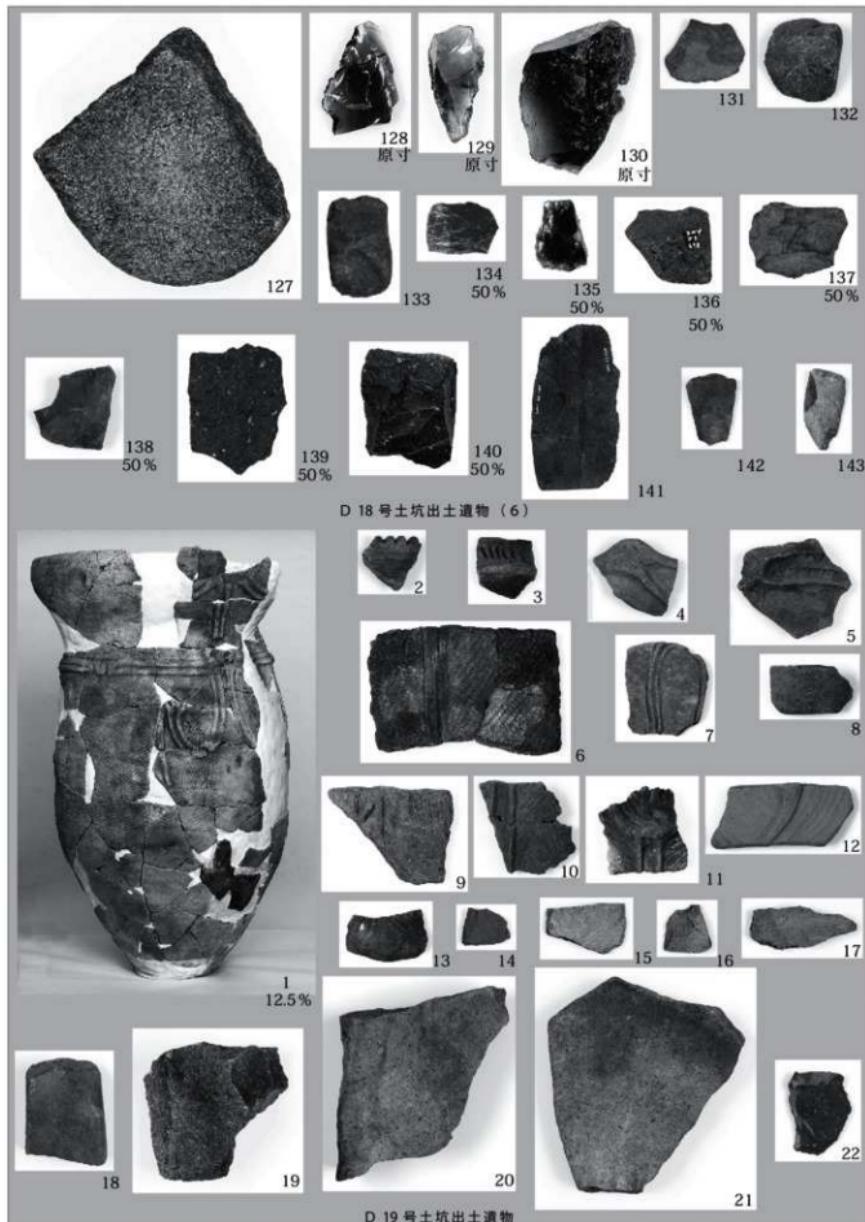


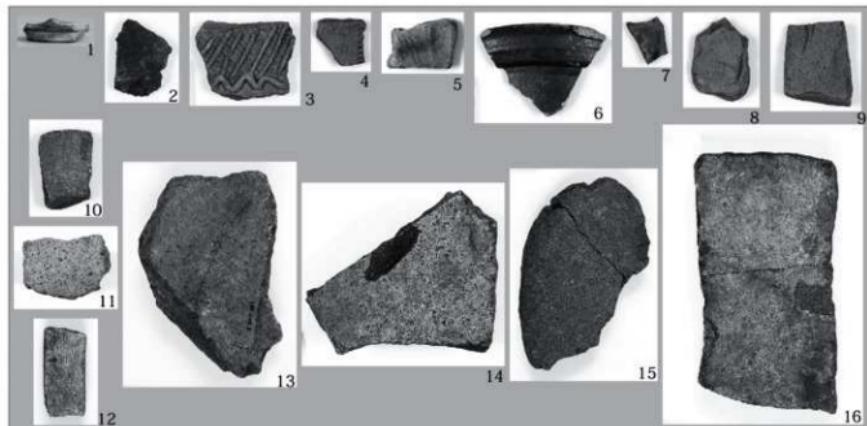
125



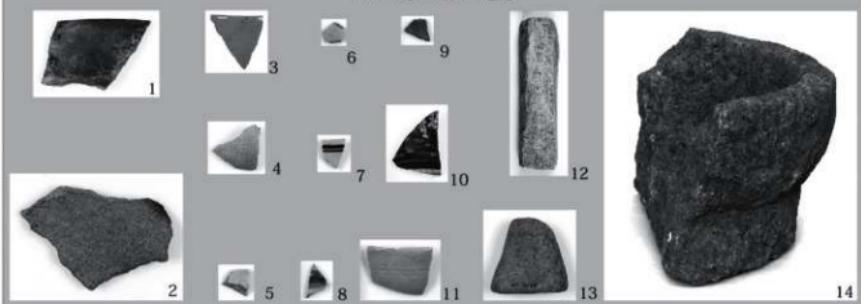
126

D 18号土坑出土遺物 (5)

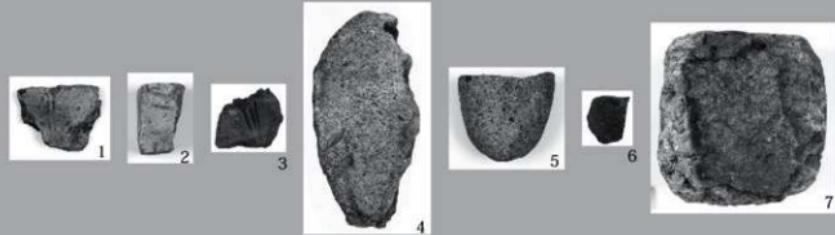




S D 1 号土坑出土遺物



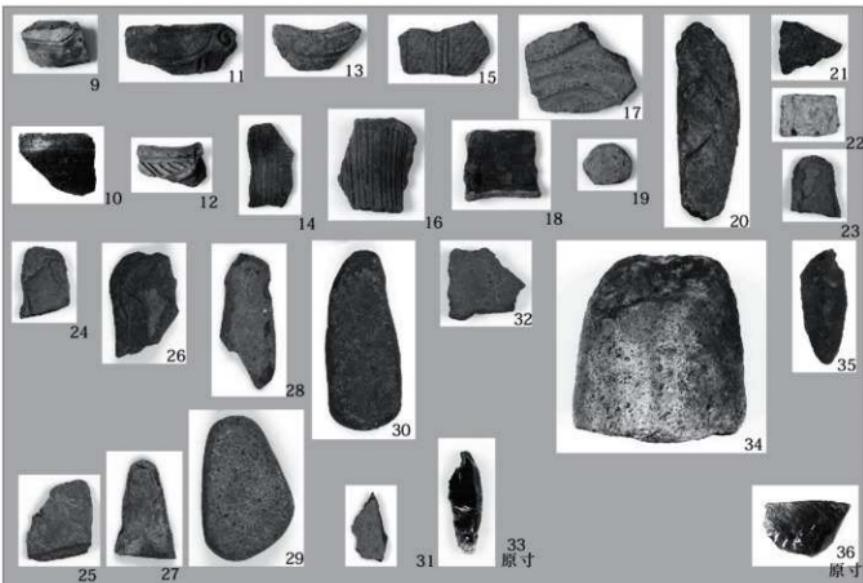
S D 3 号土坑出土遺物



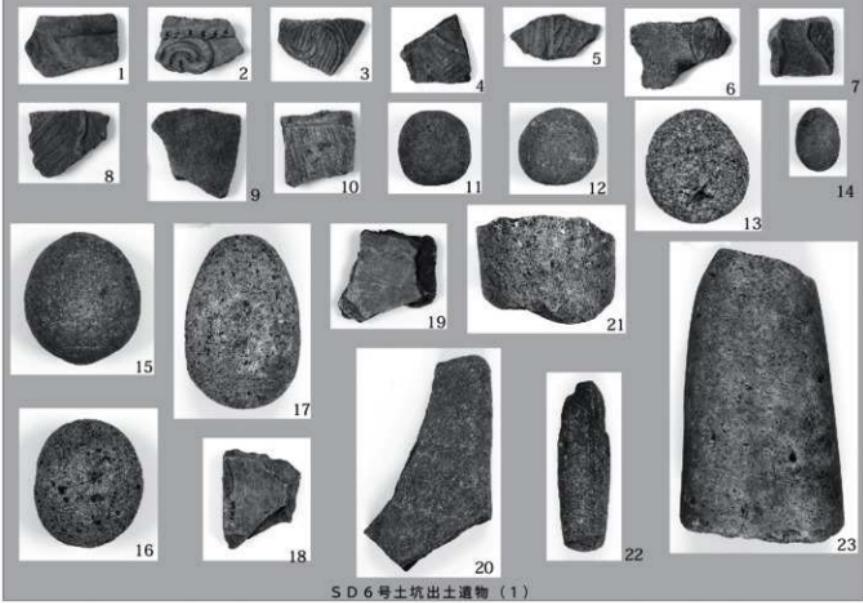
S D 4 号土坑出土遺物



S D 5 号土坑出土遺物 (1)



S D 5 号土坑出土遗物 (2)



S D 6 号土坑出土遗物 (1)



S D 6 号土坑出土遺物 (2)

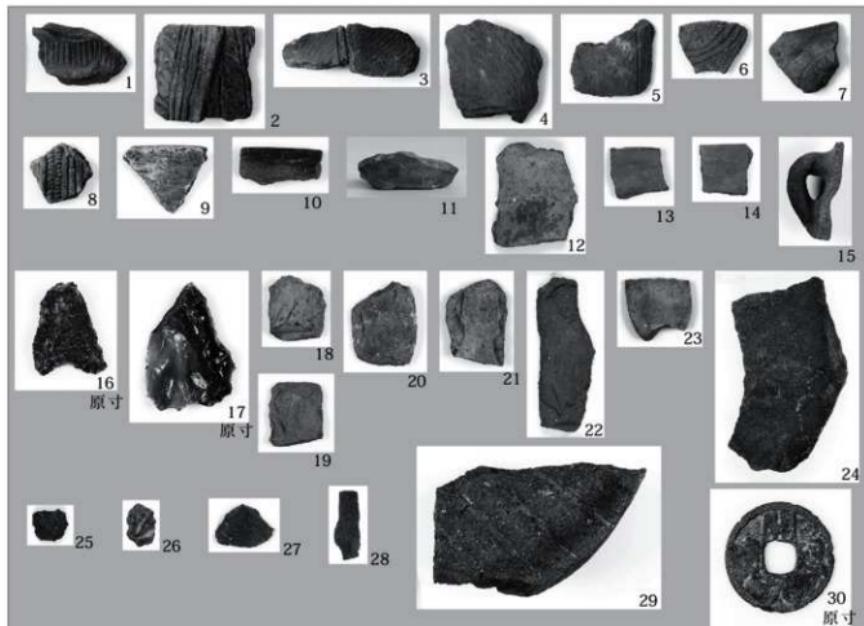


S D 7 号土坑出土遺物

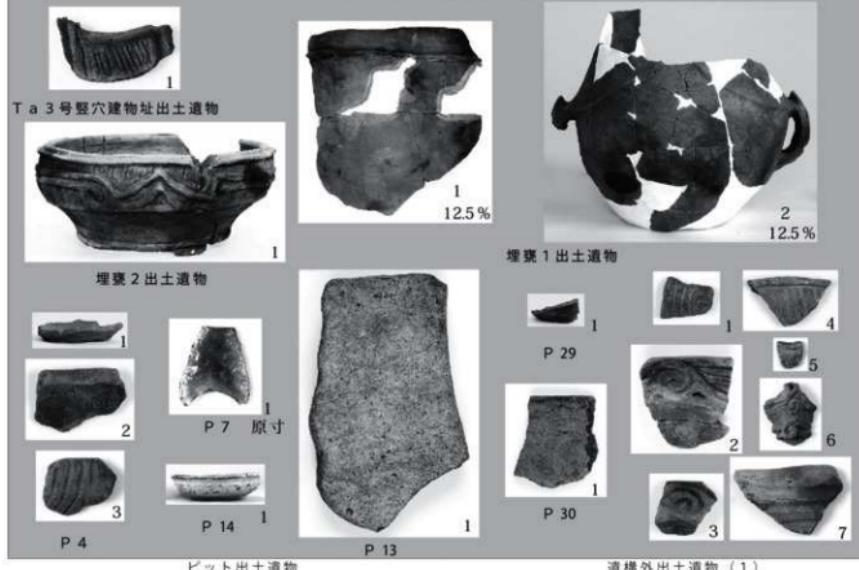


S D 8 号土坑出土遺物

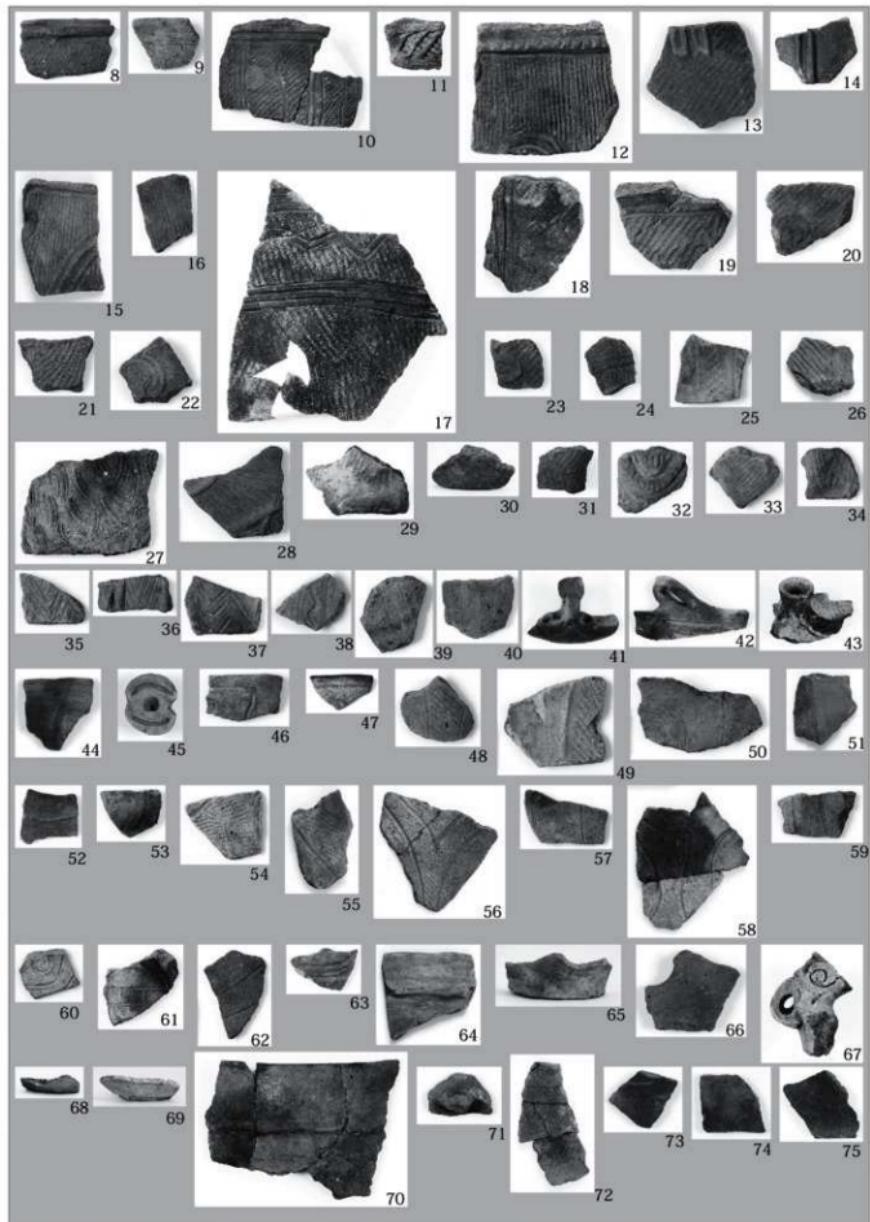
T a. 1 号竖穴建物址出土遺物



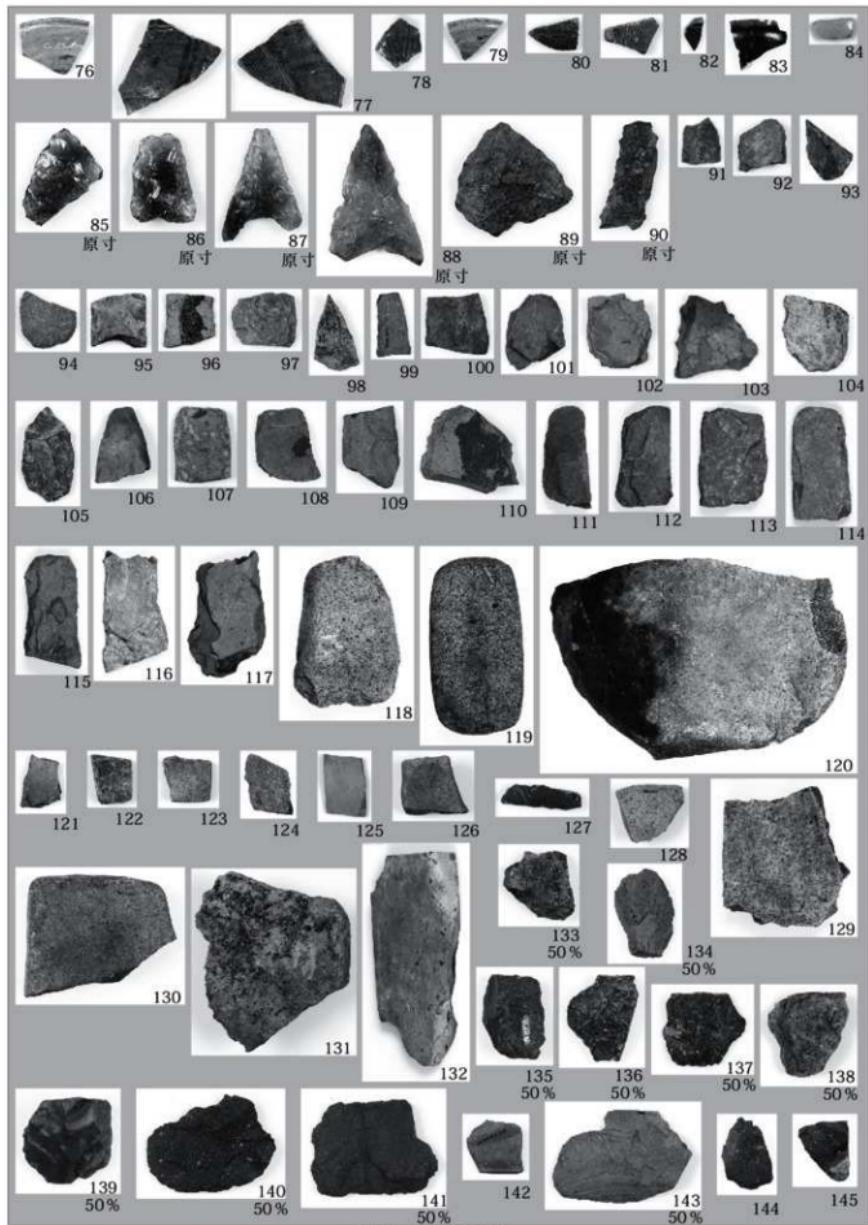
T a 2号竪穴建物址出土遺物



遺構外出土遺物 (1)



道構外出土遺物（2）



遺構外出土遺物（3）



遺構外出土遺物 (4)

## 報告書抄録

ふりがな	ひがしむらいせきぐん やまぶしきいせき
書名	東村遺跡群 山伏木道跡
調書名	—
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
巻次	第256集
編集者名	小林眞寿
編集機関	佐久市教育委員会
所在地	〒385-0006 長野県佐久市中込2913 TEL 0267-63-5321
発行年月日	2019年3月31日

ふりがな	ふりがな	コ	一	ド	北	緯	東	経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	在	地	市	町	村	遺跡番号			999年6月28日 ～		
ひがしむらいせき	なかのけんさくしおおあざしもひらおやまとしげ12746ほか										
山伏木道跡	長野県佐久市大字下平尾山伏木 1274-6 他		20217		131-1	36°16'24"	138°30'24"		2019年3月31日	1,900m <sup>2</sup>	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
山伏木道跡	集落	縄文・平安・中近世	竪穴住居址7軒・土坑20基・集石土坑8基 埋甕2基・竪穴建物址5・ピット42基	縄文土器・土師器・石器 陶磁器	—
要約	沖積地における縄文集落の調査。				

---

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第256集

東村遺跡群

山伏木遺跡

平成31年（2019）3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

社会教育部 文化振興課文化財事務所

〒385-0051 長野県佐久市中込2913

Tel.0267-63-5321

印刷所

---









